服丁・元大工町・三島屋敷・そきや丁・檜物町・上槇丁・北槇丁・富槇丁・南槇丁・桶丁一二・南大工町・南かぢ丁一二・狩野屋しん・たゝミ丁・五郎兵衛丁・北さやてう・まきがし、此火びくに橋まて止る。大通りハ、一二三四、中橋廣小路・南傳馬丁一二三、此火京橋まてとゐる。四日市の方藏屋敷ハ殘り、青物丁市場・萬町・青もの丁・木原店・音羽丁・平松丁・左内丁・小松丁・川せこく丁・新右衛門町・そく屋丁・くれまさ丁・岩倉丁・福しき丁・下まき丁・中橋うめたて地うけをひ地、大鋸丁・まさき丁・南さや丁・南ぬし丁・まつ川丁一二・そゞき丁・いなば丁・常盤丁・具足丁・柳丁・そミ丁・中の橋やけ落、竹河岸まてとまる。本材木丁ハ、壹丁目ゟ八丁目迄不殘燒る。此火白魚橋まてとまる。細川若狹守樣〇利永。九鬼大隅守さま〇隆備。表がハ少々燒る。神田ぬし丁代地・新しろかね丁代地・松下丁代地不殘、松平越中守さま〇定敬。不殘、夫ゟ此邊上納地・代地ゐまたゐきとも不殘燒、八町堀ハ御組屋敷大てん、をかさわ丁不殘、南八丁堀一丁目ゟ代地不殘、五丁目まで、龜澤丁のこらず、水たに丁壹丁目・二丁目・北こんや丁不殘、金六丁・龜島丁・本八丁堀ハ一二三四五・さいそひ丁・ひゞや丁・長島丁、此火鐵炮洲へ移り、南八丁堀一二三四五殘らず兩かハ、中の橋落る。夫ゟ本多主膳正樣〇康穰。御屋敷少々、朽木近江守さま〇綱張。井伊掃部頭さま〇直憲。松平阿波守樣〇蜂須賀齊裕。堀田相摸守さま〇正倫。松平遠江守樣〇忠興。御屋敷、内藤豐前守さま〇信民。中川修理大夫さま〇久昭。半燒、小細川さま少々殘る。本ミなと丁兩かハ殘らず、船まつ丁兩かハよりかさかハ丁、不殘、十けん丁・ゐかし丁、此火さむさ橋まてとまる。夫より佃島へ飛火いたし、島内大てん燒とまる。ころハ翌十一日ひる八ッ時過なり。やうやく人々安堵の思ひをなす。

出火場所里數まのむし　凡拾五六里餘なり。
燒落たる藏の數　凡百八十九なり。
怪我人の數　凡百貳十八人なり。

——見聞雜錄

同〇慶應二年十一月。九日、子、晴。
一、夜八ッ時過、神田永富町ゟ出火、安藤坂迄燒ル。直ニ行。佃島迄類燒。大火。

——佐野弘毅日誌

十一月十一日火災

八、十一月十一日火災　傳フル所左ノ如シ。

同〇慶應二年十一月。十一日。
一、今曉六ッ半時頃、新吉原ゟ出火ニ付、昇堂御用人鈴木安藝守殿・豐島伊勢守

殿・御納戸落合右衛門川北兵庫入來、四時頃鎭火。　――傳法院日並記

一、寅年（〇慶應二年。）十一月十一日曉六半過吉原出火。

西河岸北向の側小格子　　江戸町壹丁目庄助地借大桝屋いち後見　芳三郎

抱遊女きく事　八重菊　十四歳

下谷辻番屋敷文吉店　受人　定吉

同　人主　倉吉

右芳三郎居宅二階上り口ニ而、火を付候よし。椽の下一圓火ニ相成、夫ゟ掃除口ゟ出火致候。

長三町。幅平均一丁四十間程。

此度吉原燒失ニ付、同所遊女屋惣代之者、左場所ニ於而、一ヶ年之間假御免願、當廿日北御番所へ御願ニ罷出候處、訴狀上ヶ置候樣被二仰渡一候。

一、松島町。　一、淺草福井町裏通り。

一、淺草御門外里俗大代地裏通り一圓。

一、本所惣緣屋敷。　一、本所松井町。

一、深川八幡旅屋門前。　一、本所八郎兵衞屋敷。

一、同御船藏前町。

本文何れも圍仕度締り宜敷可レ仕候。

一、新大橋際中洲。

此場所築立、四方しがらと仕、三ヶ所ニ橋掛、川岸付ニ高塀補理、外ゟ見へざる程致し、築立出來之上ニ、爲二冥加一何樣之御用ニ而も被二仰付一次第相勤可レ申候。

一、淺草田町。

此場所、小前遊女屋假宅相願候。

一、淺草元鳥越町。

此三ヶ所、場所替追願致候。

右之通ニ御座候。以上。　――黑川秀波筆記

同（〇慶應二年十一月。）十一日明六時過、吉原江戸町一丁目娼家大桝屋いちが家より火出て西北風にて、同二丁目・揚屋町・京町一丁目・二丁目・角町へ燒込、搆の外非人頭圍の內へ飛火して、長三町餘、幅平均一町四十間程燒失し、晝四時頃鎭る。娼家の僑居は、深川永代寺門前・同仲町・山本町・黑江町等にて、二年の間免されたり。　――續武江年表

附記
慶應二年十一月十四日後火災
十二月十七日火災

同○慶應二年十一月。十一日朝五ッ時過、新吉原町出火、廓中不レ殘燒る。非人小屋少々燒る。　——見聞雜錄

同○慶應二年十一月。十一日、寅、曉、大風。
一、朝吉原丁出火。　——佐野弘毅日誌

〔附記〕
十四日（○慶應二年十一月）曉七時頃、土州侯出火、阿波侯へ燒込。　——齋藤月岑日記
同（○慶應二年十一月）晦日曉八時、淺草元鳥越火事、一町半、幅五十間程燒。甚內橋の南やけて、鳥越の社ハ恙なし。　——續武江年表

九、十二月十七日火災　上野東照社內出火ス。

十二月十七日○慶應二年。
今夜五時過、上野山內御宮御構內より出火ニ付、老中・若年寄中追々登城。
右同斷ニ付、爲二消防一美濃守○稻葉正邦。宅ゟ直ニ相越、鎭火ニ付、登城之上、卽刻退出。
右同斷ニ付、日光准后○慈性法親王。へ爲二御尋一御使平岡丹波守宅ゟ直ニ相越。　——慶喜公實紀

十七日○慶應二年十二月。夜六半頃、上の火事御宮回廊ゟ出火。　——齋藤月岑日記

同○慶應二年十二月。十七日、寅、晴。
一、夜中、上ノ御宮御供所出火。　——佐野弘毅日誌

〔附記〕　續武江年表ニ、
同（○慶應二年十二月）廿七日曉、北大風、寅刻、北品川步行新宿錢湯の家より出火して、南品川マテ旅舍の大廈大抵燒亡す。長九町半程也。

附記
慶應二年十二月廿七日火災
十二月廿九日火災

十、十二月廿九日火災　此日兩度の火災有リ。一ハ、

同○慶應二年十二月。廿九日夜亥刻過、本鄉春木町二丁目より出火、北風烈しく、同町三丁目、武家地組屋敷、近藤登之助殿屋敷、加州侯○齊泰。南長屋の向迄燒け、本鄉三丁目より一丁目まて、湯島四丁目・圓滿寺・新町屋坂の上り口迄、藤堂秉之丞殿屋敷、西ハ本鄉元町・竹町の邊、御小人御中間組屋敷、三念寺邊、立花雲州侯○種恭。屋敷等燒る。此火川を越て、駿河臺なる太田姬稻荷社のみ燒たり。靈雲寺・眞光寺・麟祥院・聖堂等ハ恙なかりし。聖堂脇の學問所ハ、北の方聊燒込たり。長凡五町餘、幅平均して二町四十間程なり。○齋藤月岑日記ニハ、「廿九日夜四時、本鄉春木町二丁めゟ出火、北大風まて、湯しま邊、本鄉火消やしき、學問所、かねやす側、近藤登之助殿、からたちの向やける」。　——續武江年表

同○慶應二年十一日。廿九日、寅、晴。

附記
慶應三年正月二日火災
慶應三年火災
正月七日火災
二月十五日火災
三月廿三日火災

一、夜九ッ時頃大風、本郷邊ゟ出火。見聞雜錄燒場圖ヲ載スレドモ、今略ス。一ハ、○上文春木町火災ノ記事ニ次デ。同時少し後れて、小石川白山前妙清寺門前の風呂屋より失火して、淨心寺・同門前町屋・常檢寺・大圓寺門前、指ガ谷町・圓乘寺・駒込片町・御先隊組屋敷より失火して、阿部侯○阿部正方。下屋敷燒込、其餘武家地多く燒亡せり。九軒屋敷の邊にて鎮る。長さ十一町幅平均一町半程なり。

——佐野弘毅日誌

佐野弘毅日誌ハ「白山表門前ゟ出火」トス。見聞雜錄燒場圖ヲ揭グ。今略ス。

——續武江年表

〔附記〕 續武江年表云フ、

同（○慶應三年正月）二日夜酉刻、細雨中、辰の口松平内藏頭殿屋敷火事。○町火消ち組の鳶の者、武家方人數と喧嘩に及へり。

三年丁卯○慶應○紀元二五二七年。正月七日壬戌○壬戌、三正綜覽。橋場總泉寺○市内淺草區。火有リ、本堂僧坊燒失シ、餘焔淺草川ヲ越エテ、牛島小梅村○市内本所區。ニ及ブ。○齋藤月岑日記。傳法院記錄。續武江年表。二月十五日己亥○慶應三年（紀元二五二七年）○己亥、三正綜覽。麻布坂下町○市内。失火、長二町四十間、幅五十三間ヲ燒ク。○續武江年表。齋藤月岑日記。三月廿三日丁丑○慶應三年（紀元二五二七年）○丁丑、三正綜覽。淺草茅町○市内。火ヲ失シ、天王橋邊○市内淺草區。ニ延燒ス。○續武江年表。齋藤月岑日記。九月十七日丁卯○慶應三年（紀元二五二七年）○丁卯、三正綜覽。佐賀○肥前國。城主鍋島茂實○松平肥前守。葵坂下邸○市内麴町區。燒ク。○齋藤月岑日記。續武江年表。十二月廿三日壬寅○慶應三年（紀元二五二七年）○壬寅、三正綜覽。江戸城二丸殿舍炎上ス。○皇城篇參照。廿五日甲辰○慶應三年（紀元二五二七年）十二月。○甲寅、三正綜覽。鹿兒島○薩摩國。城主島津茂久○松平修理大夫。芝邸○市内。兵燹ニ罹ル、若干ノ延類有リ。○續武江年表。公私日記。嘉永明治年間錄。

九月十七日火災
十二月廿三日火災
十二月廿五日火災
慶應三年火災事蹟
正月七日火災
附記

慶應三年火災 重ナル者ヲ擧クレハ、左ノ如シ。

一、正月七日火災 傳フラク、

同○慶應三年正月。七日。

一、夜四半時頃、山谷今戸町出火ニ付、昇堂。

——傳法院記錄

同○慶應三年正月。七日夜亥下刻、橋場總泉寺より出火、本堂・僧坊燒。西北風烈くして、大川を越、牛島小梅村へ飛て、民家數軒燒たり。○齋藤月岑日記ニハ、「七日夜、橋場總泉寺ゟ出火、向しまへ飛火。喜之助淺草口御門迄出る。」ト見ユ。

——續武江年表

〔附記〕

八日（○慶應三年正月）曉、濱町土屋采女様御やしき出火、夜明鎮る。

——齋藤月岑日記

慶應三年正月火災

二月十五日火災

二、二月十五日火災　傳フラク、

二月十五日（○慶應三年。）曉丑刻、麻布雜式坂下町綿打職金五郎の家より失火して、宮下町・新網町代地・十番やけ込、永坂町・光照寺門前・飯倉新町、其外武家地燒る。長二町四十間、幅平均五十三間程なり。明方より至り鎮る。（○齋藤月岑日記云フ、「二月十四日夜子刻、南風、麻布坂下丁か出火、二丁餘やけ」。）

——續武江年表

同（○慶應三年二月。）十四日、戊、晴、南大風。

一、夜中麻布長坂出火。

——佐野弘毅日誌

附記

慶應三年三月十日後火災

三月廿三日火災

〔附記〕　續武江年表記スル所ニ據レハ、左ノ如シ。

三月十日（○慶應三年○中略）夕七時小網町二丁目肴屋ヨリ出火、三丁目類燒。

同十四日曉、千住中村町ヨリ出火、小柄原町旅舍過半燒テ、箕の輪北方へ燒込。

三、三月廿三日火災　續武江年表ヲ左ニ抄ス

同（○慶應三年三月。）二十三日曉丑刻、淺草茅町二丁目より失火して、同三丁目・福井町一丁目・二丁目・上平右衛門町燒込。猿屋町・天王町・同代地・瓦町、御改正會所、芝御掃除屋敷代地、御藏付床見せ、書替所御用屋敷、松平伊賀守殿（○忠禮。）中屋敷、本多侯中やしき、池田侯やけ込、同大圓寺・牛頭天王社、十王堂・花德院・閻魔堂・天王橋等燒る。（ゑんま堂ハ普請なりて、間もなく燒たり。）長四町餘、幅平均して五十間程なり。夜明て鎮る。御藏前第六天社は恙なし。（○齋藤月岑日記ニ、「廿三日曉丑中刻、淺草かや町一丁メ出火、天王そし際までやけ、夜明ケ鎮る」。ト有リ。）

附記

慶應三年三月廿五日後火災

〔附記〕　續武江年表ニ、

同（○慶應三年三月）二十五日定刻、本所相生町一丁目より出火、松坂町燒、大德院ニて止ル。

五月八日曉、惣十郎町より出火、内山町瀧山町竹川町守山町等類燒、長一町半、幅五十間程也。

七月廿五日曉、芝切通間部侯屋敷出火、町屋少々類燒。

九月十七日火災

四、九月十七日火災　續武江年表（○齋藤月岑日記同。）左ノ如ク傳フ、

九月十七日（○慶應三年。）夜九時頃、葵坂下鍋島侯（○茂實。）中やしき燒亡。

附記

慶應三年十月火災

十二月廿三日火災

〔附記〕　佐野弘毅日誌ニ、

同（○慶應三年十月）廿九日、未、晴、夕雨。

一、新し橋内伊東修理大夫屋敷出火。

五、十二月廿三日火災　江戶城二丸ノ炎上是也。皇城篇既ニ之ヲ記ス。酒井忠實家記ニ云、明六時頃（○慶應三年十二月廿三日。）御城二ノ丸長局ヨリ出火ニ付、左衛門尉人數召連出馬。（○中略。）四時過鎮火。

慶明雜錄ニ云、舊臘〇慶應三年十二月。二十三日、江戸西ノ丸二ノ丸ノ誤。城中出火有之、翌二十四日天障院様故大將軍德川家定ノ夫人、島津齊彬ノ女。御附女中御暇ニ相成、譯柄不相分故、花川被差越承ハ得共不相分、基ハ右出火ニ付テハ嫌疑ヨリ、右時機ニ相及候歟。

——復古記

同年〇慶應三十二月。廿三日、寅晴。

一、西丸泊明、今曉六ツ半時頃、二丸出火、御殿向不殘炎上。

——佐野弘毅日誌

十二月廿三日〇慶應三年。明六時、二の丸御炎上アリ。

——續武江年表

十二月廿五日火災

六、十二月廿五日火災　是日芝薩摩藩邸兵火有リ。

酒井忠寶家譜ニ云、十二月廿四日〇慶應三年。松平權十郎西城ニ被召、執政少老ノ人々列座シテ、島津修理大夫三田ノ邸ニ浪人共多ク潜匿シ、市中暴行、野州在流山ニテ捕得セル竹内披等ノ言ニモ、薩邸ヘ同志之者多有之趣、加之昨二十三日夜、左衞門尉巡邏人數屯所ヘ暴發イタセシ者共、不殘薩邸ヘ立入ノヨシ、市中取締ハ素ヨリ左衞門尉御委任之事故、人數ヲ差遣シ、應接之上、返答次第踏込テ打取ルヘシ、加勢トシテ陸軍方可被遣、松平大和守・松平伊豆守・松平和泉守ヨリモ、人數可差出被命間、速ニ可罷向、朝倉藤十郎・長坂血鎗九郎・水上藤太郎檢使トシテ遣被旨、被仰渡、會津藩士廿利源治薩邸ノ案内能存タル故、案内者ニ被遣、同二十五日黎明、家人石原倉右衞門主將トシテ、西城下ヨリ押出シ、先ツ使者ヲ以テ、近頃市中暴行ノ浪士多ク當邸ニ潜匿之趣、野州在流山ニテ捕得セル竹内披カ言ニモ有之、且ツ一昨夜三田同朋町ニ於テ、左衞門尉市中巡邏ノ人數屯所ヘ發砲ノ賊徒モ入居事、彼是其證分明ナリ、速ニ右ノ者共搦捕ヘキ旨、仰ヲ承リテ罷向ヒヌ、疾ク渡サルヘシトゾイハシム。天下ノ形勢實ニ憂危ノ秋ナレハ、主家深キ心ヨリ浪士共集至ト雖モ、右等之致所業モノ、當邸ニハ一人モコレナキ趣返答ス。猶應接ニ及處、篠崎彥十郎・關太郎ト申者兩人對面シテ答フルニハ、惡浮浪ノ徒實ニ當邸ニ潜匿等不致、本藩ニオキテハ、公邊ニ對シ、御敵可仕結構更ニコレナキヨシヲ陳シ、事ヲ左右ニ託シ、時ヲ延シ、用意ノ事アルニ似タリ。使者因テ多言ヲ用ヒス、直ニ打入ヘキヨシヲイツテ歸ル。邸中頗ル狼狽ノ體ナリケレハ、三田西北ノ角ヘ大砲ヲ一發スルヤ否、大小砲ヲ打込、燒玉等彈射ス。火邸中ニ發ス。支封酒井大學頭ノ兵、一番ニ進入、一隊ノ賊徒、松平伊豆守松平中務大輔ノ固ル處無勢トヤ見テケン、無二無

三ニ切拔ケ、四五十人品川ノ方ヘ逃去ス。降人ニ出ル者四十二人。討取處ノ首二級。島津淡路守邸ヘハ、新徴組ヲ遣シ、有合處ノ人數盡召捕ス。

赤報記ニ云、十二月廿五日辰上刻、賊兵襲來、猥ニ發砲、遂ニ放火、既ニ邸中ヘ亂入、我兵憤發擊破之、賊兵散亂、我兵間ヲ得テ邸ヲ出テ、爲防禦策、高輪品川邊所々放火シ、鮫洲村ヨリ以小舟、本藩蒸汽船ニ乘込。但小船三艘之中二艘、本船ヘ不能近付、終ニ武州羽根田ヘ上陸、是賊以軍艦烈敷發砲之故也。賊益我蒸汽船ヘ砲發、船中諸具大ニ破傷、晩景ニ至リ、賊船終ニ逃去。廿六日豆州小浦湊ヘ入津、船幷船具破傷修復、遠州灘ニ航ス。戌刻頃ヨリ暴風、船中益破傷。廿七日暴風倍烈敷、終日徹夜無止時、船頭船子不殘斷髮禱冥助、蒸汽車ヘ碇綱卷付、進退極ル。廿八日烈風少敷止、今曉ヨリ雨。廿九日未中刻頃、紀州九鬼浦ヘ入津、卅日巳刻頃、水原次郎坂田三四郎伊牟田尚平陸地ヨリ抵京師、慶應四年正月元日未明九鬼浦出帆、二日申刻兵庫湊ヘ入津。○下略。

附錄 薩邸襲擊概略

先達テ中ヨリ薩藩ニ御不審有之、御探索相成候處、第一天璋院樣ヲ奪出サン手立有之、種々策ヲ回ラシ、遂ニ一昨二十三日二丸炎上ニモ相成、是全薩之策ナリ、其上浮浪之徒邸內ヘ潛伏爲致、夜々市中暴行押借强盜盛ニ相成、御府內一體不穩ニ付、嚴ク御吟味相成候處、同藩ニ相違無之ニ付、御留守居御呼出御尋之趣モ有之候處、左樣之者無之ト申張リ、種々御談判中ニ、同日芝三田久留米侯御門前通莊內侯屯所相成候場所ヘ、馬上ニテ乘來、不意ニ發砲イタシ候ニ付、直ニ追懸候處、薩屋敷ヘ逃込候哉ニ見請、依之御屆ニ及ヒ候處、昨二十四日會藩何某ト申者申出候ニハ、先達テヨリ薩藩ヘ入込、浮浪人ニ加入相成、遂ニ探索候處、全ク陰謀相違無之、市中ヨリ奪取候金子凡二十萬兩程、蒸汽船ヘ積入、明後二十六日ニハ出帆之見込ニ付、此圖ヲ不討シテハ、最早時節無之、速ニ御糺問之上、御所置可有之ト申出候ニ付、莊內重役松平權十郎西城ニ罷出、閣老ヘ斷々ト申述候處、少々御不承知ニモ相見エ、御差留ニモ相成候處、會藩之間者委ク探索確證ヲ握リ候事ユヘ、少シモ猶豫不相成、此儀强テ御留ニ相成候ハヽ、是迄御締向被仰付候詮モ無之事、藩士一同切腹可仕ト、頻ニ相迫リ候ニ付、則免許ニ相成、夫々御手配諸家ヘ討手被仰付、莊內侯人數百人計リヲ初トシテ、二十四日ヨリ押出シ、到著之上、同侯番頭邸內ヘ入込、重立候者ニ面會、不正之者有之趣ニ付、召捕被差出候樣致度、尤不被差出候ハヽ、無據此方ヨリ

踏込召捕候旨、及談判候處、答ニ曰、御不審之者一切無之、此上御不承知ニ候ハヽ、勝手ニ召捕候樣、隨分御合手ニ可相成ト手切ノ口上有之否、兼テ用意之發砲ニ及候ニ付、莊內手ヨリ砲發、大砲ニテ門打破リ繰込、直ニ及接戰候處、左右ヨリ頻ニ小銃打立、雙方烈シク相戰、其內破裂玉ナド打込、放火ニ及ヒ、長屋長屋悉ク火移リ、彼ヨリモ共ニ火ヲ懸ケ候由、雙方トモニ死傷數不知、薩人四十人餘モ召捕ニ相成候由。乍然重立候者一向不相見。御隣家阿州侯御屋敷邊、伊豆守樣御軒下之處、同所塀ヲ五百人許リ乘越、酒井人數ト詭リ出、直ニ切掛候ニ付、同所ニテ見張間部侯ニ有之所、是モ友崩ニテ敗走ス。兩君侯ニモ御手疵被蒙候由。表門通之砲戰難叶、奥庭小山蔭ヘ逃込、少々打合候處、間合詰リ、何レモ筒ヲ捨拔連、裏通リ固メ居候撤兵步兵之中ヘ切込候處、一發モ不放サツト開通シ候ニ付、脫走スト云フ。右之內ト相見エ、三十人計リ、田町通リヨリ高輪邊血刀ヲ提ケ、何レモ謠ヲウタヒナカラ靜々ト落去、羽根田ヨリ乘船イタシ、內一人乘後レ候哉、近鄕ニテ船ノ周旋致候處無之ニ付、東海道三島宿迄參リ候處、農兵ニ被圍、召捕ニ相成、其外ハ品川邊ヨリ小船ニテ落去。是等ハ追手ヨリ數十發打懸候得共、遂ニ無難ニ沖合ヘ出候由。右戰爭始リハ二十五日朝、諸家人數引揚ハ、夕七ツ時過、鎭火ハ二十六日曉六ツ時ナリ。右屋敷跡土藏計リ殘リ、長屋類ハ不殘燒失、先キ先キニ六七人程死骸有之、馬二疋半死ニテ有之。御分家島津侯屋敷ヘモ及應接候處、少々手向之趣ニ付直ニ發砲致シ候處、早々降參召捕ニ相成候由。町家燒失ハ、金杉海手迄、田町之內二丁程、高輪通別條ナク、品川驛橋向燒失。是ハ落人道々何ニ寄ラス火ヲ付ケ町家ヘ投入候由、夫ヨリ燒出ス。右討手御名左ニ、

酒井左衞門尉樣。松平大和守樣。間部下總守樣。松平和泉守樣。松平伊豆守樣。松前志摩守樣。堀田相模守樣。三宅備後守樣。鳥居丹波守樣。酒井紀伊守樣。牧野伊勢守樣。遠藤但馬守樣。黑川秀波筆記

――復古記〇摘抄。

同年十二月。〇慶應三廿五日芝薩州侯〇島津茂久。屋敷に於て事あり、其顚末は知らざれど、曉より討手を向られ、藩中より火起りて、烏烟天を焦し、砲聲屢響渡りしかば、都下の良賤仔細を辨ぜず、急遽慴怕して阽屑の思ひをなせり。夫より近傍の市中、此兵燹に罹りしは、芝西應寺町・同金杉四丁目・同材木町・本芝一丁目二丁目・芝田町五丁目より八丁目迄燒込、寺は西應寺・法泉寺・永門寺・源照寺・薩州侯高繩屋敷・島津淡州侯〇忠寛。南品川宿一丁目より四丁目迄、長德門前・妙國寺前

等なり。

深川小出侯屋敷火事。

一、廿五日〇慶應三年十二月。朝五ツ時頃、酒井左衞門尉殿〇忠篤。人數凡二千人程甲冑ニテ町内ヘ繰込、其他諸家幷散兵等、多人數薩邸ヲ取圍ミ、潜伏ノ浪士ヘ掛合ノ上、双方ヨリ炮發シ、同邸内外ニテ浪士幷ニ藩士トモ二十名討死シ、既ニ町内ニ五人酒井ノ手ニ討レ、薩邸三田通リ物見、松本町前長家等ハ、放火シ、幸ヒニ町内ニ火移ラズ、散々ニ打合ノ末、殘徒ハ芝田町ノ方ヘ落行ナガラ、田町ヘ放火、品川ヘ放火、諸家人數幷散兵等ニテ、小山島津邸、高輪薩邸等放火、打合有之、恐敷覺申候。家内一同狸穴ヘ逃退。見舞トシテ、二丁目平兵衞、御掃除屋敷平助、幷竹次郎來ル。左松親子ハ、土藏ノ戸前ヲ打、飛玉ノ中ニテ、種々手傳。夕刻ニ至リ、追々見舞人來訪アリ。御掃除兩人ハ泊呉レ、夜ニ入、三田・本芝・田町・金杉・大場等ヘ見舞ニ出ル。

――芝松本町名主公私日記

同〇慶應三年十二月。廿五日、辰、晴。

一、薩州家來召取一條大事件、出火。

一、夜中小出屋敷出火、大風。

――佐野弘毅日誌

慶應三年丁卯十二月江戸ニ於テ薩州邸ヲ燒ク。

巷說、一昨廿三日夜、三田酒井左衞門尉配下市中取締新徵組屯所へ、何者共不知鐵炮打込逃去ル。尤も新徵組追ろけたる處、薩州屋敷へ逃込たりとて、右の者引渡すべき旨懸合ヿ及ぶヿ、薩州藩挨拶の趣には、當屋敷へ右様の者一切不立入趣を申し、翌廿四日並ヿ同夜中、數度の往復懸合ヿ及ぶと雖も、爭論不決、新徵組其外大勢を以て、遂ヿ薩州屋敷四方を相圍み、廿五日曉終に薩州邸へ大砲打込、出火と成り悉く燒失。

――嘉永明治年間錄

明治元年火災
正月七日火災
四月廿日火災

第二節　本記

帝都時代ノ火災

明治天皇慶應四年戊辰〇九月八日改元、明治元年。〇紀元二五二八年。正月七日湯島切通〇市內本鄉區。火有リ。〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。齋藤月岑日記。佐野弘毅日誌。四月廿日〇明治元年（紀元二五二八年）麴町十三町目〇市內四谷區。火ヲ失シ、四谷傳馬町一丁目・四谷新堀江町・四谷北伊賀町・四谷箪笥町〇市內。等ニ延燒ス。〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。

閏四月十八日火災

五月十五日火災

閏四月十八日○明治元年（紀元二五二八年）本郷春木町三丁目○市内。出火、延燒シテ前田氏邸○市内本郷區。其他ヲ燒ク。○東京府全管内諸災調上申。齋藤月岑日記。

五月十五日○明治元年（紀元二五二八年）東叡山戰爭、寛永寺○市内下谷區。ヲ初メトシ、上野・下谷・谷中・池ノ端○市内下谷區。湯島・根津・千駄木○市内本郷區。等、兵火ニ罹ル者三十九箇町、又餘家ニ及ブ。○江城日誌。靜寛院宮日誌。東京府全管内諸災調上申。東京府火災戶數調。上野兵火類燒調。齋藤月岑日記。佐野弘毅日誌。公私日記。五月雨草紙。

明治元年火災事蹟

明治元年火災　大藏省火災保險掛參考書○本書調査ハ、明治十二年東京府ヨリノ照會ニ對シ、各區役所ノ答申ヲ基礎トスル者ノ如シ。而モ此時區役所ノ答申中ニハ、書類ナクシテ故老ノ記臆ニ據リタル者有リタリ。ニ據レハ、是年東京市内ニ於ケル火災被害高千八百四十一棟、一萬九千三百卅四坪餘有リ。内燒失百戶ヲ越エタル者、若クハ重要建物ノ燒亡ニ係ル者ヲ擧クレハ、左ノ如シ。

正月七日火災

一、正月七日火災　左ノ如シ。

一、湯島切通坂町失火。明治一年一月七日朝。　全燒九十三戶。

湯島天神町壹丁目ヱ延燒。　全燒八十戶。半燒五戶。○本郷區役所答申。

――東京府全管内諸災調上申○東京府火災戶數調同。

八日○慶應四年正月。曉七時前、湯島切通町ゟ出火、石坂邊つま戀ハのこり、ごみ坂下手代丁武家燒る、古澤故十郎殿やける、明方鎭る。○小笠原淸務日記ニハ、「七日、辰、快晴、夜少々雨、大風。明七ツ時頃、明神下出火。」ト有リ。

――齋藤月岑日記○續武江年表同。

同○慶應四年正月。七日辰、晴、晝後南大風。

一、夜中湯島切通出火、手代町類燒。

同八日、巳、晴、風、夜大風。

一、出火ニ付見舞、近藤祐佐方へ行、同人類燒、定小やに出御居出ス。

――佐野弘毅日誌

附記

明治元年二月後火災

〔附記〕東京府全管内諸災調上申所收、四谷區役所答申ニ、

明治元年二月九日　　手過。

四谷傳馬町新壹丁目九番地古著渡世元吉宅ヨリ出火、　全燒貳拾九戶。半燒五戶。

死傷人無之。

明治元年二月十九日　　手過。

四谷簞笥町三番地疊職伊三郎宅ヨリ出火。

四谷傳馬町新壹丁目　　全燒貳拾八戶。半燒三戶。

四谷簞笥町　　全燒六拾戶。半燒貳戶。

死傷人無之。

明治元年三月十九日　　手過。

四谷寺町拾番地愛染院ヨリ出火、　全燒一戶。死傷人無之。

四月廿日火災

二、四月廿日火災　左ノ如シ。

明治元年四月廿日　手過。
麴町區
麴町拾三丁目廿四番地佛師磯長次郎宅出火。
四谷傳馬町貳丁目　全燒貳拾五戶。半燒貳戶。
四谷新堀江町　全燒壹戶。
四谷北伊賀町　全燒三拾壹戶。半燒三戶。
四谷簞笥町　全燒四拾戶。半燒六戶。
死傷人無之。○四谷區役所答申。
——東京府全管內諸災調上申○東京府火災戶數調同。

閏四月十八日火災

佐野弘毅日誌・齋藤月岑日記等ニモ、此災見ユ。

三、閏四月十八日火災　左ノ如シ。
明治一年四月(○閏四月歟)十七日夜。
一、本郷春本町三丁目失火。全燒廿戶。○本郷區役所答申
——東京府全管內諸災調上申○東京府火災戶數調同。

閏四月十七日○慶應四年。夜丑刻比、南西大風、本郷春木町三丁メ方火事、加賀樣やける、水戶樣長屋へやけ込、加州侯の外ゟまへハ殘りし由。
——齋藤月岑日記

續武江年表。
同(○明治元年四月)十八日曉丑刻、南西大風、本郷春木町三丁目より出火して、賀州侯明屋敷御殿向殘らず燒、駒込の水府侯長屋へ燒込たり。
ト書スル者、恐ク閏四月ノ誤乎。

五月十五日兵火

四、五月十五日兵火　五月十五日ノ東叡山戰爭ハ、兵事篇之ヲ記シ、此ニハ主トシテ兵火ニ關スル事蹟二三ヲ抄出ス。

五月十五日○慶應四年。上野山內屯集之賊徒追討トシテ、未明ヨリ各藩之兵隊大下馬ニ相揃、各隊列ヲ整ヘ繰出シ、夫々左ノ攻口ヨリ攻入、愉快之奮戰ヲ遂、賊徒忽チ敗走シ、上野山內悉ク灰燼トナリ、夜七ツ半時凱陣ス。此日討取處ノ賊徒、山內所々ニ累々トシテ、其數ヲ不知死傷生捕等凡千人餘。各藩攻口左之通、
湯島ヨリ黑門前　薩州。肥後。因州。
本郷　長州。肥前。筑後。大村。佐土原。
富山邸　肥前。筑後。
水戶邸　備前。伊州。佐土原。尾州磅礴隊。
一橋御門ヨリ水道橋　阿州。
水道橋ヨリ水戶邸邊　尾州。

聖堂近邊　新發田。
森川宿追分邊　備前。
大川橋　紀州。軍監兩人差添。
千住大橋　因州。
川口　大久保與市。
沼田　肥後。
戸田川　備前。
下總古河　肥前。
武藏忍　藝州。
同川越　筑前。

——江城日誌

五月十四日〇慶應四年。子刻、錦を以田安より申聞られ候次第、上野ニ罷在候彰義隊沸騰ニ付、今日未刻比、上野ニ有之候靈牌重器の類、今日中ニ取片付候樣、田安へ御達し有之候ニ付、暫御猶豫願之爲、田安家來西城に出候へ共、未歸らは、細川藩より内々承り候へハ、今曉彰義隊掃撃の爲、兵隊押進候由告有、付てハ田安より鎭撫も可致候間、暫時御猶豫大總督府へ使を立願吳候樣賴也。卽刻申付、後藤河内是を勤、錦仲直ニ口上申述、寅刻比田安家來歸り、是非共今日中ニ取片付候樣、御返答の由之。服部筑前取鎭ニ早馬にて出候よし之。卯刻過後藤歸り、下參謀樋口勘介に面談、何卒御進軍御止の樣申述、猶上參謀新田三郎に申聞候、猶書取ニても持參候や尋の由、仲村より申入、右の趣田安に申聞。十五日卯刻過、田安より歎願書差出され、猶又願吳候樣賴れ、藤より大總督參謀にの書添、再ヒ後藤河内西城に出、今朝藤崎使ニ來ル。萬一天ソ方立退等の節、當邸に立退れ候樣申聞、未刻過河内歸り、書取下參謀に渡し、上參謀より飛露ニ及候得共、何分討伐諸藩に御達しニ相成、進軍ニ成候事故、何共御返答ニ不及よし答候趣、承り歸ル。右の趣田安に申聞、同刻筑前歸り、上野へ出、彰義隊長に面談し、敎諭候處、深く恐入、兩三日掃撃ハ延引被下候ハヽ、いか樣共取鎭候趣申述、其後ニ戰爭ニ相成候ニ付、不得止歸り候趣、錦より承ル。戌刻過見廻り此使番歸り、上野ハ最早鎭り、輪王寺宮ハ行衞不分明ニ付、其邊の者ニ尋合候處、一向相不分、乍多分日光會津の中へ御立退ニ成ルや申聞、寛永寺本堂中堂ハ兵火ニ失、御靈屋ハ殘り有趣、錦より承る。

——靜寛院宮日誌

明治一年一月ヨリ同六年十二月迄戰爭及火災取調

上野公園地	明治一年五月十五日	戰爭。	
同	同	兵火。	全燒二十戸。
同櫻木町	同	同。	同一戸。
同三橋町	同	同。	同四十五戸。
同	同	流彈即死。	一人。
五條町	同	兵火。	全燒十六戸。
上野山下町	同	同。	同六十一戸。
同黑門町	同	同。	同五十六戸。
同北大門町	同	同。	同九戸。
池ノ端仲町	同	同。	全燒三十二戸。半燒二戸。
同	同	流彈即死。	一人。
下谷數寄屋町	同	兵火。	全燒九十戸。半燒五戸。
上野南大門町	同	同。	全燒一戸。
上野町二丁目	同	同。	全燒三十戸。半燒三戸。
下谷町壹丁目	同	同。	全燒七十戸。

同二丁目	同	同。	同百六十一戸。
下谷仲御徒町四丁目	同	同。	全燒十五戸。半燒一戸。
同車坂町	同	同。	全燒十一戸。
同上車坂町	同	同。	全燒三十一戸。半燒六戸。
同下車坂町	同	同。	全燒十七戸。
同豐住町	同	同。	全燒十三戸。半燒三戸。
同萬年町一丁目	同	同。	全燒十七戸。半燒一戸。
同二丁目	同	同。	全燒六戸。半燒一戸。
同山伏町	同	同。	全燒三戸。
谷中町	同	同。	同六拾八戸。
谷中初音町壹丁目	同	同。	同六拾四戸。
同町貳丁目	同	同。	同拾八戸。
同町三丁目	同	同。	同拾八戸。
同茶屋町	同	同。	貳拾五戸。
同三崎町	同	同。	同拾六戸。

同三崎北町　同　同。　同拾四戸。
下谷阪本町壹丁目　同　同。　全燒五拾六戸。半燒貳戸。
同町貳丁目　同　同。　全燒四拾壹戸。
同町三丁目　同　同。　同壹戸。
（〇下谷區役所答申）

一、湯島天神下同朋町　明治一年五月十五日上野戰爭之節、放火ニ罹リ、燒失致シ町々。　全燒百四十八戸。
一、根津八重垣町　同　全燒十二戸。
一、駒込千駄木町　同　全燒五戸。半燒二戸。
一、駒込千駄木坂下町　同　全燒三十四戸。
但、死傷人等無御座候。（〇本郷區役所答申）

明治一年五月十五日放火。
淺草北松山町
同所南松山町之內　全燒六戸。半燒壹戸。
〆全燒六戸。半燒壹戸。　死傷人無之。（〇淺草區役所答申）
——東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戸數調同。

〔附記〕東京府全管內諸災調上申ニ
明治元年火災
五月十六日　永田馬場齋藤金之丞邸　放火　全燒　三戸
（〇麴町區役所上申）
戰爭死人并兵火
明治元年五月十六日、官兵赤坂氷川町舊武士地舊幕旗下多賀上總介邸ヲ圍ミ砲擊セリ。
一、右邸內潜伏人擊殺　貳人。
一、同邸宅放火燒失　貳戸。
小以一件。（〇赤坂區役所答申）

辰〇明治元年。五月十五日上野山下邊兵火ニ而類燒之ものに被下高。
一、人數七千貳百三拾人。內獨身八拾八人。
白米貳百拾八石六斗三升。錢千四百四十六貫文。但、壹人ニ付、白米三斗錢貳百文ツヽ。獨身もの白米五升錢貳百文ツヽ。
口數千七百七十七口。町數三拾九ヶ町。
同斷五月十六日ゟ廿日迄、野宿之ものに握飯被下高。
一、人數貳萬貳千貳百五拾人。但、壹人ニ付、白米三合積。
白米六拾六石七斗五升。
——上野兵火類燒調

同〇明治元年五月。十五日、雨天。曉より官軍東叡山へ向はれ、山内に籠り居し彰義隊と號せし脱走の浪士と戰闘あり。谷中邊を始として大炮を放され、又三枚橋通りへ押寄せ、双方より大炮を發して戰ひに成り、夜に至り山門其外に火を放つが故、惜むべしさしも甍を並べて壯麗たる根本堂・多寶塔・輪藏・鐘樓・常行堂・法華堂・文珠樓山門御本坊、寺中ハ本覺院・凌雲院・寒松院・涼泉院・覺王院・顯明院・明教院等、倶に舞馬の阨に罹り、片時の間に烏有となれり。清水堂・山王社・時の鍾・慈眼堂・大佛堂・忍岡稻荷社・下寺等ハ殘る。右戰爭夜半に及び、浪士大半亡び、又ハ逃亡して、一擧に鎭れり。寒松院ハ浪士の病人其外燒死人多く、其數を知らずとぞ。本尊瑠璃光佛ハ退せられたり。瑠璃殿幷吉祥閣の勅額、寛永寺の御宸翰、さま〳〵の寶器佛具等、多く燒失たる由なり。此兵燹下谷山下等の町家寺院に及し、三枚橋北ハ瀨川屋敷・五條天神宮・元二王門前御家來屋敷・啓運寺・車坂町・淺草寺町の邊、町家寺院御徒士組屋敷、南ハ黑門町・大門町・常樂院・仲町・御數寄屋町、西ハ谷中善光寺坂三崎の邊にいたる迄、町屋寺院悉く燒却せり。此邊の輩、財寶を持運ぶに暇なく、其漸命を全ふして逃るのみなり。翌日山内のさま街の騷劇おもひやるべし。所々通行とまり、江戸中の商家も、大方なりはひを休みたるもの多し。

同十九日、町會所より、下谷・谷中邊兵火に罹りし町々の貧民へ御救米錢を頒たる。〇米價諸物彌貴し。〇齋藤月岑日記ニハ、「十五日、今朝ゟ官軍谷中上のへ向戰爭、雨中兵火にて、谷中上の門前の火夥敷、八頃は淺草へ移り、夕七比西强ク北交り風雨、夕少し止」ト有リ。

——續武江年表

同〇慶應四年五月。十五日卯、雨。

一、芝出順之處、上野戰爭ニ付在宿、官軍勝利、夕刻彰義隊護國寺へ引取、直ニ散シ、

一、山下邊・谷中兵火終日終夜。

同十六日、辰、曇、時々晴。

一、休日割合、晝後より上野邊に行、山門・中堂・本坊・寺院兵火燒失。

——佐野弘毅日誌

一、十五日〇慶應四年五月。雨中、北ノ方ニ煙上ル。上野屯集ノ彰義隊へ官軍攻入ル。諸所放火。官軍戰死。

一、十六日夜、赤坂戸川上總之介屋敷官軍放火。

——芝松本町名主浦口氏公私日記

昨十五日〇慶應四年五月。朝未明より、太皷の音處々へ聞えて、官軍繰出しへ相成り、御門々々橋々皆〆切となり、出入を止めらる。間も無く砲聲少々相きこえ、湯島通り出火あり。此頃中の大雨まて、十分しめり有之折柄なれど、手過ちの出

火にてあるべからず、何様只事ならずと思へとも、往來留めなれは、火之見の者を出す事も叶はず。只相あつまりて此頃中の風聞を語り合ひ空く出火の方角を詠め居たり。

或は言ふ、昨夜何國の兵とも知らず千五百人程、千住口より江戶へ入込たり、夫故戰爭始まりたるならんと。或は言ふ、此程上野山内屯集の兵士、錦の旗葵御紋の旗なとを拵へ、戰爭の用意頻りなりと。或は言ふ、當時江戶御府内に在て義を結ひ相盟約するの諸隊、游擊隊・銃隊・撒兵隊は暫く言はず、彰義隊・純忠隊・精忠隊・盡義隊・松石隊・臥龍隊・萬字隊・水心隊、其他諸國の脫走兵士所々に潜伏し、事を計る者幾萬人なるを知らず、其徒一時相響應するに於ては、如何なる事變を生せんも計り難しと。衆說紛々、更に定論無し。

其時一人の來客あり、曰く、諸公の話皆な信するに足らず。昨日前文の如く、上野屯兵御追討の儀彌以て諸藩の各隊へ布告に成たる事、既に明かに聞えしかど、參政一翁殿筑前殿を初め、諸役人衆大に憂慮し、靜寬院宮様・天璋院様の御直書を持ち、今曉未明に大總督府へ御猶豫の儀出願に相成りしが、時すてにおくれて最早官軍上野に於て戰を開きし跡に成たりと。是のみ實說なり。後の成行は如何とも知らずと云ふ。

かくて此日も大雨止ます、砲聲屢々轟き、火勢益々盛にしゐ、老弱始め難を逃れて、道路にさまよふ者、哀みの聲街市に滿つ。然れとも皆狼狽して逃れ來れる者のみなれは、今日の樣子を問へとも、一人として慥に答ふる者無し。

出火の場所は、上野山下、湯島天神の邊、廣小路、池の端仲丁、下谷邊、谷中邊、凡五六ヶ處に火の手上り、すさましき事いはん方無し。兩國橋をは切落し、大砲打掛くべき間、立退きぬ樣の爲知ありて、兩國近邊の者、俄に諸方へ立退き混雜す。柳橋は既に切落したりと云々。

夕方に成て、官軍追々歸陣し、砲聲全く止み、人々少しく安堵の思ひをなす。火事は益々はけしく、上野山内にも火の手起り、中堂御本坊悉く燒失す。宿坊も半は燒失せしよし。

山内屯集の兵、何方へ立退きしや、御門主樣にもいまた落著を聞かず。

今朝上野邊より來りし者の話を聞けは、廣小路片側燒失、仲町大抵燒失したる由。山下は雁鍋の邊より東側の小屋敷燒失し、廣德寺前少々類燒す。

廣小路邊より山内に死骸六十餘人有り。其外火災に依て怪我せし者、且双方

の怪我人多く有るべし。追て委しき報告を得て書載すべし。

同日晝過、大砲數發南方に聞こえさり。右は何方の船にや、蒸氣船一艘品川へ入津せり。

昨日の戰ひ大雨にて雙方共難戰なりしが、官軍の方より、追々新手を入替々々攻立けるにぞ、屯集の兵は應援無し、遂に敗走に及ひける。大砲小銃分捕頗多し。

團子坂の方類燒、死亡害多き由。

昨日黄昏、吾妻橋の上にて戰ひ有りしと見へて、橋上に鮮血おひたゝしく流れ、鐵砲玉なども橋の邊に落散居さりと、淺草邊の者來り話せり。兩國藏前邊にても砲聲を聞きしが、其樣子は詳ならずと云。

今朝王子の方にて、又一戰有りし由、彼方より來りし百姓、途中にて拾ひたりとて、鐵砲の玉皮を持ち來れり。黄銅にて製したる管にて、至極精巧なる者なり。是まて未た見當らさる形とて、勿論舶來の品なり、定めて官軍の內精巧新式の銃を所持する者有りと見へたり。

今日公家衆一騎上野へ往きて巡見し玉ふ。官軍あまさ警衛す。東照宮御靈屋は、先々火災を免れ玉ふ。

今日晝後、大總督府の印鑑、又は田安殿・一橋殿の印鑑所持いさし候へど、御門々々差支無く通行相叶候由。

——中外新聞

慶應四辰五月十五日、未明ゟ太鼓の音所々ニ聞へ、官軍御人數繰出しニ相成、御門橋々不殘〆切りニ相成、程なく御軍勢、上野御山外八方を御固め、御軍勢ゟ火砲小銃打かけ候處、山內ゟも筒音高く一聲ニ打出し、相方の砲聲、宛雷の轟が如くすさまじく、折柄砲火の習ひ、湯島邊ゟ出火相始り、又山下ゟ出火致し、折節西南の風雨はげしく、池の端仲町不殘、錦袋圓迄燒失は。夫より元黒門町二ヶ所、すきや町四丁程、北大門町三丁、湯島天神下同朋町上の町黒門町邊、小屋敷燒失、五條天神・同まへ町・下谷町二丁目拜領屋敷、外寺院四ヶ所、小屋敷少々燒失致し、斯くて黒煙天をこがし、砲聲增々なり渡り、雨あられのとき玉煙りの內より、脱走方何れの隊なるや、黒門を押開き四五十騎、官軍御人數を目かけて切て出て、勇を振て戰ひけるが、官軍方ハ新手を入、勢せめ立けるゆへ、迯いに脱走方色めく所を、官軍一時に追掛、黒門を打破り、山內へ亂入し、勝に乘じて血戰は。折から山內表手の方、何れの屋敷邊ゟか大砲おびさゞしく

打掛、はいよ中堂とおほじき所より黒煙り立上り、坊中所々ゟ出火致し、兩軍火中の難戰、未曾有の働き、目を驚を計りなり。又一口の出火ハ、山下仁王門前町拜領屋敷、御家來屋敷、立花樣角辻番、同屋敷町、此邊貳三ヶ所燒失を。同山崎町五六ヶ所、山下通り慶雲寺角屋敷少々、車坂不殘燒失す。此邊所々よて戰爭有之、廣德寺門前ハ、兩側半丁計り、柳の稻荷よて燒止り、又一口ハ根津總門内燒失、遊女屋假宅ハ壹軒燒失、番屋髮結床岡田屋敷其外小屋敷兩三軒燒失。然るよ新幡隨院よ屯集の脱走隊有之是又官軍と打合よ相成、益々火勢烈しく、善光寺坂湯屋壹軒、外五ヶ所とび〳〵燒失を。淨性寺・團子坂茶亭二軒燒失。千駄木町兩側、板倉樣やしき殘る。三崎町瘡守稻荷よて燒止る。谷中天王寺門前二丁不殘、新茶や町燒失。此邊戰爭有之、天王寺地内過半燒失、五重の塔殘る。暮六ツ半時全く愼精渡しぬ。戰爭ハ官軍大勝利なり。

嗚呼歎くべし悲むべし、此日いかなる日にや、關東第一の靈場一時よ燒失を。市中の老若婦女難をのがきて道路よさまよひ、哀との聲街よ滿、是天のなを所、是非もなき次第なり。——そよふく風

頃を慶應四年五月十五日朝六ツ曉より、下谷廣小路より出火いさし、おりしも南風をげしく、池をさ仲町・すきや丁・切通ゟかや丁・根津・谷中・すは蓮寺・幡隨院・觀野寺・茶屋丁・七面前三年坂・笠森いなり・三崎丁・團子坂下町・千駄木町ニゐ燒止。一口ハ、車坂下よりねきしこゐ燒止。飛火ニて柳いなり、又々飛こゐ柳橋半分燒る。夜五ツ時ニゐしめる。——村瀨春雄所藏讀賣

〔參考〕

去る十五日〇慶應四年五月。上野山内兵火の節、神君樣御木像を、取出し奉る者も無かりしよ、山岡鐵太郎これを歎き、大總督府の免許を受け、精衞隊の士數名を召連れ、彈丸劍戟の中を侵して、恙無く取出し奉り、寺社奉行並酒井安房守の宅まて移し奉りし由。——中外新聞

去る十五日〇慶應四年五月。上野山内戰爭の節、紅葉山火の番小玉某、炮戰兵火最中よ、神祖の御木像并御歷代樣御位牌等を、種々の艱苦よて運び出し、寺社奉行酒井安房守樣御宅へ御迁坐なし奉りしと。其功よよつて、去る廿四日。御褒賞として白銀若干を賜りしとぞ。——そよふく風

上野は元と忍岡と唱へ、藤堂家の下屋敷なりし由。其已前は淺草觀音境内に社家あり、神祖の御廟も此所に取建ありし趣なり。然る處大猷院樣此忍

岡へ御移し遊はされ、慈眼大師特絶の英斷を以て、當時の規模に成り、御代々樣御廟も追々出來の趣、是等の事は舊記に見へて誰人も能く知る所なり。黑門內に山門あり、吉祥閣と云ふ。宸翰の大額あり。正月十六日、七月十六日登觀を許さる。夫より內に中堂あり、平時履を脫して拜觀すへし。朱殿廻廓宏大美麗を極む。夫より更に奧に本坊あり、木材結構にして、其廣大なる、殆んと昔時の西丸に比す可しと云ふ。黑門を入ると直に、右の阜上に山王權現の社あり。金碧燦然、彫鏤の美、人目を駭かせり。又左の阜上には鐘樓あり、大佛殿あり、何れも莊麗ならさる無し。神祖の御廟は申す迄も無く、御靈屋、方々樣御廟所、亦皆美ならさる無く、上寺下寺三十六院あり、皆諸侯の宿坊にてあれは、其普請は何れも立派にして、京の比叡山に比する東都一の大伽藍にてありし。然るに慶應四年五月十五日兵燹に、堂塔廟社悉く灰燼に歸す。存亡盛衰は自然の數とは申なから、感泣悲歎の至りに堪へす。自今以後の人は此盛觀に與かる事能はされは、聊か其千百の十一を拾ひて玆に記す。上野廣小路左り側、松源、蓬萊屋、河內屋、無極菴、淸凌亭（精進料理）皆名代の酒肆肉舖なり。右は山下に雁鍋とて、雁一味を調する酒樓、岡村とて天麩羅を主とする割烹店、此他茶肆酒坊ありて、其繁榮江戶第一なるへし。此他三橋外には、鳥八十あり、仲町には栃木樓あり、數寄屋町に校書五十名ありて、飮饌の精美、家屋の佳妙なりしも、唯に斷礎敗甍を荒草の間に見る樣に到りたきは、恐くは再ひ元に復する事あらさらん。今此に載する所は、眞に九牛の一毛なれば、猶ほ思ひ出るまゝに後に錄出すへし。淸凌亭は元鰻鱺店にてありしが、何の年にや上野より沙汰ありて、山門至近の地にて殺生渡世を爲すは、心無きの至りなり、何へなりとも遠隔の地へ遷る可し、左無くは渡世替なす可しとありしに因り、至極御尤なり、左あらは商賣替致さんとて、一味の醇粹潔白なる精進料理を始めたるより、大に山門の最負を受たりと云ふ。——五月雨草紙

大正元年八月廿八日東京市會議事堂ニ於テ、伯爵土方久元明治天皇ノ御盛德ニ關スル講演ヲ爲シ、戊辰東台ノ役ニ言及シ、寬永寺ヲ燒カシメタル事情ヲ語レル事有リ。土方伯ト題スル書ニハ、

○上略。かくてトウ〳〵官軍が勝つことは勝つたが、非常に疲勞し盡して居る、入換へる新手の兵は勿論なく、まして當時藩々の向背も充分に分らぬ

附記

時であるから、其所で折角上野を攻落して、再び敵の手に渡り、要害に據られては大變であるから、思ひ切つて此處を燒き拂はふと云ふことになり、惜氣もなく疊建具を積上けて、鐘樓から吉祥閣乃至宮様の御住居(今の博物館のある所)中堂まで、悉く燒いて仕舞つたのである。

當時この中堂の燃ゆる時に、伯(○土方久元。)が目擊され、一同と與に感せられた話がある、それは中堂の上に水瓶のやうなものが置いてあつた、是は防火の爲めに設くるのであると云ふ事であるが、それに鴻か巢を造つて居る、所で、この日は餘り風がなかつたので、煙はズッﾄ上に立ち昇つて居る、夕景には雨が歇んで、日和が好くなつて、風がどちらからか吹いて居る、すると烟の間から親鳥の居るのが見える、其れには一同が奇異の想をし、禽獸でも我が兒を愛するは、かほどであるかと感じたと云ふ事である、然して見るまに中堂は燒落ちたが、鴻は與に燒け死んだのか、乃至其前に飛去つたのか、兎も角も子を愛する情の切なのには、流石の荒くれ武士も感じ入つたと云ふことである。

〔附記〕

同(○明治元年九月)十六日亥刻過、芝仙臺侯明屋敷燒亡、類燒なし。

――續武江年表

明治元年九月後火災

明治元年九月廿六日午前三時發火、同六時鎭火。

本所林町二丁目河岸地納屋　　林町貳丁目十二番地炭商萬屋万藏

一、失火

右納屋内灰俵ヨリ發火。

全燒、住居三拾戸。河岸地納屋三棟。自身番屋壹ヶ所。(○本所區役所答申)

――東京府全管内諸災調上申

同(○明治元年十月)十三日

一、役者ゟ達

一、昨十一日曉、醫王院門前家主重次郎明キ床店ゟ出火、外類燒も有レ之ルニ付、奉レ恐入一趣ニ而、愼罷在ル旨、組合修善院ゟ屆出ル處、此節御用多之折柄ニも有レ之、不レ及二其儀ニ一ル間、此段承知、修善院ゟ可レ被二相達一ル。以上。

十月十三日　　龍禪院

本龍院

右受書來ル。(○東京府全管内諸災調上申所載、淺草區役所答申ニ據レハ、「明治一年十月十日怪火、淺草馬道町七丁目舊醫王院門前、同所五丁目舊南馬道町之内全燒五十二戸、半燒三戸、死傷人無レ之。」ト有リ。)

――傳法院記錄

同(○明治元年十一月)十二日曉八時頃、深川富島町火事。一町計り燒る。

――續武江年表

明治二年三月後火災

明治二年三月廿五日

芝片門前二丁目　　失火原由不詳。

戸數凡六拾戸、内半燒貳戸。(○芝區役所答申)

明治二年四月十三日午前五時發火、同七日鎭火。

本所柳原町壹丁目(十二番地)

一、失火　舊藩知事大岡主膳正邸内
右廳中ヨリ發火。全燒、住居長屋共五戸。(○本所區役所答申)
明治二年十一月三日
芝新門前町三十六番地　失火原因燈灯。
戸數三拾四戸。(○芝區役所答申)

──東京府全管内諸災調上申

明治二年火災
十一月廿六日火災

明治二年己巳(○紀元二五二九年。)十一月廿六日、上野町二丁目(○市内下谷區。)失火、一丁目及上野東黑門町・下谷同朋町(○市内下谷區。)ニ延燒ス。(○東京府全管内諸災調上申。東京府火災戸數調。佐野弘毅日誌。)

十一月廿九日火災

廿九日(○明治二年(紀元二五二九年)十一月。)和田倉門内(○市内麴町區。)兵部省燒ク。(○東京府全管内諸災調上申。佐野弘毅日誌。齋藤月岑日記。)

十二月十二日火災

十二月十二日(○明治二年(紀元二五二九年))神田相生町(○市内。)火有リ、附近ノ八箇町ヲ全燒シ、三箇町ニ燒及ス。(○東京府全管内諸災調上申。東京府火災戸數調。東京府日誌。)

十二月廿八日大火

廿八日(○明治二年(紀元二五二九年)十二月。)元數寄屋町二丁目(○市内京橋區。)出火、三十一箇町、三千四百二戸ヲ燒キ、燒死者二十二人ヲ出ス。(○東京府全管内諸災調上申。東京府火災戸數調。齋藤月岑日記。)

明治二年火災事跡

明治二年火災　是年燒失屋舍三千八百九十八棟、四萬九百卅六坪。(○大藏省火災保險掛參考ニ據ル。下同。)ノ内、重ナル火災四回有リ。

十一月廿六日火災

一、十一月廿六日火災　左ノ如ク傳フ。

上野町貳丁目　明治二年十一月廿六日失火　全燒貳拾四戸。半燒貳戸。
同町壹丁目　全類燒　全燒百五十九戸。半燒五戸。
上野東黑門町　同　全燒貳拾戸。半燒五戸。
下谷同朋町　同　全燒六拾戸。半燒貳戸。
(○下谷區役所答申)

──東京府全管内諸災調上申(○東京府火災戸數調同。)

同(○明治二年十一月。)廿八日、未、晴。
一、上ノ丁出火ニ付、羽川ヘ見舞ニ行。(○續武江年表ニハ「廿七日曉八時頃。上野町火事。長者町迄燒込。松坂屋のこる。」ト記ス。)

──佐野弘毅日誌

附記
明治二年十一月廿八日火災

〔附記〕東京府全管内諸災調上申云フ、
同年(○明治二年)十一月廿八日夜。
小石川傳通院地中淨土宗緣受院ヨリ(今小石川表町九十五番地。)出火、庫裡燒失。(○小石川區役所答申)

十一月廿九日火災

二、十一月廿九日火災　左ノ如ク傳フ。
○明治二年十一月廿九日丙申
此日第十二字、兵部省火あり、百官天機を伺ふ。

──太政官日誌

明治二年火災

十一月廿九日	和田倉門內元會津藩邸	當時兵部省附	發火不詳	全燒壹戸

――東京府全管內諸災調上申〇麴町區役所答申。

廿九日〇明治二年十一月。晝四時半、大名小路〇和田倉門內歟。會津侯跡兵部省より出火、夕七時比鎭る。

――齋藤月岑日記〇續武江年表同。

同〇明治二年十一月。廿九日、申、晴、南風。

一、晝後、丸之內兵部省出火ニ付、鐘三郎連行。

――佐野弘毅日誌

同〇明治二年十一月。晦日。

一、昨廿九日、御曲輪出火ニ付、東京府に御機嫌伺、代僧松善房差出ル處、大村誠吉郎出會、相二渡之一。如レ左、

昨廿九日御曲輪內出火之由奉二驚入一、依レ之爲レ窺二御機嫌一、以二代僧一申上ル。

淺草寺別當代
代僧　松善房

――傳法院記錄

十二月十二日火災

三、十二月十二日火災　八、

同〇明治三年二年ノ誤歟。〇十二月十二日午後十時頃。

一、神田相生町貳拾番地塗師職金次郎方ゟ怪火ニ而出火。同町及ヒ同所松永町・同所佐久間町壹丁目・同所花田町・同所元佐久間町・同所久右衞門町・同所榮町・同所龜住町、右八ヶ町全燒。神田佐久間町貳丁目・同所花房町・同所平河町、右三ヶ町へ燒込ミ、此ノ戸數凡千百戸程燒失。但、燒死人、女壹人有レ之候。〇神田區役所答申。

――東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戸數調同。

同〇明治二年十二月。十二日夜九時、神田相生町ゟ出火、長二丁半、幅二丁計。

――齋藤月岑日記〇續武江年表畧。

按スルニ東京府全管內諸災調上申、東京府火災戸數調ハ、此災ヲ明治三年十二月十二日ニ繫ク。而モ齋藤月岑日記之ヲ明治二年十二月十二日ノ事トスルノミナラズ、東京府日誌亦左ノ如ク記セハ、其誤ナルコト明ケレ。〇諸災調上申及火災戸數調ハ、共ニ公文書ナレドモ、明治十二年ノ調査ニシテ、東京府日誌・齋藤月岑日記ノ當時ノ書ナルニ如カズ。

十五日〇明治三年十月。鎭火社御鎭坐布告。

府下人戸稠密、火災甚數、殊ニ冬春之際、西北風烈數、外神田邊ヨリ出火候節ハ、大火ニ相成候儀、是迄度々有レ之、諸人之難澁不二一方一候ニ付、去已〇明治二年。十二月中、神田相生町ヨリ出火類燒跡、同町外十ヶ町之內九千餘戸、町家取拂、火除地ト致シ、同所へ鎭火社創建、

附記

明治二年十二月廿四日火災

十二月廿八日大火

火產靈神　水波能賣神　埴山毘賣神

右相祭候間、以來諸人參詣可ㇾ爲₂勝手₁事。

但、來ル十五日夜酉刻、御鎭坐、同夜ヨリ翌十六日迄、祭式執行之事。

〔附記〕　東京府全管內諸災調上申ニ據レバ、

同年（○明治二年）十二月廿四日午前五時頃。小日向臺町八十番地淨土宗大圓寺ヨリ出火、同町內十五戶燒失、二戶半燒。（○小石川區役所答申）

明治二年十二月廿五日（○東京府日誌、明治三年二月九日ノ條、「舊臘廿四日夜出火」ト有リ。）

芝中門前三丁目拾四番地　失火原由不詳。

戶數凡五拾戶、內半燒四戶。（○芝區役所答申）

四、十二月廿八日大火　左ノ如ク傳フ。

明治二年十二月廿七日舊第一大區八小區元數寄屋町貳丁目ヨリ出火。但、起火不詳。

一、類燒町數　三拾壹ヶ町。

一、全燒　三千四百貳戶。

一、燒死　貳拾貳人。內、男貳十一人、女壹人。

（○京橋區役所答申）

——東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戶數調同。）

明治二年十二月廿七日舊第一大區八小區元數寄屋町貳丁目ヨリ出火。

類燒町數　三拾三ヶ町

右町名

尾張町一丁目　三十間堀三丁目　鎗屋町　元數寄屋町四丁目　山下町　惣十郎町　八官町

木挽町五丁目　銀座三丁目　尾張町二丁目　新肴町　元數寄屋町一丁目　竹川町　南鍋町一丁目　南佐柄木町　丸屋町

木挽町六丁目　銀座四丁目　三十間堀一丁目　西紺屋町　元數寄屋町二丁目　出雲町　南鍋町二丁目　加賀町　山城町

木挽町七丁目　尾張町新地　三十間堀二丁目　彌左衞門町　元數寄屋町三丁目　南金六町　瀧山町　日吉町

——十五區六郡火災調上申

同（○明治二年十二月。）廿七日子下刻、元數寄屋町の米屋にて餅舂より誤て竈より失火し、南鍋町・南佐柄木町・山下町・加賀町・八官町・山城町・丸屋町・鎗屋町の邊、尾張町・銀座町邊、木挽町、新橋燒落、汐留芝口三丁目迄、布袋屋・松坂屋跡にて燒、脇坂侯・仙臺侯元屋敷邊まて數箇所燒亡す。長九町、幅平均して四町半程なり。翌日朝五時過鎭る。（○齋藤月岑日記ニハ、「廿八日、今曉八時頃、南なべ丁ゟ出火、加賀町邊、尾張丁、銀座、汐留、芝口三丁目、仙臺侯跡の邊迄延燒、朝五時過鎭る。」ト有り。）

——續武江年表

十二月廿八日（○明治二年。）鍋町失火、延燒我芝口邸。

——脇坂家譜（○龍野。）

十二月二十八日（○明治二年。）木挽町藩邸燒失。山下門外ヨリ火起リ延燒ス。

附記 明治三年正月火災

〔附記〕東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戸數調同。二、

明治三年一月一日

源助町拾七番地　怪火。

戸數凡九拾戸、內半燒七戸。（〇芝區役所答申）

同（〇明治）三年正月十三日夜、

小日向茗荷谷町九番地淨土宗良念寺ヨリ出火、本堂燒失。（〇小石川區役所答申）

——奥平家譜〇豐前中津。

明治三年火災 正月廿七日火災 二月十日火災

三年庚午〇明治〇〇紀元二五三〇年。正月廿七日辰ノ口〇市內麴町區。元評定所燒ク。〇東京府全管內諸災調上申。續武江年表。二月十日〇明治三年（紀元二五三〇年）小石川同心町內。〇市火有リ、延テ表町・境町・金杉町・大門町・仲町・水道町〇市內小石川區。等ヲ燒ク。〇東京府全管內諸災調上申。

六月二日火災

東京府火災戸數調。東京府日誌。齋藤月岑日記。佐野弘毅日誌。六月二日〇明治三年（紀元二五三〇年）富岡門前町〇市內深川區。失火、同門前仲町・山本町・黑江町〇市內深川區。ニ延燒ス。〇東京府全管內諸災調上申。東京府日誌。

六月十六日火災

十六日〇明治三年（紀元二五三〇年）六月。清水門內〇市內麴町區。元清水邸燒ク。〇東京府日誌。

八月廿七日火災

八月廿七日〇明治三年（紀元二五三〇年）。本所相生町二丁目內。〇市出火、延燒松坂町二丁目〇市內本所區。ニ及ブ。〇東京府全管內諸災調上申。東京府火災戸數調。東京府日誌。齋藤月岑日記。

閏十月七日火災

閏十月七日〇明治三年（紀元二五三〇年）舊本丸蓮池門內彈藥庫燒ク。〇皇城篇參照。

閏十月廿八日火災

廿八日〇明治三年（紀元二五三〇年）閏十月。神田山本町內。〇市出火、田代町・神田旅籠町壹丁目〇市內神田區。類燒ス。〇東京府全管內諸災調上申。東京府火災戸數調。佐野弘毅日誌。

十二月十三日火災

十二月十三日〇明治三年（紀元二五三〇年）麴町一丁目〇市內麴町區。火有リ。〇東京府日誌。東京府火災戸數調。

十二月廿二日火災

廿二日〇明治三年（紀元二五三〇年）十二月。浪花町〇市內日本橋區。出火、十五箇町、千百餘戸ヲ類燒ス。〇東京府全管內諸災調上申。東京府火災戸數調。齋藤月岑日記。

明治三年火災事蹟

明治三年火災　是年火災ニ罹リタル者三千九百五十九棟、四萬千五百七十七坪餘ノ內、重ナル者ヲ左ニ擧ク。

正月廿七日火災

一、正月廿七日火災　左ノ如シ。

明治三年火災

正月日不詳	辰ノ口元評定所	當時民部省附	發火不詳	全燒壹棟

——東京府全管內諸災調上申

同〇明治三年正月。廿七日夕七時、辰の口元評定所當時貨幣局より出火、類燒これなし。

——續武江年表

二月十四日火災

二、二月十日火災ハ、

同年〇明治三年。二月十日午後八時過、

小石川同心町上地今貳番地ニ當ル。借地大藏省附屬礒・一兵衞宅ヨリ出火、小石川同心町・同所表町・同所境町今小石川久堅町。同所金富町。同所金杉町今小石川金富町。同所大門町・同所仲町・同所水道町、右七ヶ町へ燒込、長五町餘、幅平均三十間程燒失。戸數不ㇾ判然。

○附箋ニ、「長延五町、內道幅貳拾五間引、此長延貳百七十五間、幅三拾間、此坪數八千貳百五拾坪、內軒下幷空地見込三割引、五千七百七拾五坪、壹戸拾九坪見込、三百四戸。」ト有リ。

——東京府全管內諸災調上申○東京府火災戸數調同。

(○小石川區役所答申)

十一日○明治三年二月。曉八時過、小石川傳通院前火事、安藤殿、又水戸御やしきやけ込、明前消る。

——齋藤月岑日記○續武江年表畧。

同○明治三年二月。十日、午、晴、大風。

一、夜ニ入八時頃、同心丁ゟ出火、傳通院前不ㇾ殘類燒ニ付、水道端に行。井上來。

——佐野弘毅日誌

五月十四日○明治三年。達書

小石川淨土宗
傳通院

當二月十一日曉、小石川境町續同心町ゟ出火之節、同院前町其外類燒家貳百七拾七軒ェ、金四拾五兩施差出候段、殊勝之儀ニ付、爲ニ褒稱ㇾ金七百疋被ㇾ下候事。

——東京府日誌

附記

明治三年二月十一日後火災

〔附記〕東京府全管內諸災調上申所載、本所區役所答申左ノ如シ、

明治三年二月十一日午前五時發火、同八時鎭火。

龜戸天神裏門前　料理渡世　巴屋大助

一、失火

右ハ挑灯ヨリ發火、同所ヨリ龜戸村・柳島新田・本所五ノ橋町等飛火延燒。

全燒住居七拾八戸、納屋五棟、稻荷壹社。半燒七戸。

明治三年五月廿八日午前三時發火、同六時鎭火。

本所元町兩國橋東南詰。芝居小屋

一、失火

右ハ火鉢殘火ヨリ發火。

全燒、住居貳拾壹戸、床見世八戸。(○齋藤月岑日記「廿八日、今夜花火之處、丑刻向兩國尾上町垢額場の□ゟ火事、中むらや通等、いとまる田舍そば、與兵衞ずし、こま廻し源彌、角力取回向院の前類燒、大德院の側ハのこる。」ト記ス者是災歟。)

六月二日火災

三、六月二日火災　左ノ如シ。

年月日	放火、怪火、手過	全燒戸數	半燒戸數	死傷人員	町名番地	火元姓名
明治三年六月二日	手過	三百戸餘不詳	不詳	不詳	深川富岡門前町三拾番地	富山淸藏

——東京府全管內諸災調上申○東京府火災戸數調同。

(○深川區役所答申)

六月二日○明治三年。

深川富岡門前町家より出火、々勢强、南風ニ而、同町幷同門前仲町・同所山本町・

帝都時代ノ火災

同所黑江町ニ燒込、凡長三町餘・幅平均壹町程・竈數七百六拾竈燒失ス。

——東京府日誌

六月二日〇明治三年。夕八時過、深川富岡門前南側なる手遊び屋過て花火より失火して、深川に僑居の娼樓悉く燒亡す。長三町、幅平均して二町程なり。娼家ハ八月限元地吉原町へ引移り候樣ユ仰付なり。

——續武江年表〇齋藤月岑日記同。

六月十六日火災

四、六月十六日火災　東京府日誌ニ、

十六日〇明治三年六月。

夜四半時頃、清水御門內元清水邸出火。

廿七日

中年寄 島田藤一　松村福次郎
添年寄 中村彌八郎　矢部與兵衞

其方共義、去ル十六日夜、竹橋御門內清水舊邸燒失跡、下火鎭方申付候町火消よ組外二組ェ附添、格別骨折候ニ付、爲手當、金百疋ツヽ被下之。

町火消壹番組之內 よ組。万組。
六番組之內 ゐ組。

人足、地主共。

其方共儀、去ル十六日夜、竹橋御門內清水舊邸燒失跡、下火鎭方之義申付候處、消防方勞ヲモ不厭、翌朝迄相掛、場廣之下火、夫々取消、全臨時之義ニ而、格別骨折候ニ付、手當トシテ鳥目五拾貫文被下之。

續武江年表ニハ、「同〇明治三年六月。十六日夜四時過、清水侯御屋形跡より出火して、御殿向其外燒亡す。」ト見ユ。

附記 明治三年七月火災

〔附記〕

同年〇明治三年七月十一日午前一時頃、
一、橋本町貳丁目五番地舂米渡世大坂屋藤兵衞宅ヨリ手過チ失火、戶數凡八拾戶全燒。他町ヘ延燒セズ。但、死傷人無之候。〇神田區役所答申

——東京府全管內諸災調上申

十六日〇明治三年七月
今夜九時頃、上野山內寺院ゟ手過こゟ出火いたし、長凡拾五間餘、幅平均八間程燒失。
〇東京府全管內諸災調上申ニハ、上野櫻木町ニ於テ壹戶全燒スルコト見ユ。

——東京府日誌

八月廿七日火災

五、八月廿七日火災　傳フ、

明治三年八月廿七日午前二時發火、同六時鎭火。
本所相生町二丁目當時六番地

一、失火　湯屋要藏

右湯風呂釜前ヨリ發火、同町及ヒ同所松坂町二丁目ヘ延燒。
全燒百壹戶。半燒五戶。〇本所區役所答申。

——東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戶數調同。東京府日誌。齋藤月岑日記異事ナシ。

附記　明治三年九月火災

〔附記〕東京府全管內諸災調上申ニ、

明治三年九月三十日

四谷尾張町壹番地明家ヨリ出火。

全燒三拾六戶。半燒四戶。死傷人無之。（〇四谷區役所答申）

閏十月七日火災

六、閏十月七日火災　舊本丸蓮池門內彈藥庫ノ燒失ニ係ル。記シテ皇城篇ニ在

明治三年火災

閏十月七日	蓮池門內元金藏跡	當時武庫司附	手過	全燒壹棟。死傷人アリ、人員不詳。

——東京府全管內諸災調上申

（〇麴町區役所答申）

八日〇〇明治三年閏十月。諸書七日ニ作ル。

今晝四ツ時過、蓮池御門內ヨリ出火致シ、二番三番之元金藏燒失。

——東京府日誌

附記　明治三年閏十月廿日後火災

〔附記〕東京府日誌云フ、

廿日（〇明治三年閏十月）

今曉八ツ時頃、深川海邊大工町二丁目町家ヨリ出火、同町裏町・同所東海邊大工町ヘ燒込、長五十間、幅平均六十九間燒失。

廿七日

今夜五ツ時過、麴町永田町日技神社境內ヨリ出火、長三十間、幅平均二十五間燒失。（〇東京府全管內諸災調上申ニハ、「閏十月廿七日、永田町二丁目舊社家町、圓乘院跡發火不詳、全燒、十四戶」ト見ユ。）

廿八日

今曉七ツ時頃、本所太平町一町目續勝山藩邸ヨリ出火、長三十間、幅平均二十間燒失。

閏十月廿八日火災

七、閏十月廿八日火災

明治三年十月〇閏十月歟。廿八日午前二時頃

一、神田山本町拾壹番地炭薪渡世柴田半兵衞方ヨリ怪火ニ而出火、同所及田代町・神田旅籠町壹丁目ヘ燒込、戶數凡三百六拾戶程燒失。但死傷人無之候。

——東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戶數調同。

廿九日〇明治三年閏十月、〇諸書廿八日ニ作ル。

今曉七ツ時頃、神田山本町々家ヨリ出火、同町并田代町・同所末廣町・同所旅籠町一丁目・同所花田町・金澤町ヘ燒込、長一町、幅平均五十間燒失。

——東京府日誌

十二月十三日火災

八、十二月十三日火災　左ノ如シ。

佐野弘毅日誌ニハ、「同〇明治三年閏十月。廿八日、寅、晴、御成道出火。」ト有リ。

十二日〇明治三年十二月。

今夕八半時頃、麹町一町目町家ヨリ出火、同町二町目同所隼町・同所續元火消屋敷上地ヘ燒込、長五十八間、幅平均四十三間燒失。

——東京府日誌

明治三年火災

十二月十三日	麹町壹丁目十三番地	發火	火入	全燒	百戸

（〇麹町區役所答申）

——東京府全管内諸災調上申〇東京府火災戸數調同。

十二月廿二日火災

九、十二月廿二日火災　左ノ如ク傳フ。

廿二日〇明治三年十二月。

今夜九時頃、難波町々家ヨリ出火、長三町幅平均二町燒失。

——東京府日誌〇齋藤月岑日記異事ナシ。

同年〇明治三年。十二月廿二日

浪花町十九番地搗米渡世上州屋豐吉宅ヨリ出火、藁灰ヨリ發火。

浪花町・住吉町・新和泉町・高砂町・堺町・岩代町・葺屋町・新材木町・新乗物町・元大坂町・芳町・堀江六軒町・甚左衛門町。

合計十五ヶ町、全燒千百八十戸、半燒五十七戸。

——東京府全管内諸災調上申〇東京府火災戸數調同。

同年〇明治三年十二月。廿二日夜難波町春米屋直吉が宅より失火して、長三町半幅平均して二町餘燒る。町名十八ヶ所なり。

——續武江年表

附記

明治三年十二月廿三日火災

〔附記〕

明治三年十二月廿三日午前二時發火。同六時鎭火。

中ノ郷竹町（當時二番地）　汁粉渡世　服部大吉

一、失火　原由　藁灰

右臺所ヨリ發火、同町及ヒ本所原庭町・表町・番場町等ヘ延燒。全燒、住居四拾戸。寺三ヶ寺。半燒拾壹戸。死亡〈火元ノ家〉。傭男壹人女壹人。（〇本所區役所答申）

下谷坂本町四丁目　明治四年一月六日　全燒三拾九戸。半燒壹戸。

（〇下谷區役所答申）

明治四年正月後火災

明治四年一月十八日

芝伊皿子拾四番地

戸數凡九拾戸。（〇芝區役所答申）

——東京府全管内諸災調上申

十八日（〇明治四年正月）

今夜九時過、芝伊皿子町々家ヨリ出火、三田臺町二町丁ヘ燒込、長五十間幅平均八間燒失。

——東京府日誌

明治四年二月一日午前二時神樂坂二丁目八番地平民三河屋又兵衛臺所ヨリ手過出火。

神樂町貳丁目。玉崎町。（現今神樂坂壹丁目）

一、類燒戸數七拾五戸。　一、半燒戸數拾九戸。但、死傷人無之。（〇牛込區役所答申）

明治四年火災
二月八日火災
四月五日火災
五月廿九日火災
九月廿八日火災
十一月九日火災
明治四年火災事蹟
二月九日火災

——東京府全管內諸災調上申

四年辛未○明治○紀元二五三一年。二月八日淺草田島町○市內淺草區。出火、二町餘ヲ延燒ス。○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。四月五日○明治四年(紀元二五三一年)。淺草茶屋町○市內淺草區。火有リ、延テ並木町・材木町○市內淺草區。ニ及ブ。○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。五月廿九日○明治四年(紀元二五三一年)。新吉原町○市內淺草區。火ヲ失シ、一廓六百餘戸ヲ燒ク。○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。九月廿八日○明治四年(紀元二五三一年)。堀留町○市內日本橋區。出火シ、六箇町燒失ス。○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。十一月九日○明治四年(紀元二五三一年)。櫻田本郷町○市內芝區。火有リ、全燒八百餘戸ヲ算ス。○東京府火災戸數調、東京府全管內諸災調上申。

明治四年火災 燒失屋舍二千六百九十棟、二萬八千二百六十坪餘ノ內、左ニ主ナル者ヲ擧グ。

一、二月八日火災 ハ、

明治四年二月八日。手過。

淺草田島町 全燒四十六戸。
同所田原町三丁目之內、 全燒七十八戸。半燒三戸。
同所同町二丁目 全燒百五十五戸。半燒十二戸。
同所同町一丁目之內、 全燒壹戸。半燒壹戸。

〃全燒二百八十戸。半燒十六戸。死傷人無之。○淺草區役所答申。

——東京府全管內諸災調上申○東京府火災戸數調同。

八日○明治四年二月。今夜五ツ半時頃、淺草田町々家ヨリ出火、長二町餘、幅平均二十間燒失。

——東京府日誌

同○明治四年二月。八日戊下刻、淺草本願寺後田島町火事、田原町迄燒る。消防器械ポンプ始て用ひ、便利を知る。

——續武江年表

附記
明治四年三月火災
四月五日火災

〔附記〕東京府全管內火災調上申ニ、

明治四年火災

三月廿三日	永田町二丁目舊岸和田藩邸	當時中學校	發火不詳	全燒壹戸

二、四月五日火災 ハ、

明治四年四月五日○東京府火災戸數調「五月四日」トスルハ誤。手過。

淺草茶屋町 全燒三十戸。半燒二戸。
同所並木町之內、 全燒九十五戸。
同所材木町之內、 全燒六十八戸。半燒三戸。

〃全燒百九十三戸、半燒五戸。火元ニテ男兒壹人死亡。同斷雇女壹人死。隣

家ニテ男壹人死。（○淺草區役所答申。）

——東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）

四月四日（○明治四年。）

今曉七半時過、淺草茶屋町ヨリ出火、同町并同所並木町・同所材木町・同所駒形町ヘ燒込、長六十間、幅平均四十間燒失。

——東京府日誌（○續武江年表異事ナシ。）

五月廿九日火災

三、五月廿九日火災　新吉原ノ燒失是也。

明治四年五月二十八日。手過。

新吉原江戸町二丁目　壹圓　百三十七戸。

同所同町壹丁目　但シ、同町三十壹番地ノ分殘。　同　七十二戸。

同所揚屋町　壹圓　百九戸。

同所角町　同　六十八戸。

同所京町一丁目　同　百卅二戸。

同所京町二丁目　同　百卅五戸。

同所五十間町之内　全燒二十戸。半燒五戸。

〆全燒六百七十三戸。半燒五戸。死傷人無之。（○淺草區役所答申。）

——東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）

東京府日誌ハ、明治四年七月晦日四十四區中添年寄町年寄ヘノ達書中、「新吉原町之儀ハ、古來ヨリ家屋接近イタシ候故、累年出火之災害不少候處、平常火防之備無之ニ付、既ニ當五月廿九日曉出火之節モ、往還場狹ニテ、防禦之策モ無之、遂ニ一廓燒失及ヒ候」ト記シ、之ヲ廿九日ノ事トシ、續武江年表亦左ノ如ク傳フ。

同（○明治四年五月。）廿九日曉。寅刻過、吉原江戸町二丁目豆腐屋庄藏宅より失火して、廓中三分の二燒亡す。長二町半、幅平均して一町半許なり。

附記

明治四年六月後火災

〔附記〕　東京府全管內諸災調上申ニ、

同年（○明治四年）六月廿四日

芝三田舊會津藩邸　原由不詳。

戸數凡三四戸。（○芝區役所答申）

明治四年九月二日、舊第一大區拾小區上柳原町出火、但起火不詳。

一、全燒　三拾五戸。（○京橋區役所答申）

九月廿八日火災

四、九月廿八日火災　東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）ニ據レバ、左ノ如シ、

同年（○明治四年。）九月廿七日

堀留町貳丁目廿壹番地魚渡世寅吉宅ヨリ出火。怪火。

堀、留町貳丁目・新材木町・堀留町三丁目・新乘物町・田所町・岩代町。

合六ヶ町。全燒三百五十戸。半燒二十三戸（○日本橋區役所答申。）

佐野弘毅日誌ハ、「同（○明治四年九月。）廿七日、寅、晴、極大風。夜中田所町邊出火」ト記シ、續武江年表ハ、「廿八日曉丑刻頃、堀留町火事、長谷川町・田所町ヘ燒込」ト記ス。

十一月九日火災

五、十一月九日火災　東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）ニ云フ、

同年（○明治四年。）十一月八日

櫻田本鄕町七番地　戸數凡八百戸。（○芝區役所答申。）

同年（○明治四年十一月。）九日曉丑刻頃、櫻田本鄕町、拍戸賣茶亭より失火して、兼房町・久保町・伏見町・備前町南の方武家地迄、二町程燒亡す。

——續武江年表

附記

明治五年一月八日火災

〔附記〕東京府全管內諸災調上申ニ、

同（○明治）五年一月八日午前三時頃、

一、神田旅籠町三丁目四番地料理渡世古田新兵衞宅ヨリ手過チ出火、同町貳丁目ヘ燒込ミ、戸數凡九拾戸餘燒失。但死傷人無レ之。

明治五年火災

正月十一日火災

正月十四日火災

二月廿六日大火

五年壬申（○明治○（紀元二五三二年）。）正月十一日、平河町二丁目（○市內麴町區。）火有リ。（○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。）十四日（○明治五年（紀元二五三二年）正月。）日吉町（○市內京橋區。）火ヲ失ス、類燒二箇町也。（○東京府全管內火災戸數調。東京府諸災調上申。）二月廿六日（○明治五年（紀元二五三二年）。）祝田町（○市內麴町區。）失火、延燒築地（○市內京橋區。）ニ及ビ、被害二千九百餘戸ニ達ス。（○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）

四月廿四日火災

七月朔日火災

四月廿四日（○明治五年（紀元二五三二年）。）本石町（○市內日本橋區。）火有リ、燒亡六箇町ニ及ブ。（○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。）七月朔日（○明治五年（紀元二五三二年）。）淺草駒形町（○市內淺草區。）燒ク。（○東京府火災戸數調。東京府全管內諸災調上申。）

明治五年火災事蹟

明治五年火災　是年、燒失屋舍三千七百十五棟、三萬九千九坪餘中、重ナル者、下記ノ如シ。

正月十一日火災

一、正月十一日火災　東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）ヲ左ニ抄ス。

明治五年火災

一月十一日	麴町平河町貳丁目十二番地	物置怪火	全燒	二百六拾戸

（○麴町區役所答申）

續武江年表ニハ、「同（○明治五年正月。）十日曉、麴町平河町二丁目明家より出火して、四丁程燒亡、平河天滿宮類燒なり」ト有リ。

正月十四日火災

二、正月十四日火災　東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）ニ、

明治五年一月十四日舊第一大區九小區日吉町ヨリ出火。但起火不詳。

附記
明治五年一月十九日後火災
二月廿六日大火

一、類燒町數貳ヶ町。　一、全燒百七拾七戶。（○京橋區役所答申。）

十五區六郡。火災調上申、明治十四年四月廿七日京橋區役所答申ニハ、左ノ如ク見ユ。

明治五年一月十四日舊第一大區九小區日吉町ヨリ出火。

類燒町數　三ヶ所

右町名　日吉町　出雲町　南金六町

〔附記〕東京府全管內諸災調上申ニ、

明治五年一月十九日
芝新堀町織田藩邸
戶數凡三戶。（○芝區役所答申）　原由不詳。

明治五年火災

二月廿二日	外櫻田舊彥根藩邸	發火不詳	全燒	壹棟

（○麴町區役所答申）

三、二月廿六日大火　相傳フ、

明治五年火災

二月廿六日	和田倉內舊會津藩邸	發火不詳	全燒	五戶

（○麴町區役所答申）

明治五年二月廿六日舊第一大區一小區祝田町ヨリ出火。

一、類燒町數貳拾四ヶ町。　一、全燒貳千九百貳拾六戶。

一、燒死三人　內、男二人。女一人。（○京橋區役所答申）

——東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戶數調同。）

同年（○明治五年。）二月廿六日第一大區一小區祝田町ヨリ出火。

類燒町數　三拾四ヶ町

右町名

南本郷町　銀座二丁目　三十間堀一丁目　金六町　新肴町　元數寄屋町貳丁目　尾張町二丁目　南鍋町二丁目

築地貳丁目　南小田原町二丁目　上柳原町　銀座三丁目　三十間堀二丁目　南紺屋町　彌左衛門町　元數寄屋町三丁目　南鍋町一丁目　瀧山町

築地三丁目　南小田原町三丁目　南飯田町　銀座四丁目　三十間堀三丁目　弓町　鎗屋町　元數寄屋町四丁目

南小田原町一丁目　南小田原町四丁目　銀座一丁目　尾張町新地　京橋水谷町　西紺屋町　元數寄屋町壹丁目　屋張町一丁目

——十五區六郡火災調上申（○京橋區役所答申。）

同年（○明治五年三月。）廿六日、辰、大風。

一、八ツ時過ゟ、和田倉內ゟ出火、大風大火、築地邊迄燒ル。勝次郎・鐘三郎出ル。夜入歸宅。

——佐野弘毅日誌

同年（○明治五年二月。）廿六日、大風、未半刻、和田倉御門內元會津侯邸跡當時兵部省添屋敷より出火む。焔勢東南に被り、山內侯・大藏省紙幣寮・織田侯・司法省等燒亡、又

坊間へ飛火して、西紺屋町・南紺屋町・弓町・新肴町・鎗屋町・彌左衞門町・南鍋町一丁目・二丁目・瀧山町・元數寄屋町二丁目・三丁目・四丁目・京橋水谷町・金六町・銀座一丁目より四丁目迄、尾張町一丁目・二丁目・同町新地・三十間堀一丁目より三丁目迄、木挽町一丁目より五丁目迄、采女町・松村町・大富町・新富町五丁目より七丁目迄、南飯田町・上柳原町・南本郷町・南小田原町一丁目より三丁目迄、西本願寺・ホテル、其外燒亡ㇾ及ぶ。町數四拾一町、長廿町餘、幅平均して四町程なり。夜亥刻鎭る。燒死八人あり。官員方、其外富商より類燒の貧民へ施行多し。災後道幅の事、又家作ハ塗家か或ハ煉瓦石を用ひ候樣、御沙汰有ㇾ之次第に造營の事、次に記す。

同〇明治五年三月。二日、御府下家屋建方火災を可ㇾ凌追、追々煉化石（レンガセキ）を以て取建る樣、尚又英人ウォトルス氏の示たる方法を以、委曲の御布令有ㇾ之、其後銀座・尾張町・竹川町等の大通りより始り、次第に修造成り、戌年迄往還十五間に廣がり、この正中を馬車道、左右を人道とし、又馬車道と人道の境兩側へ樹木を栽しめらる。通り町より西の中通弓町邊より南大坂町迄、又御堀端比丘尼橋南の方西の屋町通り山下町丸や町邊迄、明治十年迄に煉瓦石建物落成す。銀座一丁目貸食舗松田といへるは、煉瓦作の内殊に美麗の大廈を營み、奴婢數人を抱へ、日毎に來客群集して賑へり。——續武江年表

壬申〇明治五年。二月廿六日第三字ヨリ出火、曉四字頃鎭火す。和田倉御門内兵部省添邸脇ヨリ炎上、

燒失ノ方里、

長二十町、千貳百間。横、四丁、貳百四十間。

〆二十八萬八千坪。

戸數凡壹萬。死人九人。怪我人六十人。人員未調分。

但、一晝夜貧窮ノ者へ救米五十石餘。

東元島原仲場まて止、西南鍋丁二丁目ニ止、南築地海岸迄。北兵部省脇火元。〇横濱毎日新聞。

今日〇明治五年二月廿六日。午後三字ゴロ、和田倉御門内モト會津屋鋪ヨリ出火セシカ、折カラ烈風ニテ、大名小路へ飛火イタシ、兵部省ヲハジメ、岡山縣・高知ケンノ邸宅ヲ燒拂ヒ、夫ヨリ又々京橋西紺屋町幷ニ銀座二丁目へ飛火イタシ、大ダウリハ、銀座壹丁目ヨリ尾張町二丁目迄、御堀端通リハ、數寄屋河岸迄、三十間堀三町目マデ、新島原南ガハ殘ラズ、木挽町一丁目ヨリ五丁目迄、西本願寺地中ノコラズ、築地南飯田町半分ホド殘リ、跡ノコラズ、ホテル迄燒失致シ、ヨル

十字ゴロ漸クニ鎮火セリ。○東京日々新聞。○按ズルニ東京日々新聞二月廿七日ノ紙上、又「兵部省御類焼の由記載セシガ、全く傳聞の誤にて、長屋いさゝか類焼せしのみなり」ト記ス。

――見聞雜録

〔參考〕明治五年二月廿六日ノ大火ハ、實ニ京橋以南ニ於ケル煉瓦家屋建築ノ起因ヲ爲ス。事、市街篇ニ具スレハ、參看ス可シ。是時明治天皇皇后兩陛下ヨリ救恤金ノ御下賜有リ。官民有志者亦米國チカゴ府大火ニ各國民ノ義捐救助シタル例ニ倣ヒテ寄附スル者尠ナカラズ。其顛末ハ救濟篇ニ記スルヲ以テ、此ニハ其一斑ヲ擧グ。

非常之天災ニ逢、流離之困厄ヲ蒙リ候者共之儀、政府之御救助ヲ不待、人民共義之情ニ於而、固ヨリ傍看スベキ事ニ無之、既ニ去月廿六日府下火災之如キ、烈風猛火ニテ延燒數十町ニ及、家産ヲ失ヒ、俄ニ路頭ニ迷ヒ候者モ不少、誠ニ憫然之至ニ候。依而窮民救助之爲、拙者共始、本院官員有志之者ハ、施金左之割合ノ通差出候積ニ有之、右ハ爲御心得申入置候也。

但、類燒之官員除之事。

壬申○明治五年。三月五日

板垣參議　大隈參議
木戸參議　西郷參議
岩倉右大臣　三條太政大臣

由利東京府知事殿

一等　二等、貳百兩。　三等、百兩。　四等、五拾兩。
五等、四拾兩。　六等、三拾兩。　七等、貳拾兩。　八等、拾五兩。
九等、拾兩。　十等、七兩。　十一等、六兩。　十二等、五兩。
十三等、四兩。　十四等、三兩。　十五等、貳兩。

去廿六日之火災ハ、實ニ非常之厄運ニして、此災害に罹りし一般之人民ハ如何計困窮可仕哉、就中貧乏之者共ハ、僅々擔石之餘資も、一朝塵灰に委し、唯屋宅を失ひ而已ならず、單衣粒米も需求之術なく、甚しきハ路頭に迷ひ者共も數多可有之ニて、深く悲傷難慨之至ニ奉存し。畢竟家屋建築之制粗惡にして、平素防火之豫備無之、殊に貸家會社又ハ火災請負之方法も不相立より、斯る奇變ニ會しし節ハ、別る困乏を究め、終ニ其産をも失却し、心ならず乞丐之徒ニ陷りし者共無之とも難申、目今隆盛之御時節、百般之美事良法御振興之際ニ於て、右樣之事共有之しそ、如何ニも恐悚之至ニ奉存し。

右に定る御救恤之方策、夫々御施設も可被爲在と奉瞻望候に付、私義も乍瑣少金百圓前書災禍に罹り候貧民に助成之爲メ、御府に奉獻納度候間、何卒御仕法之萬一ニ御補給御座候樣、伏る奉懇願候也。

明治五年壬申三月五日

第四大區小一區住平民
澁澤榮一　印

東京府御廳

別紙懇願之儀、再案仕候處、私儀卑職ながら、官途之末に罷在、方今官民之情狀も畧相心得居可申筈之處、尋常平民之願請ニ等しく奉申上候ハ、自ら叙次を誤り、不穩樣相聞、却る恐懼之至ニ候得共、私儀ハ現ニ府下平民へ編籍願濟相成居、所謂同里相憐之友情より相生し候義ニて、全く官邊に不相關儀を奉懇願候次第ニ候間、何卒御諒察被成下、御許允の程奉願候也。

明治五年壬申三月五日

大藏省三等出仕
澁澤榮一

東京府御中

去ル廿六日之火災者實ニ非常之厄運ニシテ、此災害ニ罹ル一般之人民者、如何計困窮可仕哉、就中貧乏之者共ハ、僅ニ擔石之餘貲モ、一朝塵灰ニ委シ、唯屋宅ヲ失候而已ナラズ、單衣粒米モ需求之術ナク、甚シキハ路頭ニ迷ヒ候者共モ數多可有之事ニ而、深ク悲傷歎慨之至奉存候。因テ此災厄之衆庶ヲ助成保護セン爲ニ、人間相憐之協議ニ基キ、本省中之職員ゟ別紙計算之金額ヲ給助致シ度、抑這回ノ如キ、一陣烈風之爲、火災ヲ延蔓スル原由ハ、畢竟家屋建築之制粗惡ニシテ、平素防火之豫備無之者勿論、貸家會社、又ハ火災請負等之方法、未タ不相立ヨリ、斯ル厄運ヲ波及シ、奇ナル變害ヲ釀シ成候儀ニ而、今後之豫備法深ク杞憂之折柄、幸ヒ正院之公議トシテ、今度延燒ニ及候街道之位地ヲトシ、居宅ハ練瓦石ヲ以建築致サスベク旨、當省幷東京府ヱ御達相成、實ニ開明之捷徑ニシテ、今ヨリ市民之火災ヲ免レ候者、此御盛擧之時日ヲ以、人々之目標ニ可致程ノ御儀ト、不堪感佩、就而者、別紙記載（畧）之通、助成之爲出候金子ハ、素ヨリ濟貧恤窮之主旨ナレド、火災之市民不殘窘窮之者而已ニモ無之、旁以一般之人々ニ配賦致シ候ハヽ、自然酒食ニ消費シ、折角之素意モ不貫候間、災厄ニ罹候戸々之内、困乏無告ニシテ、居宅難營者共ヱ夫々築造之上相渡候ハヽ、銘々其家產ニ復シ可申ハ勿論、心ナラスシテ乞丐之徒ニ陷リ候者モ無之、實ニ隆盛之美事ニシテ、將來良法振興之開導ニモ相成可申、加之横濱居留之各國人ニ於テモ、今般之火災ニ罹リ候場所ヱ、チカコー府之先蹤之如ク、夫々助成等之企望モ有之哉ニ相聞候間、自然右樣之儀モ候ハヽ、中外之助成ヲ合併シ、前條居宅築造之實費

ニ資用仕候ハヽ、實ニ協會相憐之本意ヲ盡シ候事ニ可有之ト存候。此議可然候ハヽ、至急東京府ヱ御沙汰被成下度、此段相伺申候也。

壬申三月四日　大藏大輔　井上馨

正院御中

（朱）伺之通候條、方法ハ東京府ヘ可打合事。印

主上御下賜金二千圓、皇后宮御下賜千圓ノ外、正院官員千七百七十六圓、式部寮官員二百八十六圓、東京府官員千四百十四圓、澁澤榮一百圓、爲替三井組二千圓、横濱會社頭取五百圓、東洋銀行米金千弗、協救社二百圓、横濱商人三千圓、大學南校敎師クリフヒス五十七圓九十三錢七厘、陸軍省官員三千五百七十八圓、海軍省官員二千七百九十六圓、大藏省官員六千二百八十九圓、開拓使官員二千三百七十四圓、司法省官員千九十四圓、東京爲替會社五千圓等ノ義捐有リ。內一部ハ、正院指令ニ基キ東京府ニ於テ直ニ罹災民ニ分與シ、一部ハ寄附者ノ指定費途タル市街改築費ニ充用スル筈ナリシモ、後之ヲ罹災民ニ分與シタリ。精シキハ救濟篇ニ之ヲ記ス。

四月廿四日火災

四、四月廿四日火災　東京府全管內諸災調上申。（〇東京府火災戸數調同。）傳フル所ニ據レバ、

同年（〇明治五年。）四月二十四日。

本石町貳丁目七番地三浦次郎兵衞宅ヨリ出火、煙草盆火入ヨリ發火。

本石町貳丁目・金吹町・本石町十軒店・本町貳丁目・本革屋町・室町三丁目。

合六ケ町。全燒貳百二十六戸。死傷人無之。（〇日本橋區役所答申。）

附記

明治五年四月廿五日後火災

〔附記〕

明治五年四月二十四日濱町貳丁目三番地華族池田家邸內ヨリ出火、燈火ヨリ、延燒。（〇日本橋區役所答申〇續武江年表ニハ、「廿四日子半刻、濱町因州侯藩邸より出火、御殿もやけて、明方に鎭る。」ト有リ。）

同（〇明治五年四月）廿五日曉、本石町二丁目鰻屋（佃治と云。）より出火して、駿河町・本町三丁目、通り町ハ兩側共、長二町餘なり。　——東京府全管內諸災調上申

同（〇明治五年五月）十九日曉、雨後深川木場町火事、二町程燒。　——續武江年表

同書所載、麴町區役所答申ニ據レバ、六月十六日清水門內舊清水邸一戸全燒シタル者ノ如シ。舊清水邸ハ嚮ニ明治三年六月十六日ヲ以テ燒ク。今亦同シク六月十六日ヲ以テ災スル歟、否歟。姑ク疑ヲ存スト云フ。

七月朔日火災

五、七月朔日火災　東京府全管內諸災調上申（〇東京府火災戸數調同。）ヲ抄出ス。

明治五年六月三十日。手過。

淺草駒形町（全燒八十戶。半燒二戶。）同所三間町（全燒三十戶。）之內、〆全燒百十戶。半燒二戶。死傷人無レ之。（〇淺草區役所答申。）

明治五年七月二日後火災

東京日々新聞明治五年七月二日紙上ニハ、「昨朔日曉四字過、淺草駒形町三十番地住炭渡世のもの宅より出火、字唐からし橫丁兩側半町程燒失、朝六時頃鎭火」ト見ユ。

附記

〔附記〕

明治五年七月二日失火

赤阪新町二丁目ヨリ同壹丁目、同一ツ木町迄、全燒五拾四戶。（〇見聞雜錄ニハ、「七月三日。本日曉第三字頃、赤坂一ツ木町より出火なし、方壹丁餘延燒ニ至ると。此時第二大區消防人足一ト際奮勉し、數ケ所の消口をあけたるに付、其勞を慰するのため酒若干を賜たるよし、一同歡喜の餘り休息所ニ於て階子乘をなせしとなり」ト見ユ。）

——東京府火災戶數調

同年（〇明治五年）十月中

琴平町三番地　原由不詳。

戶數凡三拾五戶。內半燒三戶。（〇芝區役所答申）

明治六年一月十一日火災

明治六年一月十一日午後二時發火、同七時鎭火。

本所荒井町四十七番地

新炭商　山木新平

一、失火

右湯殿ヨリ發火。

全燒住居四拾貳戶。寺貳ケ寺。半燒拾三戶。（〇本所區役所答申）

明治六年火災
一月十二日火災
二月廿一日火災
三月廿六日火災

六年（〇明治六年。紀元二五三三年。）一月十二日新吉原町（〇市內淺草區。）火ヲ失シ、廓外ニ延燒ス。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）二月廿一日（〇明治六年（紀元二五三三年））南佐柄木町（〇市內京橋區。）出火シ、九箇町ニ延燒ス。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。）三月廿六日（〇明治六年（紀元二五三三年））牛込納戶町（〇市內牛込區。）火有リ、細工町・二拾騎町・南山伏町類燒ス。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）是日新シ橋內（〇市內麴町區。）三條邸燒ク。（〇東京府全管內諸災調上申。）

四月十六日火災
五月四日火災
五月五日火災
十一月九日火災
十二月九日火災

四月十六日（〇明治六年（紀元二五三三年））飯田町（〇市內麴町區。）火ヲ失ス。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）五月四日（〇明治六年（紀元二五三三年））駒込追分町（〇市內本鄉區。）火有リ。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）五日（〇明治六年（紀元二五三三年）五月。）皇城炎上ス。（〇皇城篇參照。）十一月九日（〇明治六年（紀元二五三三年）。）藥研堀町（〇市內日本橋區。）火ヲ失シ、四箇町ヲ燒ク。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。）十二月九日（〇明治六年（紀元二五三三年）。）東福田町（〇市內神田區。）出火シ、延燒小綱町（〇市內日本橋區。）邊ニ及ビ、五千七百餘戶ヲ類燒ス。（〇東京府火災戶數調。東京府全管內諸災調上申。佐野弘毅日誌。）

明治六年火災事蹟

明治六年火災　明治六年ハ東京ニ於ケル火災多キ年ノ一ニシテ、市民ノ罹災ノミニテモ、實ニ六千九百七十三棟、七萬三千二百三十坪餘ノ燒失ヲ見タリ。其

一月十二日火災

內重ナル者ハ、

一、一月十二日火災　左ノ如シ。

明治六年一月十二日、手過。

新吉原町二丁目一圓、　百二十戶。

同所江戶町二丁目同、　百四十三戶。

同所五十間町之內、　全燒十二戶。半燒三戶。

同所角町一圓、　七十戶。

淺草田町壹丁目同所聖天横町之內、　全燒百六十九戶。半燒九戶。

猿若町三丁目淺草馬道八丁目之內、　全燒百五十戶。全燒七戶。半燒三戶。半燒二戶。

〆全燒三百四十五戶。半燒三戶。　死傷人無之。（○淺草區役所答申。）

——東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戶數調同。）

同（○明治六年一月。）十二日、子、晴、風。

一、昨夜吉原丁出火、馬道迄之由。

——佐野弘毅日誌

同夜（○明治六年一月十一日。）子下刻、吉原ゝゝ町より出火、廓內ハ半町程の燒亡なれど、田町へ燒出、猿若町三町目へ飛火して、曉にいたり鎭る。

——續武江年表

附記

〔附記〕　東京府全管內諸災調上申云フ、

明治六年一月廿七日後火災

明治六年一月二十七日

橘町四丁目十八番地紙屑渡世長瀨惣兵衞居宅二階蠟燭火ヨリ延燒。

橘町四丁目・同町三丁目・横山町壹丁目・若松町。

合四ヶ町。全燒九十八戶。死傷人無レ之。（○日本橋區役所答申）

明治六年火災

二月三日	霞ヶ關舊藝州藩邸	發火不詳	全燒	壹棟

（○麴町區役所答申）

二月廿一日火災

二、二月廿一日火災　東京府全管內諸災調上申（○東京府火災戶數調同。）ニ、

明治六年二月廿一日舊第一大區九小區南佐柄木町出火。但起火不詳。

一、類燒町數九ヶ町。　一、全燒四百三拾戶。

十五區六郡。火災調上申所載、明治十四年四月廿五日京橋區役所答申スル所ハ、左ノ如シ。

同（○明治六年二月廿一日舊第一大區九小區南佐柄木町ヨリ出火。

類燒町數　八ヶ町。

南佐柄木町　山下町　山城町　瀧山町

加賀町　南鍋町一丁目　南鍋町二丁目　惣十郎町

附記

〔附記〕　東京府全管內諸災調上申云フ、

明治六年三月廿二日火災

明治六年三月廿二日午後十時頃

一、旭町十六番地鍛冶職田中彌之吉宅ヨリ手過チ失火、戸數凡六拾戸程燒失。他町ヘ延燒セズ。但燒死人男貳人、女壹人有レ之ル。（〇神田區役所答申）

三月廿六日火災

三、三月廿六日火災　兩度有リ。一ハ、

明治六年火災

三月廿六日	新シ橋內三條邸	發火不詳	全	燒	壹棟

——東京府全管內諸災調上申

（〇麴町區役所答申）

ニシテ、一ハ

明治六年三月廿六日午後四時、牛込納戸町拾七番地平民松田勘藏方ヨリ手過出火。

牛込細工町・同二拾騎町・同南山伏町。

一、類燒戸數百八戸。一、半燒拾二戸。但死傷人無レ之。

（〇牛込區役所答申）

——東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戸數調同。

同〇明治六年三月。廿六日、丑、晴。

一、夕刻御納戸町出火、井上ヘ駈付。

——佐野弘毅日誌

四月十六日火災

四、四月十六日火災　東京府全管內諸災調上申〇東京府火災戸數調同。ヲ抄ス。

明治六年火災

四月十六日	飯田町二丁目四十七番地	物置藁灰	全	燒	二百十八戸

（〇麴町區役所答申）

佐野弘毅日誌ニハ、「十五日〇明治六年四月。酉、雨。夜中飯田町中坂出火。地震、夜八時過」。ト見ユ。續武江年表ニハ、「同十六日夜十二時過、元飯田町中坂より出火、冬青樹坂、其外一町半程燒亡せり」。ト有リ。

附記

明治六年四月十九日火災

［附記］東京府全管內諸災調上申ニ、

明治六年四月十九日

芝赤羽町製作寮

戸數長屋壹棟

原由不詳。

五月四日火災

五、五月四日火災　本鄉追分町附近災ス。

同〇明治六年五月。四日、辰、晴、風寒、大風。

一、晝後本鄉追分出火。〇續武江年表ニハ、「一町半許燒」。ト見ユ。

一、夜八ッ時過、西丸炎上。鐘三郎駈付ル。

——佐野弘毅日誌

明治六年五月四日夜〇佐野弘毅日誌「晝後」ト有リ。

一、駒込追分町失火。

全燒貳百三十戸。

同東片町ニ延燒。　全燒六十戸。
本鄉森川町ニ延燒。　全燒五十七戸。
――東京府管内諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）

五月五日火災

六、五月五日火災　是日皇城炎上ス。記シテ皇城篇ニ在レバ、今再錄セズ。

附記

明治六年五月十日後火災

〔附記〕　東京府管内諸災調上申ニ、

明治六年五月十日
西河岸町六番地梶木甚三郎宅竈ヨリ發火。
西河岸町・吳服町・通壹丁目。
合三ケ町。全燒三十戸。半燒十戸。死傷人無レ之。（○日本橋區役所答申）
同年（○明治六年）六月廿四日
芝三田舊會津藩邸　原由不詳。
戸數凡三四戸。（○芝區役所答申）
同年（○明治六年）十一月二日
蠣殼町三丁目十番地華族淺野家邸内ヨリ出火、燈火ヨリ延燒。（○日本橋區役所答申）

十一月九日火災

七、十一月九日火災　東京府管内諸災調上申（○東京府火災戸數調同。）ニ云フ、

同年同月（○明治六年十一月。）九日、藥研堀町壹番地杉本ヒさ方物置消炭ヨリ發火。
藥研堀町・米澤町壹丁目・米澤町二丁目・同町三丁目。
合四ケ町、全燒百五十五戸、死傷人無レ之。（○日本橋區役所答申。）

續武江年表ハ云フ、「同（○十一月。）九日夜十一時、藥研堀火事、濱町邊迄燒、二時過消ると。

十二月九日大火

八、十二月九日大火　顚末左ノ如シ。

同年（○明治六年。）十二月九日午前二時頃、
一、東福田町四番地紙屑渡世永田善兵衛宅ゟ手過チ出火。同町半燒、橋本町壹丁目全燒、豐島町一丁目・元岩井町・神田材木町ヘ燒込ミ、戸數凡八百戸餘燒失。其他數十町ヘ延燒。右類燒町々、日本橋區中ニ付、相除キ候。
但、當區内ニハ、死傷人無レ之候。（○神田區役所答申。）

明治六年十二月九日、東福田町ヨリ出火、延燒。
馬喰町壹丁目・同町貳丁目・龜井町・小傳馬上町・横山町壹丁目・通鹽町・鐵砲町・小傳馬町壹丁目・小傳馬町貳丁目・同町三丁目・大傳馬町壹丁目・同町貳丁目・通油町・通旅籠町・堀留町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・田所町・新大坂町・彌生町・元濱町・新乘物町・新材木町・長谷川町・富澤町・葺屋町・堺町・岩代町・新和泉町・住吉町・芳町・新葭町・元大坂町・高砂町・小舟町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・堀江町壹丁目・堀江町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・小網町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・蠣殼町壹丁目・同町貳丁目。

合四十八ヶ町。全燒四千九百五拾貳戶。死傷人無ㇾ之。○日本橋區役所答申。

——東京府全管內諸災調上申 ○東京府火災戶數調同。

附記 明治六年十二月十五日火災

同 ○明治六年十二月。八日、午、晴、風。

一、夜中下町邊大火。

——佐野弘毅日誌 ○續武江年表異事ナシ。

〔附記〕東京府全管內諸災調上申ニ、

明治六年火災

十二月十五日	麹町元園町壹丁目四番地	物置怪火	全燒	三十二戶

（○麹町區役所答申）

明治七年火災

明治七年火災事蹟

一月一日火災 一月廿二日火災 十一月十七日火災 十二月十六日火災

七年 ○明治○紀元二五三四年。一月一日、芝增上寺 ○市內芝區。出火、本堂燒失ス。○東京府全管內諸災調上申。齋藤月岑日記。廿二日 ○明治七年（紀元二五三四年）一月。牛込肴町 ○市內牛込區。火有リ。○東京府全管內諸災調上申。齋藤月岑日記。佐野弘毅日誌。十一月十七日 ○明治七年（紀元二五三四年）川口町 ○市內京橋區。火有リ、千二百卅一戶ヲ燒ク。○消防本署火災報告。十二月十六日 ○明治七年（紀元二五三四年）淺草諏訪町 ○市內淺草區。火ヲ失シ、延テ駒形 ○市內淺草區。ニ至ル。○齋藤月岑日記。消防本署火災報告。

明治七年火災 警視廳消防本署火災報告 ○以下同。ニ據レバ、明治七年ニ於テ東京市內ノ火災總數ハ、二百六十一ヶ所・千五百五十五戶・一萬四千六百九十八坪二合六タニシテ、內重ナル者 ○百戶以上、若クハ五百坪以上、若クハ重要建物ノ燒失。下同。四回有リ。

一月一日火災

一、一月一日火災 左ノ如シ。

同年 ○明治六年。十二月三十一日

芝增上寺 原由怪火。

本堂壹ヶ所。○芝區役所答申。

——東京府全管內諸災調上申

一月一日 ○明治七年。○中畧。芝增上寺曉三時本堂燒失、歎すべし。鐘樓やける。

——齋藤月岑日記

同 ○明治六年十二月。卅一日夜、增上寺本堂炎上、鐘樓も燒亡セ。山內は恙なし。浪士竊に放火する所なりといふ。辰年中上野中堂池魚の災に罹りてより間もあらずして、當山よもかゝる大厦の莊嚴無ㇾ故灰燼となれる事、歎くべし痛むべし。

——續武江年表

一月廿二日火災

二、一月廿二日火災 左ノ如シ。

明治七年一月廿二日午後十時過、牛込肴町四番地平民白井安五郎方庇ヨリ出火、忙火。

一、牛込肴町・同所岩戶町・上宮比町。

一、類燒戶數百二拾六戶。一、半燒戶數拾八戶。但死傷人無ㇾ之。○牛込區役所答申。

附記
明治七年二月火災
十一月十七日火災

二十二日（明治七年一月。）夜、牛込神樂坂上火事。神樂町・肴町善國寺ヤケ、[　]のこる。

——東京府全管內諸災調上申

同（明治七年一月。）廿二日、卯、晴。

——齋藤月岑日記

一、夜中神樂坂出火、井上に行、勝次郎鐘三郎同道。

——佐野弘毅日誌

〔附記〕　齊藤月岑日記ニ、

二月一日（明治七年）夜、下谷茅町火事、一丁程やける。

三、十一月十七日火災　消防本署火災報告（摘抄ニ據レバ、下同。）

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十七日（明治七年十一月）	發火 后十一時五十分 鎭火 翌前一時三十分	第一大區十六小區川口町十二番地平民三谷七郎右衞門	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 二戸 類燒 瓦平家 八十六、半二戸 同二階家 二百九十五、半五戸 板平家 四百四十六、半十六戸 同二階家 三百卌二、半戸 神社 一戸 瓦平土藏 十一戸 同二土藏 一戸 瓦平物置 二戸 板平物置 卌三戸	千二百卌一戸	一萬千八百拾九坪六合五勺	傷者 男七人 女一人

十二月十六日火災

四、十二月十六日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（明治七年十二月）	發火 后九時廿分 鎭火 同十二時	第五大區五小區淺草諏訪町廿五番地平民淺子市右衞門	藁灰	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 二戸 同二階家 半一戸 藁平家 廿九、半二戸 板平物置 一戸 藁平物置 十五戸	五十八戸	六百六十九坪六勺	—

——消防本署火災報告

明治八年火災
一月六日火災
一月十六日火災
二月四日火災
二月七日火災
二月十二日火災
二月十六日火災
五月卌一日火災
七月三日火災

十六日（明治七年十二月。）夜、淺草諏訪町火事、駒形迄燒る。

——齋藤月岑日記

八年（明治〇紀元二五三五年。）一月六日、淺草町（市內淺草區。）火有リ。（消防本署火災報告。）十六日（明治八年（紀元二五三五年）一月。）深川東六間堀町（市內。）失火ス。（消防本署火災報告。）二月四日（明治八年（紀元二五三五年）二月。）船松町（市內京橋區。）出火、並ニ延燒有リ。（消防本署火災報告。）七日（明治八年（紀元二五三五年）二月。）新榮町三丁目（市內京橋區。）出火、百廿一戸、千百七十二坪ヲ燒ク。（消防本署火災報告。）十二日（明治八年（紀元二五三五年）二月。）市谷本村町（市內牛込區。）陸軍士官學校燒失ス。（消防本署火災報告。）十六日（明治八年（紀元二五三五年）二月。）深川東平野町（市內。）出火シ、木場（市內深川區。）マデ延燒ス。（消防本署火災報告。齋藤月岑日記。）五月卌一日（明治八年（紀元二五三五年）芝一葉町（市內。）火有リ。（消防本署火災報告。）七月三日（明治八年（紀元二五三五年）大手町一丁目（市內麴町區。）內務

八月三日火災

省內火有リ。〇消防本署火災報告。八月三日〇明治八年(紀元二五三五年)深川西元町〇市內。火有リ。〇消防本署火災報告。

十二月十二日火災

十二月十二日〇明治八年(紀元二五三五年)新吉原江戶町〇市內淺草區。出火、

十二月十七日火災

燒亡四百六戶六千百六十九坪ニ達ス。〇消防本署火災報告。郵便報知新聞。十七日〇明治八年(紀元二五三五年)十二月。本所横網町一丁目〇市內。火有リ、一百十三戶・千百五十

十二月廿一日火災

一坪燒ク。〇消防本署火災報告。齋藤月岑日記。郵便報知新聞。廿一日〇明治八年(紀元二五三五年)十二月。堺町〇市內日本橋區。火

十二月廿二日火災

ヲ失シ、葺町・大阪町〇市內日本橋區。ニ延燒ス。〇消防本署火災報告。齋藤月岑日記。郵便報知新聞。廿二日〇明治八年(紀元二五三五年)十二月。淺草猿屋町〇市內。火有リ。〇消防本署火災報告。

明治八年火災事蹟

明治八年火災　是年市內火災總計三百八十六箇所、千八百十四戶、二萬百八十九坪八合ノ內、重ナル者十又三回ヲ算ス。

一月六日火災

一、一月六日火災　消防本署火災報告ヲ左ニ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
六日(〇明治八年一月)	發火午後八時 鎭火十時卅分	第十大區三小區淺草町十七番地平民丸山啓藏所有明長屋	放火ト疑フ者	全燒 瓦二階家一戶 類燒 瓦平家六十三、半廿戶 同二階家卅四、半三戶 板平家六戶 瓦土藏二階二戶 板物置三戶	百卅二戶	六百五十八坪	—

明治八年一月十二日火災

〔附記〕　齋藤月岑日記ニ據レバ、一月十二日〇明治八年夜中、麴丁尾州侯中やしき火事。

一月十六日火災

二、一月十六日火災　消防本署火災報告ヲ左ニ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
十六日(〇明治八年一月)	發火午后八時 鎭火十時	第六大區四小區深川東六軒堀町廿七番地平民岡本金次郎	蠟燭	全燒 瓦二階家一戶 類燒 瓦平家廿三戶 同二階家十八戶 板平家廿八戶 同二階家十戶	八十戶	六百五十四坪	—

二月四日火災

三、二月四日火災　消防本署火災報告ヲ左ニ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
四日(〇明治八年二月)	發火午前四時 鎭火六時	第一大區十小區船松町一丁目十九番地平民清水倉之助	—	全燒 瓦二階家一戶 類燒 瓦平家十三戶 同二階家十六戶 板平家四十二戶 同二階家廿一戶 瓦土藏二階四戶 板物置十一戶、半二戶	百十戶	七百廿五坪四合五勺	—

二月七日火災

四、二月七日火災　消防本署火災報告ヲ左ニ抄ス。

二月十二日火災

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
七日（〇明治八年二月）	發火午后十一時 鎭火翌前十一時	第一大區十小區新榮町三丁目一番地平民岩崎倉吉	蠟燭	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 九戸 同二階家 十一戸 塗二階家 一戸 板平家 四十八戸 同二階家 卅二戸 瓦土藏二階 七戸 板物置 十二戸	百廿一戸	千百七十二坪	—

——消防本署火災報告

五、二月十二日火災 八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十二日（〇明治八年二月）	發火午后四時 鎭火同六時	第三大區九小區市ヶ谷本村町七十七番地陸軍士官學校	—	全燒 煉瓦造二階家 一戸	一戸	六百八十坪	—

——消防本署火災報告

東京府全管內諸災調上申ニモ此災見エ、記シテ左ノ如シト爲ス。

明治八年二月十二日午後四時過、市ヶ谷本村町七拾七番地陸軍士官學校構內ヨリ手過出火。

一、第壹番生徒室壹棟燒失。但、死傷人無之。〇牛込區役所答申。

二月十六日火災

六、二月十六日火災 左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（〇明治八年二月）	發火午后十時卅分 鎭火十一時卅分	第六大區第三小區東平野町六番地平民鈴木善兵衞同番地平民森川猛三郎兩人持納屋	蠟燭	全燒 瓦物置 一戸 類燒 瓦平家 十一戸 同二階家 卅四戸 板平家 十戸 瓦物置 一戸 板物置 一戸	五十八戸	七百十坪	—

——消防本署火災報告

十六日〇明治八年二月。夕四時頃、東方出火、深川大火、木場迄燒ル由。淨心寺脇東平野丁ゟ出、木場迄燒る。

——齋藤月岑日記

五月卅一日火災

七、五月卅一日火災 消防本署火災報告ニ據レハ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
卅一日（〇明治八年五月）	發火午後九時 鎭火十一時	第二大區二小區芝二葉町十二番地平民保坂定吉	蠟燭	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦二階家 廿七戸 板平家 卅六戸 同二階家 十二戸	—	—	—

七月三日火災

八、七月三日火災 消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日（〇明治八年七月）	發火午前一時卅分 鎭火同三時	第一大區二小區大手町一丁目二番地内務省内玄關脇湯呑所	蠟燭	全燒 瓦二階家 官三戸 瓦二階土藏 官一戸	四戸	千百八十坪	—

八月三日火災

九、八月三日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日（〇明治八年八月）	發火午後十時 鎭火同十一時卅分	第六大區四小區深川西元町五番地平民小原ハル	蠟燭	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 二十戸 同二階家 五十一戸 板平家 八戸	八拾戸	五百九十五坪二合五勺	—

十二月十六日火災

十、十二月十二日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十二日（〇明治八年十二月）	—	第五大區十二小區新吉原江戸町一丁目二十五番地平民中村長兵衞	—	全燒 瓦三階家 一戸 類燒 瓦平家 二戸 同二階家 五十二戸 同三階家 六戸 煉瓦五階家 一戸 板平家 百八十二戸 同二階家 百五十四戸 同三階家 七戸 神社 一戸	四百六戸	六千百六十九坪	—

――消防本署火災報告

十二日〇明治八年十二月。十二時過、淺草火事、北風之。

――齋藤月岑日記

昨十二日〇明治八年。正午十二時五分過ぎ、新吉原江戸町一丁目廿五番地貸座敷渡世中村長兵衞（佐野槌）宅臺所より失火し、西北の風にて、火炎忽ち廓中へ蔓延し、同町二丁目・揚屋町・京町一丁目・二丁目共一圓燒失。伏見町二三軒殘り、大門内取締會社も殘る。角町半分燒け、仲の町引手茶屋殘らず燒失、廓廻り川岸通りと唱へる所は大體殘りて、午後三時頃に鎭火せしが、家數凡五百戸程の燒失なり。

――郵便報知新聞

〔參考〕新吉原燒失一件ニ、

昨十二日新吉原燒失ニ付而ハ、假宅免許之場所、御府津田且相ヲ以御打合之趣致ニ承知一候。然處、過刻淺草猿若町邊ト及ニ御談一置候處、尙再議ヲ遂ケ候處、右場所之儀ハ、狹隘ニシテ、不都合之場所ト被レ存候間、深川仲町元假宅跡へ免許相成候方、可レ然ト存候。此段及ニ御答一候也。

明治八年十二月十三日　　警視廳印

東京府御中

新吉原立退場之儀ニ付伺

今般新吉原燒失ニ付、貸座敷娼妓引手茶屋渡世、舊慣ニヨリ、深川八幡近傍へ差許度存候間、此段相伺候。至急御指揮有レ之度候也。

明治八年十二月十八日　　東京府知事　大久保一翁印

內務卿大久保利通殿

（朱）書面伺之趣聞屆候條、舊規ニ依リ、期限相立、伺可ニ申出一事。

明治八年十二月十八日　　內務卿　大久保利通印

新吉原江戸町壹丁目外五ケ町類燒ニ付、深川富岡門前町外三ケ町〇按スルニ山本町、富岡門前仲町、黑江町。

於ゐて、貳百五拾日間假宅營業奉レ願ル處、本日御呼出之上御許可相成、奉レ畏ル。依レ之御請申上ル也。

明治八年十二月廿五日

新吉原貸坐敷惣代　松木莊吉印
引手茶屋惣代　梶田六太郎印
　黒田惣吉印

十二月十七日火災

十一、十二月十七日火災 八、

月日	發火鎮火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十七日（〇明治八年十二月）	發火 午后十時 鎮火 午後十一時	第六大區六小區本所横網町二丁目三番地平民齋藤吉五郎	—	瓦二階家全燒 一戸 瓦平家類燒 三十六戸 同二階家 七十戸 板平家 八十九戸 同二階家 十七戸	二百十三戸	千百五十一坪	—

—消防本署火災報告

十六日〇明治八年十二月。夜九時、本所横あみ丁一丁目火事、百卅間許やける。

—齋藤月岑日記

昨十六日〇明治八年十二月。午後九時過、本所横網町壹丁目三番地歯磨渡世齋藤吉次郎物置より出火し、延燒百三戸程にて鎮火せり。

—郵便報知新聞

十二月廿一日火災

十二、十二月廿一日火災 左ノ如シ。

月日	發火鎮火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿一日（〇明治八年十二月）	發火 午前二時卅分 鎮火 四時卅分	第一大區十四小區堺町九番地平民片岡榮太郎	—	瓦平家全燒 一戸 瓦平家類燒 十六戸 同二階家 廿六戸 板平家 五十戸 同二階家 卅一戸	百廿四戸	五百八十四坪四合	—

—消防本署火災報告

二十日〇明治八年十二月 夜、堺丁火事、よし丁・大坂丁やける。家數百軒餘ゝ及ふ由。

—齋藤月岑日記

郵便報知新聞ニ據レバ、堺町九番地濱新ト云フ汁粉屋ヨリ出火シ、家數百六軒燒失シ、華族有馬頼匡ヨリ百五十圓、同淺野長勲ヨリ二百圓其他ノ救恤寄附有リタルコト見ユ。

十二月廿二日火災

十三、十二月廿二日火災 消防本署火災報告左ノ如シ。

月日	發火鎮火時間	發火地名	火起原因	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿二日（〇明治八年十二月）	發火 午前一時 鎮火	第五大區一小區淺草猿屋町	—	瓦平家全燒 一戸 瓦平家類燒 十六戸 同二階家 十戸 板平家 十四戸 同二階家 四戸 同物置 五戸	四十九戸	五百四十四坪	—

明治九年火災
一月三日火災
三月十八日火災
四月十八日火災
五月三日火災
五月廿四日火災
十月三日火災
十月廿八日火災
十一月廿九日大火
十二月二日火災
十二月卅一日火災

九年〇明治〇紀元二五三六年。一月三日、芝宮本町〇市内。火有リ。〇消防本署火災報告。三月十八日〇明治九年(紀元二五三六年)神田連雀町〇市内。火有リ。〇消防本署火災報告。東京日々新聞。四月十八日〇明治九年(紀元二五三六年)飯倉片町〇市内麻布區。出火ス。〇消防本署火災報告。郵便報知新聞。五月三日〇明治九年(紀元二五三六年)永樂町〇市内麹町區。東京裁判所内燒ク。〇消防本署火災報告。東京日々新聞。廿四日〇明治九年(紀元二五三六年)五月。本所緑町五丁目〇市内。火有リ。〇消防本署火災報告。郵便報知新聞。十月三日〇明治九年(紀元二五三六年)神田三河町三丁目〇市内。出火、六百八十七戸、七千九百四坪餘ヲ燒ク。〇消防本署火災報告。郵便報知新聞。佐野弘毅日誌。東京日々新聞。廿八日〇明治九年(紀元二五三六年)十月。淺草鳥越町〇市内。火有リ。〇消防本署火災報告。十一月廿九日〇明治九年(紀元二五三六年)數寄屋町〇市内日本橋區。火ヲ失シ、八千五百五十戸、七萬二百六十二坪餘ヲ延燒ス。〇消防本署火災報告。郵便報知新聞。東京日々新聞。京橋江南類燒一件。十二月二日〇明治九年(紀元二五三六年)本銀町四丁目〇市内日本橋區。出火、二百廿二戸、千九百四十七坪餘燒失ス。〇消防本署火災報告。卅一日〇明治九年(紀元二五三六年)十二月。淺草寺地中泉凌院上地町〇市内淺草區。火有リ。類燒九百卅五戸、七千四百八十坪ニ達ス。〇消防本署火災報告。

明治九年火災事蹟

明治九年火災　是年東京市内ニ於ケル火災總數四百卅八箇所、一萬千三百十七戸、十萬三千三百一坪五合四夕ノ内、左ノ諸災ヲ重ナル者トス。

一月三日火災

一、一月三日火災　消防本署火災報告ヲ抄出ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日(〇明治九年一月)	發火午前一時五分　鎭火五時	第二大區七小區芝宮本町拾八番地平民揚弓店友近クニ	蠟燭	板平家全燒一戸　瓦平家類燒四十戸　同二階家十一戸、半二戸　同物置三戸　神社一戸	百六十七戸	六千八百卅五坪	—

附記　明治九年三月十二日火災

〔附記〕　消防本署火災報告ニ據レバ、是年〇明治九年。三月十二日午后八時廿分、第三大區十小區四谷傳馬町三丁目廿五番地平民尾崎友造火ヲ失シ、四十七戸、四百八十二坪五合ヲ燒キ、九時卅分鎭火スト云フ。

三月十八日火災

二、三月十八日火災　消防本署火災報告ニ據レバ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十八日(〇明治九年三月)	發火午前三時　鎭火午前六時	第一大區四小區神田連雀町十八番地平民料理渡世入山辰之助	放火ト疑フ者	瓦三階家全燒一戸　瓦平家類燒五戸　同二階家廿七戸　板平家十六戸　同二階家四戸	五十三戸	七百廿一坪四合三勺	—

郵便報知新聞ニハ、此災百六十八戸燒失シ、第一大區四小區ノ消防夫六七人負

傷スト見ユ。

四月十八日火災

三、四月十八日火災 ハ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十八日（〇明治九年四月）	發火午前十一時十分 鎭火午後一時廿分	第二大區七小區飯倉片町二番地佐賀縣士族宮田春岱	—	瓦平家全燒 一戸 瓦平家類燒 七戸 板平家 四十戸	四十八戸	五百七十八坪七合	—

――消防本署火災報告

郵便報知新聞ニ據レバ、此災宮内春岱物置ヨリ出火シ、七十軒ヲ燒キ、開拓消防方一人、海軍省消防方二人、二番組二人、少シク負傷シ、同所德川茂承ヨリ酒梅干等ヲ消防夫ニ給スト云フ。東京日々新聞ニハ、飯倉片町二軒、狸穴町五十軒、森本町十五軒、總計六十八軒燒失ト有リ。

五月三日火災

四、五月三日火災 ハ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日（〇明治九年五月）	發火午後十一時十分 鎭火零時廿分	第一大區三小區永樂町一丁目二番地東京裁判所第一支廳空屋	放火ト疑フ者	瓦二階家全燒 二戸	二戸	千八百八十五坪	—

――消防本署火災報告

昨夜〇明治九年五月三日。午後十一時十五分、吳服橋内第一支廳湯呑所より出火し、局中殘らす燒失、上等裁判所に燃移り少く燒失、今午前一時三十分鎭火せり。

――郵便報知新聞

佐野弘毅日誌ニハ、東京府出火ヲ記ス。

同〇明治九年五月。三日、未、晴。

一、午後九時過、東京府出火。

五月廿四日火災

五、五月廿四日火災 ハ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿四日（〇明治九年五月）	發火午後十時廿分 鎭火十一時卅分	第六大區七小區本所緑町五丁目二番地平民澁田重兵衞	放火ト疑フ者	瓦二階家全燒 二戸 瓦平家類燒 十二戸 同二階家 二十二戸 板平家 二十九戸 同二階家 五戸 藁平家 一戸 瓦平物置 一戸 板平物置 一戸	七十二戸	五百九十一坪五合	—

――消防本署火災報告〇郵便報知新聞異事ナシ。

十月三日火災

六、十月三日火災 左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日（〇明治九年十月）	發火 午後三時四十分 鎭火 同十時	第一大區四小區神田三河町三丁目三番地平民相島三郎兵衞	―	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 卅九、半三戸 同二階家 五十四戸 板平家 三百三十二戸 同二階家 三百五十六戸 神社 一戸	六百八十七戸	七千九百四坪七合五勺	―

——消防本署火災報告

同〔〇明治九年十月。〕三日、辰、曇、風。

一、三河丁邊出火、鐘三郎駈付。

——佐野弘毅日誌

郵便報知新聞ヲ按スルニ、此災神田三河町一丁目・二丁目・皆川町・松本町・鎌倉河岸・美土代町一・二・三丁目マテ延焼シタル者ノ如シ。

十月廿八日火災

七、十月廿八日火災　左ノ如シ。

日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿八日（〇明治九年十月）	發火 午前九時 鎭火 同拾壹時	第五大區二小區淺草鳥越町廿九番地平民三井良忠	焚火	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 十九戸 同二階家 二十三戸 板平家 九十一戸 同二階家 八戸 瓦土藏二階 一戸	百四十三戸	九百四十八坪	―

十一月廿九日大火

八、十一月廿九日大火　明治年間ニ於ケル大火災ノ一也。卽チ

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿九日（〇明治九年十一月）	發火 午後十一時 鎭火 翌日午前六時	第一大區六小區數寄屋町二番地平民鈴木貞藏	―	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 千五百六十七戸 學 三戸 同二階家 千四百十七戸 板平家 三千三百九十九戸 同二階家 千五百五十一戸 瓦土平家 三戸 同二階家 廿七戸 瓦物置 百三十八戸 板物置 四百三十九戸 神社 五戸	八千五百五十戸	七萬二百六十二坪一合五勺	―

——消防本署火災報告

昨廿九日午後第十一時過、第一大區六小區數寄屋橋二番借地當府士族秣營業鈴木貞藏秣場ヨリ怪火ニテ及失火、別紙之通、四小區ヘ渉リ、町數七十九ケ町戸數凡八千九百六戸程燒失、今三十日午前第七時ニ至リ、入舟町八丁目新湊町七丁目ニ而、鎭火致候。尤詳細之儀ハ、猶取調之上、各小區毎トニ御屆可申上候得共、燒失場所略圖相添、不取敢此段上申仕候也。

明治九年十一月三十日

第一大區區長　江塚庸　謹印

東京府權知事楠本正隆殿

明治九年十一月廿九日夜類燒罹り候町銘左之通。

第壹大區六小區　數寄屋町・檜物町・箔屋町・上槇町・榑正町・下槇町・本材木町貳丁目。　〆八ヶ町。此戸數千〇五拾戸。

第壹大區七小區　南傳馬町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・中橋廣小路町・北槇町・南槇町・桶町・南大工町・南鍛冶町・五郎兵衛町・疊町・北紺屋町・大鋸町・南鞘町・松川町・鈴木町・因幡町・常盤町・具足町・柳町・炭町・本材木町三丁目。　〆貳拾貳ヶ町。此戸數三千六百戸。

第壹大區十小區　大富町・新富町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・同町五丁目・同町六丁目・同町七丁目・入舟町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・同町五丁目・同町六丁目・同町七丁目・同町八丁目・新湊町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・同町五丁目・同町六丁目・同町七丁目・南八丁堀壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・新榮町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・同町六丁目・同町七丁目。　〆三拾貳ヶ町。此戸數千七百五拾戸。

第一大區十五小區　松屋町壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・高代町・本八丁堀壹丁目・同町貳丁目・同町三丁目・同町四丁目・同町五丁目・日比谷町・幸町・長

數寄屋橋火事錦繪　原寸 竪一尺一寸四分 横二尺三寸八分　村瀨春雄所藏

明治九年十一月廿九日ノ大火ヲ圖シタル者也。月岡芳年筆ス。

郵便報知新聞
大蘇芳年

澤町・長島町・元島町・岡崎町壹丁目・同町貳丁目・八丁堀中町。〆十七ヶ町。

此戶數貳千五百〇六戶。〇圖略。——京橋以北類燒一件

同〇明治九年十一月。廿九日、丑、晴。

一、夜十二時頃、吳服橋外より出火、大火。——佐野弘毅日誌

寒月中天ょ圓く、屋瓦霜冷なる一昨夜〇明治九年十一月廿九日。の午後十一時二十分頃、數寄屋町二番地鈴木貞藏方より火を失したるが、折り節し西北の風烈しく、火焔東南ょ廣かり、第一大區六小區ハ、數寄屋町・檜物町・新右衞門町・箱屋町・上下槇町・榑正町・本材木町二町目戶數千五十戶、類燒の貧民五百人。七小區は、南傳馬町一二三丁目迄、中橋廣小路町・南北槇町・桶町・南大工町・南鍛冶町・五郎兵衞町・疊町・北紺屋町・大鋸町・南鞘町・炭町・松川町・鈴木町・因幡町・常磐町・具足町・柳町・戶數三千六百戶、類燒の貧民七千五百人。十小區は、大富町・新富町一二三四五六七丁目まて、入舟町一二三四五六七八丁目迄、新榮町一二三四五六七丁目迄、八丁堀一二三丁目迄、戶數千七百五十戶、類燒貧民七千人。十五小區松屋町一二三丁目迄、高代町・幸町・岡崎町・元島町・本八丁堀一二三四五丁目迄、日比谷町・長島町・八丁堀仲町・戶數二千五百六戶、類燒貧民五千人。合せて町數七十

九ヶ町、戸數八千九百六戸、昨曉午前七時入舟町八丁目・新湊町七丁目まで鎭火したり。

——郵便報知新聞

十二月二日火災

九、十二月二日火災　消防本署火災報告ニ、左ノ如ク傳フ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
二日（明治九年十二月）	發火午前三時五十分 鎭火同五時五分	第一大區五小區本銀町四丁目五番地平民宮本莊兵衛	—	瓦二階家全燒一戸 類燒 瓦平家二十七戸 同二階家五十九、半四戸 板平家半三戸 同二階家三十八戸	二百十二戸	千九百四十七坪八合二勺	—

十二月卅一日火災

十、十二月卅一日火災　消防本署火災報告云フ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
卅一日（○明治九年十二月）	發火午后七時 鎭火同十一時	第五大區十一小區淺草寺地中泉淺院上地町平民松本久次郎家作明家	放火ト疑フ者	板平家全燒一戸 類燒 瓦平家二百廿四戸 同二階家百廿二戸 板平家三百四十九戸 同二階家二百卅六戸 佛閣三戸	九百卅五戸	七千四百八十坪	—

明治十年火災

一月四日火災

十年○明治○紀元二五三七年。一月四日、馬喰町○市内日本橋區。火有リ、二百五十二戸、三千七百坪餘ヲ燒ク。○消防本署火災報告。

二月一日火災

二月一日○明治十年（紀元二五三七年）霞ケ關一丁目○市内麹町區。外務省燒失ス。○消防本署火災報告。佐野弘毅日誌。

二月二日火災

二日○明治十年（紀元二五三七年）二月。北新堀町○市内日本橋區。火有リ。○消防本署火災報告。

二月五日火災

五日○明治十年（紀元二五三七年）二月。霞ケ關二丁目○市内麹町區。教導團兵營燒ク。○消防本署火災報告。

二月十六日火災

十六日○明治十年（紀元二五三七年）二月。下谷御徒町二丁目○市内。火有リ。○消防本置火災報告。

三月四日火災

三月四日○明治十年（紀元二五三七年）。上野元黑門町○市内下谷區。出火シ、二百八十九戸、二千七百九十九坪ヲ燒失ス。○消防本署火災報告。

三月廿九日火災

廿九日○明治十年（紀元二五三七年）三月。木挽町二丁目○市内京橋區。出火、燒亡屋舍二百二戸、三千四百六十五坪ニ上ル。○消防本署火災報告。

四月一日火災

四月一日○明治十年（紀元二五三七年）。深川富吉町○市内。火有リ。燒失九十一戸、二千十九坪餘。○消防本署火災報告。

四月五日火災

五日○明治十年（紀元二五三七年）四月。神田臺所町○市内。出火、四百五十一戸、四千六百五十坪餘ヲ燒ク。○消防本署火災報告。

四月十二日火災

十二日○明治十年（紀元二五三七年）四月。牛込原町一丁目○市内。出火、燒失屋舍二百卅戸、二千八十三坪餘ニ達ス。○消防本署火災報告。

四月十六日火災

十六日○明治十年（紀元二五三七年）四月。深川黑江町○市内。燒ク。燒失屋舍九十戸、二千二百八十三坪餘也。○消防本署火災報告。

四月廿四日火災

廿四日○明治十年（紀元二五三七年）四月。三番町○市内麹町區。火有リ。燒失屋舍二百廿

四月廿五日火災

七戸、同坪數二千百七十四坪餘。〇消防本署火災報告。廿五日〇明治十年(紀元二五三七年)四月。橋町三丁目〇市内日本橋區。燒ク。燒失屋舍二百卅七戸、二千百一坪餘也。〇消防本署火災報告。

四月廿九日火災

廿九日〇明治十年(紀元二五三七年)四月。神田岩本町〇市内。出火シ、二百九十二戸、千九百六十坪餘ヲ燒ク。〇消防本署火災報告。佐野弘毅日誌。

六月十四日火災

同日神田花岡町〇市内。亦燒ク。燒失屋舍四百九十戸、五千七十九坪也。〇消防本署火災報告。六月十四日

明治十年火災事蹟

桶町〇市内京橋區。火有リ。〇消防本署火災報告。

明治十年火災〇明治十年(紀元二五三七年)

是年東京市内ニ於テ火災ニ罹リタル者四百五十六箇所三千五百廿九戸、四萬廿五坪八合ノ内重ナル者左ノ如シ。

一月四日火災

一、一月四日火災　消防本署火災報告ヲ抄出ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
四日(〇明治十年一月)	發火前三時四十五分 鎭火前七時三十分	第一大區十二小區馬喰町四丁目十一番地平民川合シマ	ランプ	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 三十三戸 同二階家 五十五戸 板平家 七十八戸 同二階家 八十四戸 瓦二土藏 一戸	二百五十二戸	三千七百坪二合五勺	—

一月六日〇明治十年。　土曜日

昨五日午前第三時半後、馬喰町四丁目拾壹番地ヨリ出火、同町四丁目・三丁目・二丁目及ヒ横山町三丁目・二丁目迄延燒、戸數凡四百餘戸燒失。午前七時三十分頃鎭火候ニ付、右罹災窮民共ヱ炊出シ給與伺濟ヲ以、午前七時迄ニ該區務所ヱ運搬、夫々配與方取計候。

——東京府日誌

二月一日火災

二、二月一日火災　是日外務省燒ク。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
一日(〇明治十年二月)	發火后一時 鎭火同二時	第二大區一小區霞ケ關一丁目一番地外務省	煖爐	全燒 瓦二階家 一戸	一戸	千二百七坪七合	—

——消防本署火災報告

二月一日〇明治十年。　巳、晴。

一、晝後外務省出火。市ケ谷尾州元邸出火。

——佐野弘毅日誌

二月二日火災

三、二月二日火災　消防本署火災報告ニ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
二日(〇明治十年二月)	發火前一時二十分 鎭火同三時二十分	第一大區十六小區北新堀町廿一番地平民清水留吉	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 二戸 同二階家 廿二戸 柿平實 十一戸 同二階家 十三戸 瓦平家物置 一戸 柿平物置 二戸	五十二戸	九百〇四坪一合七勺	—

二月五日火災

四、二月五日火災　是日霞ヶ關二丁目敎導團兵營燒ク。亦消防本署火災報告ニ之ヲ傳フ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
五日（〇明治十年二月）	發火午前三時四十五分 鎭火午前五時卅分	第二大區一小區霞ヶ關二丁目敎導團兵營ヨリ	煙出	全燒 煉化平家 二戸	二戸	七百五十六坪	—

二月十六日火災

四、二月十六日火災　消防本署火災報告ヲ左ニ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（〇明治十年二月）	發火午後四時四十分 鎭火同五時十五分	第五大區三小區下谷御徒町二丁目十二番地平民中野貴德	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 四、半三戸 同二階家 二、半二戸 板平家 廿五、半五戸 同二階家 廿九、半三戸 板平物置 一戸	七拾五戸	七百六十二坪	—

三月四日火災

五、三月四日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
四日（〇明治十年三月）	發火午前四時廿五分 鎭火同六時五十分	第五大區七小區上野元黑門町十三番地平民井上常吉	ランプ	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 六十七戸 同二階家 八十八戸 板平家 九十九戸 同二階家 二十五戸 瓦平物置 八戸	二百八十九戸	二千七百九十九坪	—

三月廿九日火災

同〇明治十年三月。十四日、子、晴。
一、昨夜池之端仲丁出火。

——佐野弘毅日誌

六、三月廿九日火災　消防本署火災報告ニ據レハ、左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿九日（〇明治十年三月）	發火午前四時卅分 鎭火同五時卅分	第一大區十小區木挽町二丁目十番地平民大山半藏	放火ト疑フ者	全燒 板平家 一戸 類燒 板平家 二百八戸 同二階家 九十三戸	三百〇二戸	三千四百六十五坪	—

——消防本署火災報告

四月一日火災

七、四月一日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
一日（〇明治十年四月）	發火午前二時 鎭火同四時	第六大區一小區深川富吉町十番地平民金子源藏	放火ト疑フ者	全燒 板平家 一戸 類燒 瓦二階家 三戸 板平家 五十二戸 同二階家 三十一戸 瓦二土藏 一戸 瓦平物置 一戸 板平物置 二戸	九十一戸	二千〇十九坪五合	—

四月五日火災

八、四月五日火災　相傳フ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
五日（〇明治十年四月）	發火午前二時廿分 鎭火同四時四十分	第四大區五小區神田臺所町五番地平民間野利八	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 百〇八戸 同二階家 百八十二戸 板平家 九十三戸 同二階家 五十九戸 瓦土藏 三戸 瓦平物置 五戸	四百五十一戸	四千六百五十坪三合	—

——消防本署火災報告

同〇明治十年四月。六日、酉、晴。

一、今曉神田明神下出火。 ——佐野弘毅日誌

附記 明治十年四月十日火災

〔附記〕明治十年四月十日南大風ニ際シ、內藤新宿二丁目火有リ、大久保邊マテ延燒シ、百四十九戸、二千八百八坪燒ケ、死者女三人有リタルコト、消防本署火災報告・佐野弘毅日誌等ニ見ユ。

四月十二日火災

九、四月十二日火災 傳フル所左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十二日（〇明治十年四月）	發火午前八時卅分 鎭火同十時卅分	第三大區六小區牛込原町一丁目七番地平民高峯チヨ	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 七十八戸 同二階家 二十三戸 板平家 九十二戸 同二階家 三十二戸 瓦二土藏 二戸 板平物置 四戸	二百卅戸	二千〇八十三坪〇二勺	—

——消防本署火災報告

明治十年四月十一日午前八時三十分、牛込原町壹丁目七番地平民高峯千代方ヨリ手過出火。
一、類燒戸數百八十四戸。一、半燒戸數二拾戸。但死傷人無之。〇牛込區役所答申。 ——東京府全管內諸災調上申 〇佐野弘毅日誌異事ナシ。

四月十六日火災

十、四月十六日火災 消防本署火災報告ニ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（〇明治十年四月）	發火午前二時三十分 鎭火同四時三十分	第六大區一小區深川黑江町十八番地平民高木八太郎	放火ト疑フ者	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 十三戸 同二階家 一戸 板平家 四十二戸 同二階家 三十一戸 同三階家 一戸 瓦二土藏 一戸	九十戸	二千二百八十三坪五合	—

四月廿四日火災

十一、四月廿四日火災 八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿四日（○明治十年四月）	發火午前十時卅分 鎭火同十二時	第三大區三小區三番町卅七番地平民杉田市右衛門	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 七十一戸 同二階家 二十戸 板平家 十三戸 同二階家 百十六戸 瓦二階藏 二戸 瓦平物置 一戸 板同 三戸	二百廿七戸	二千百七十四坪〇二勺	―

――消防本署火災報告

十二、四月廿五日火災

八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿五日（○明治十年四月）	發火午前二時四十五分 鎭火同四時卅分	第一大區十三小區橘町三丁目三番地平民若林久兵衞	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 卅八、半三戸 同二階家 卅、半四戸 板平家 六十一、半八戸 同二階家 七、半五戸 瓦二土藏 三戸 板平物置 十四戸	二百卅七戸	二千百〇一坪九合二勺	―

――消防本署火災報告

同○明治十年四月。廿五日辰曇、風。

一、夜中橘丁出火。

――佐野弘毅日誌

十三、四月廿九日火災　是日兩度ノ火災有リ。

一八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿九日（○明治十年四月）	發火午前二時十分 鎭火同三時四十分	第一大區十二小區岩本町廿二番地平民大野万吉	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦平家 三十一、半五戸 同二階家 七十六、半三戸 板平家 五十七、半七戸 同二階家 六、半五戸 板平物置 一戸	二百九十二戸	千九百六十坪七合五勺	―

――消防本署火災報告

同○明治十年四月。廿八日、未晴、大風。

一、夜中神田豐島町・岩井町出火。貳丁四方程類燒。

――佐野弘毅日誌

一八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿九日（○明治十年四月）	發火午后十時十五分 鎭火同十一時五分	第五大區四小區神田花岡町一番地火除地繰ハ形樂行場	吸煙	全燒 板平家 一戸 類燒 瓦平家 百八、半十二戸 同二階家 百五十四、學一、半五戸 板平家 百十八、半十三戸 同二階家 六十七、半四戸 瓦二土藏 二戸 瓦平物置 四戸	四百九十戸	五千〇七十九坪	―

――消防本署火災報告

六月十四日火災

十三、六月十四日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十四日（○明治十年六月）	發火午前三時 鎭火同四時卅分	第一大區七小區桶町十番地平民茂川幸藏	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家一戸 類燒 瓦平家十戸 同二階家四戸 板平家四十三半十戸 同二階家九戸 塗二階家三戸	八十戸	六百六十七坪七合五勺	―

附記

明治十年十月後火災

〔附記〕　東京府全管內諸災調上申ニ、

明治十年十月廿二日午後十時、牛込納戸町九番地三宅乙吉方手過出火。

一、類燒戸數六十四戸。一、半燒七戸。但死傷人無レ之。（○牛込區役所答申）

消防本署火災報告ニ據レバ、是年十一月九日午后七時五十五分、北品川新宿一丁目出火シ、二百七十二戸、四千七百五十坪九合ヲ燒キ、同十一時卅分鎭火スルコト見ユ。死傷各男一人有リ。

明治十一年火災　三月十二日火災　三月十六日火災　三月十七日大火

十一年（○明治○紀元二五三八年。）三月十二日、淺草馬道四丁目（○市內。）火ヲ失シ、二百五十六戸、二千百六十七坪餘ヲ燒ク。（○消防本署火災報告。佐野弘毅日誌。）十六日（○明治十一年（紀元二五三八年）三月。）小石川砲兵本廠鐵工場（○市內。）燒ク。（○消防本署火災報告。）十七日（○明治十一年（紀元二五三八年）三月。）神田黑門町（○市內。）火有リ。延燒神田・日本橋（○市內。）卅一箇町ニ及プ。（○消防本署火災報告。神田黑門町出火一件。佐野弘毅日誌。）五月廿四日（○明治十一年（紀元二五三八年）。）下谷仲徒町（○市內。）燒ク。（○消防本署火災報告。）十二月廿五日（○明治十一年（紀元二五三八年）。）深川西森下町（○市內。）失火シ、百八戸、千二百廿六坪餘ヲ燒ク。（○消防本署火災報告。）

五月廿四日火災　十二月廿五日火災

明治十一年火災事蹟

明治十一年火災　是年市內ノ火災總計三百十箇所、五千九百四十二戸、五萬五千五百廿八坪九合九勺、內左ノ五回ヲ重ナル者ト爲ス。

三月十二日火災

一、三月十二日火災　傳ヘ云フ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十二日（○明治十一年三月）	發火午前四時四十分 鎭火同六時	第五大區八小區淺草馬道町四丁目二番地平民小山モト	消炭	全燒 瓦二階家一戸 類燒 瓦平家二十三戸 同二階家百一戸 板平家七十九戸半一戸 同二階家四十戸半六戸 同平物置五戸	二百五十六戸	二千百六十七坪一合七勺	―

――消防本署火災報告

同（○明治十一年三月。）十一日子、晴。

一、夜中淺草馬道出火。

――佐野弘毅日誌

三月十六日火災

二、三月十六日火災　傳ヘ云フ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（〇明治十一年三月）	發火午后二時 鎭火同三時四十分	第四大區三小區小石川砲兵本廠内鐵工場	烟出	全戸 瓦平鐵工場 官一戸 同物置 五戸	六戸	三百五十八坪	—

——消防本署火災報告

同一〇明治十一年三月。十六日、巳、晴。

一、造幣司内出火。

——佐野弘毅日誌

三月十七日大火

三、三月十七日大火　顚末左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十七日（〇明治十一年三月）	發火午後九時三十分 鎭火翌日午前四時	第一大區十一小區神田黑門町五番地 平民淺井勝五郎	放火ト疑フ者	全戸 板平家 一戸 同物置 一戸 類燒 瓦平家 五百卅三戸、半一戸 同二階家 八百五十六戸、半十六戸 板平家 千七百六十三戸、半三十戸 同二階家 千八百十五戸、學一戸、半十二戸 塗二階造 二十三戸 瓦平土藏 壹戸 瓦二土藏 十五戸 板平物置 五十八戸	五千百廿五戸	四萬六千六百拾一坪四合二勺	—

——消防本署火災報告

昨十七日一〇明治十一年三月。午後第八時貳十分頃、第一大區拾壹小區神田黑門町五番地裏屋空家より失火シ、同五小區・拾貳小區・拾四小區・四ヶ小區へ涉リ、町數戸數共有物等、別紙之通類燒及、今午前三時鎭火致候。尤詳細之儀者、取調之上、追々上申可仕候得共、不取敢此段御屆申上候也。

明治十一年三月十八日

第壹大區々長　江塚庸謹 印

戸長　星野安春 印

同　岡村政鄕 印

東京府知事　楠本正隆殿

類燒町名幷戸數及共有物

第一大區十一小區　神田黑門町・神田紺屋町・東松下町・南乘物町・松田町・美倉町・通新石町・元柳原町・神田鍋町・東紺屋町・下白壁町・北乘物町・西福田町・神田平永町・同鍛冶町・同小柳町・同富山町。

合十七ヶ町、此戸數凡三千戸。

右區務所燒失。

同五小區　本銀町三丁目・同四丁目・本石町三丁目・同四丁目・本石町十軒店・岩附町・本町三丁目。

合七ヶ町、此戸數七百四拾戸。

同十二小區　東福田町・東今川町・神田材木町。

合三ヶ町、此戸數百拾九戸。

同十四小區　大傳馬鹽町・鐵砲町・大傳馬町壹丁目・小傳馬町壹丁目。

合四ヶ町、此戸數五百戸。公立十思小學校燒失。

合計三拾壹ヶ町、四千三百五拾九戸。

內、貧民戸數凡貳千百廿戸。

——神田黑門町出火一件

○明治十一年
三月十七日日曜日　晴　寒暖計正午五十三度
三月十八日月曜日　晴　寒暖計正午五十五度

昨十七日午後第九時、第一大區十壹小區神田黑門町五番地平井勝五郎方ヨリ出火、各小區ニ延燒シ、町數凡三十一町戸數四千二百六十一戸燒失、本日午前第五時鎭火。右非常ノ大火ニ付、卽夜燒失場ヘ辨當三千六拾本相送リ、且ツ類燒ノ貧民ニシテ差向住所差支ノモノヘ、神田和泉町本府用地舊藤堂邸跡ニ於テ假住居差許ス。

——東京府日誌

〔參考〕

昨今類燒ニ罹リ候窮民等、差向舊大學本校跡空屋拜借被仰付候旨、御達之趣、迅速普達致、追々入邸相願候得共、目下霜露凌之爲メ、左之學校、本日限貸與候間、此段御屆仕候也。

明治十一年三月十八日　第一大區々長　江塚庸　謹印

東京府知事　楠本正隆殿

櫻池小學校　舊神田學校　有馬學校

——神田黑門町出火一件

其區內類燒之窮民、差向依賴スヘキ宿所無之、住所差支候者、差向神田和泉町本府用地藤堂舊邸蹟ヘ假住居差許候處、尙實際不得止モノハ、同所ニ於テ一週間焚出シ救助相與ヘ候條、夫々取調之上、救助受ヘキモノハ、直チニ該地ヘ可差出、此旨相達候事。

——東京府日誌

出火之節延燒爲豫防民有地買上ケ之伺

本月十七日神田黑門町ヨリ出火之節、燒失之戸數殆ント四千三百餘ニ有之、延燒之甚敷ハ、固ト西北風之猛烈ニ依ルト雖モ、人家稠密之地、家屋之粗造ナルヲ以、速ニ鎭火之效ヲ奏スル能ハサル儀ニ有之、且今般燒失之地ハ、俚俗之所謂神田火事ト唱フル場所ニシテ、冬春之氣候、概ネ西北之烈風多ク、萬世橋內外ヨリ出火シテ、日本橋或ハ八町堀・靈岸島邊迄之延燒、往々有之、何分現今之儘難差置候ニ付、實際取調候處、別紙圖面掛紙朱引之場所ハ燒失之中央ニシテ、將來延燒ヲ防ク之要地ト見認候ニ付、今般相當代價ヲ以、該地一旦官ニ買上ケ、家屋之制度ヲ設ケ、每地々主共ニ敎諭シ、該地買上ケ之金額ヲ資本ニ充テ、煉化石室土藏等、專ラ火災ヲ免ルヘキ堅牢之家屋建設セシメ、右買上ケ之地ハ、七ヶ年乃至十ヶ年賦ヲ以、夫々元地主ヘ拂下ケ候樣取計候ハヽ、官ニ於テハ一時買上ケ之、金額操換迄ニ止リ、人民ニ於テハ該地一ト度官ニ買上ケトナルモ、數年ニシテ如舊私有ニ復シ、目下建築之資本ナキモ、自カラ堅牢之家屋出來、將來罹災之違害ヲ免レ、獨リ該地ニ幸福ヲ得ル而已ナラズ、近傍人民ニ於

テモ、向後火災延燒之防トモ相成、旁以便益不レ尠候間、前段民有地買上ケ之金額操換之義、至急御允裁相成度、別紙圖面○略○并概算書添相伺候也。

尙以、本文地所買上ケ之義、每地適當之代價可ニ取調筈ニ候ヘ共、目下假家作建設方著手之向キ有レ之、日時遷延候テハ、無用之失費ヲ要シ候ニ付、差向畧圖概算ヲ以相伺候條、速ニ御指示有レ之度候也。

明治十一年三月廿六日　　東京府知事　楠本正隆

內務少輔林　友幸殿（內務卿大久保利通代理）

（朱）書面之趣ハ、豫テ大藏省ヨリ下渡有レ之候煉化石屋建築費之內、遣拂殘金ノ內ヲ操替、金三萬貳千三百四拾四圓貸下候條、證書ヲ以納受之筈相心得、大藏省出納局ヘ可ニ申出事。

明治十一年四月廿日　　內務卿　大久保利通

買上地概算書

神田鍛冶町　同松田町　同富山町

右三ケ町之內、

一、千九百六十貳坪餘。

此代金壹萬九千六百廿圓。但平均壹坪五拾円ノ見積。

西福田町　東今川町

右二ケ町之內、

一、千九百五拾四坪餘。

此代金壹萬千七百廿四圓。但平均壹坪金六圓ノ見積。

合坪三千九百拾六坪。　合金三萬千三百四拾四圓。

外ニ金千圓。假家作其外引拂手當見積。

總計金三萬貳千三百四拾四圓。

附記　明治十一年五年十六日火災　五月廿四日火災

附記　明治十一年六月火災　十二月廿五日火災

〔附記〕　消防本署火災報告ニ據レバ、明治十一年五月十六日神田多町二丁目出火シ、五十九戶、三百八十二坪五合ヲ燒ク。

四、五月廿四日火災　消防本署火災報告ニ、

月日	發火鎮火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
廿四日（○明治十一年五月）	發火午後十一時　鎮火零時三十分	第五大區七小區下谷中徒町三丁目十七番地平民原田清太郎	鞴	全燒　瓦平家一戶　類燒　瓦平家十三戶　板平家廿九戶　同二階家廿三戶	六十六戶	五百六坪	—

〔附記〕　明治十一年六月十八日新大坂町失火、燒失五十五戶、四百七十二坪二合ニ及ブ事、消防本署火災報告ニ見ユ。

五、十二月廿五日火災　消防本署火災報告左ノ如シ。

月日	發火鎮火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
廿五日（○明治十一年十二月）	發火午前六時　鎮火同七時卅分	深川區西森下町三番地平民小林善之助	火消壺	全燒　瓦二階家一戶　類燒　瓦平家十六戶　同二階家卅六戶　板平家卅八戶　同二階家十六戶　瓦二土藏壹戶	百〇八戶	千二百廿六坪二合	死　男三人

〔參考〕　大藏省火災保險掛參考書中、東京府管內諸災年別表有リ。此ニ抄出ス。

朱引内火災ノ外、朱引外火災及風災・水災ヲ載スト雖、分割ス可キニ非サレハ、今其儘之ヲ揭ク。然リ而シテ之カ計數ノ消防本署火災報告ニ同シカラサル者有ルハ、孰カ是ナルヲ知ラサル也。

東京府管內諸災年別表

區分	年度	火災 棟數	火災 坪數	風災 棟數	風災 坪數	水災 棟數	水災 坪數	總計 棟數	總計 坪數
朱引內	明治元年	一、八四一	一九、三三四 一八三	—	—	—	—	一、八四一	一九、三三四 一八三
	同二年	三、八九八	四〇、九三六 七九六	二六	二七三 〇五三	—	—	三、九二四	四一、二〇九 八四八
	同三年	三、九五九	四一、五七七 一八	四	四二 〇〇八	—	—	三、九六三	四一、六一九 四二六
	同四年	二、六九一	二八、二六〇 八二	四六	四八三 〇九二	—	—	二、七三七	二八、七四三 九七四
	同五年	三、七一五	三九、〇〇九 九一〇	一	一〇 五〇二	—	—	三、七一六	三九、〇二〇 四一二
	同六年	六、九七三	七三、二三〇 四四六	六	六三 〇一二	二	一一五 五三三	六、九九〇	七三、四〇八 九八〇
	同七年	一、五一五	一三、一〇四 八五〇	二	二二 〇〇四	—	—	一、五一七	一三、一二五 八五四
	同八年	一、九三〇	二〇、八二四 七〇〇	—	—	—	—	一、九三〇	二〇、八二四 七〇〇
	同九年	一一、〇六〇	一二四、七五六 八〇〇	一	一〇 五〇二	—	—	一一、〇六一	一二四、七六七 三〇二
	同十年	三、三四七	三七、二八五 五八〇	一九	一九九 五三八	—	—	三、三六六	三七、四八五 一一八
	同十一年	六、三二一	五七、八五五 三〇〇	—	—	—	—	六、三二一	五七、八五五 三〇〇
	合計	四七、一五〇	四九五、一七六 八六四	一〇五	一、一〇二 七一〇	二	一一五 五三三	四七、二六六	四九六、二九五 〇九六
	平均	四、二八六	四五、〇一六 〇七九	一〇	一〇〇 二四六	一	一〇 五〇二	四、二九七	四五、一二六 八二〇
朱引外	明治元年	三八三	四、一八〇 〇六三	—	—	—	—	三八三	四、一八〇 〇六二
	同二年	五九	六四三 九二六	八	八七 三一二	—	—	六七	七三一 二三八
	同三年	一二三	一、三四二 四二二	二二九	二、四九九 三〇六	—	—	三五二	三、八四一 七二八
	同四年	一一六	一、二六六 〇二四	四二〇	四、五八三 八八〇	—	—	五三六	五、八四九 九〇四
	同五年	三八	四一四 七三三	八	八七 三一二	—	—	四六	五〇二 〇四四
	同六年	八八	九六〇 四三三	三	三三 七四二	—	—	九一	九九三 一七四
	同七年	二一六	一、二六三 〇八〇	九	九八 二二六	—	—	二二五	一、三六〇 三〇六
	同八年	一〇六	一、一四三 七四〇	二	二一 八二八	—	—	一〇八	一、一六五 五六八
	同九年	一三五	一、五三二 八〇〇	一二	一三〇 九六八	六	六五 四八四	一五三	一、七一九 二五一
	同十年	七九五	一、八五六 三〇〇	一六	一七四 六二四	—	—	八一一	九、〇三〇 九二四
	同十一年	一三一	一、二一八 三〇〇	五	五四 五七〇	一四	一五二 七九六	一五〇	一、四二五 六六六
	合計	二、〇九〇	二三、八一〇 八一八	七一二	七、七七〇 一六八	二〇	二一八 二八〇	二、八二二	三〇、七九九 八六六
	平均	一九〇	二、〇七三 七一〇	六五	七〇六 四三三	二	一九 八四四	二五七	二、七九九 九八八
合計		四九、二四〇	五一七、九八七 六八二	八一七	八、八七三 四七八	二二	三三五 八〇二	五〇、〇八八	五二七、一九四 九六二
平均		四、四七六	四七、〇八九 七八九	七四	八〇六 六八〇	二	三〇 三四六	四、五五三	四七、九二六 八一四

明治十二年火災
二月五日火災
三月十七日火災
三月廿四日火災
四月七日火災

十二年〇明治〇紀元二五三九年。二月五日、下谷區御徒町一丁目〇市內。燒ク。〇消防本署火災報告。三月十七日〇明治十二年（紀元二五三九年）日本橋區蠣殼町一丁目〇市內。失火、四百九十二戸四千二百五十坪餘燒失ス。〇消防本署火災報告。廿四日〇明治十二年（紀元二五三九年）三月。小石川區音羽町四丁目〇市內。火有リ。〇消防本署火災報告。佐野弘毅日誌。四月七日

四月十六日火災

〇明治十二年(紀元二五三九年)。日本橋區本船町内。〇市火有リ。燒失屋舍百六十一戸、二千六百五十八坪餘。〇消防本署火災報告。

四月廿三日火災

是日淺草區淸島町内。〇市亦火ヲ失シ、百四十六戸、千四百五坪餘ヲ燒ク。〇消防本署火災報告。

四月廿五日火災

十六日〇明治十二年(紀元二五三九年)四月。日本橋區本船町内。〇市出火有リ。燒失屋舍百五十八戸、二千八百四十坪餘ニ達ス。〇消防本署火災報告。

七月十六日火災

廿三日〇明治十二年(紀元二五三九年)四月。日本橋區高砂町内。〇市燒ク。〇消防本署火災報告。廿五日〇明治十二年(紀元二五三九年)四月。日本橋區小傳馬町三丁目内。〇市出火、百九戸、千卅一坪餘燒失ス。〇消防本署火災報告。

八月十五日火災

七月十六日〇明治十二年(紀元二五三九年)。日本橋區横山町一丁目内。〇市火ヲ失ス。燒失屋舍百七戸、千六百十六坪餘也。

十一月二日火災

八月十五日〇明治十二年(紀元二五三九年)本鄕區湯島切通坂町内。〇市燒ク。〇消防本署火災報告。

十一月十四日火災

十一月二日〇明治十二年(紀元二五三九年)神田區須田町内。〇市火有リ。〇消防本署火災報告。

十一月十七日火災

十四日〇明治十二年(紀元二五三九年)十一月。麻布區南日ケ窪町内。〇市出火、燒失百八十七戸、千三百六十三坪餘ニ達ス。〇消防本署火災報告。十七日〇明治十二年(紀元二五三九年)十一月。日本橋區葺屋町内。〇市火ヲ失シ、百四十三戸千五百卌

十二月廿一日火災

四坪餘ヲ燒ク。〇消防本署火災報告。十二月廿一日〇明治十二年(紀元二五三九年)深川區常盤町内。〇市失火ス。燒失屋舍百五十七戸・千四百五十坪餘也。〇消防本署火災報告。

十二月廿六日大火

廿六日〇明治十二年(紀元二五三九年)十二月。日本橋區箔屋町内。〇市火ヲ失シ、日本橋・京橋兩區内。〇市内六十五箇町、一萬六百十三戸ヲ燒ク。〇消防本署火災報告。〇消防本署火災調上申。箔屋町類燒書類。〇佐野弘毅日誌。

明治十二年火災事蹟

明治十二年火災

明治十二年中東京ニ於ケル火災ハ、總計三百箇所、一萬二千九百九十五戸、十萬八百六坪二合六勺ニシテ、重ナル者十五回、就中十二月廿六日ノ災ノ如キ、實ニ明治時代ノ大火ニシテ、殆ト明治十四年ノ松枝町火災ニ伯仲ス。

二月五日火災

一、二月五日火災　消防本署火災報告左ノ如シ。

月日	發火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
五日(〇明治十二年二月)	午后十一時三十分發火翌前一時鎭火	下谷區御徒町一丁目七番地平民加藤七兵衛	風呂場	瓦二階家全燒一戸 同類燒八戸、半一戸 瓦平家廿八戸、半六戸 柿平家五戸、半十六戸 同物置二戸	六十七戸	六百七十坪五合五勺	―

三月十七日火災

二、三月十七日火災　消防本署火災報告、左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十七日（〇明治十二年三月）	發火午前三時廿分 鎭火同五時五十分	日本橋區蠣殼町一丁目三番地平民有坂正右衞門	風呂焚場	全燒 塗二瓦平柿平家 三戸 類燒 塗二階家 二十戸、半四戸 同平家 廿戸、半四戸 瓦二階家 八十二戸、半六戸 同平家 五十戸 柿二階家 六十九戸、半四戸 同平家 二百六戸、半十四戸 金屬二階 一戸 同平家 一戸 柿二物置 一戸 同平家 六戸 土藏二階 半一戸	四百九十二戸	四千二百五十坪九合三勺	―

三、三月廿四日火災 八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿四日（〇明治十二年三月）	發火午后十時卅分 鎭火翌午前一時	小石川區音羽町四丁目一番地平民石井新之丞所有	放火ト疑者	全燒 藁平家 一戸 同納家 一戸 類燒 瓦二階家 一戸 同平家 五戸 柿二階家 一戸 同平家 四戸、半一戸 藁二階家 五戸 同平家 百四十三戸、半廿戸 同物置 九戸	百九十一戸	七百四十四坪	―

——消防本署火災報告

同〇明治十二年三月。廿五日、未晴、南風。

一、夜ニ入十時過、音羽四丁めゟ出火、青柳町迄。

——佐野弘毅日誌

四、四月七日火災 消防本署火災報告ニ據ルニ、此日兩度ノ災有リ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
七日（〇明治十二年四月）	發火午前一時 鎭火同五時	日本橋區本船町壹番地平民鈴木留次郎	蠟燭	全燒 柿二階家 一戸 類燒 瓦平家 三十三戸 同二階家 三十三戸、半一戸 柿平家 四十戸 同二階家 五十四戸、半三戸 同物置 六戸	百六十一戸	二千六百五十八坪四合九勺	―
七日（〇明治十二年四月）	發火午後四時 鎭火同六時	淺草區北淸島町五番地平民松岡源吉	湯屋風呂場	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 同平家 六十二戸、寺二戸半一戸 同二階家 二十一戸 柿平家 三十五戸 同二階家 十戸 佛閣 一戸 瓦二土藏 十一戸 同平物置 三戸 同浴室 一戸	百四十六戸	千四百五坪八合七勺	―

五、四月十六日火災 消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（〇明治十二年四月）	發火午后一時 鎭火同五時	日本橋區本船町拾一番地平民竹內七兵衞	放火	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 十五戸 同二階家 三十一戸 柿平家 四十五戸、半廿八戸 同二階家 三十五戸、半三戸	百五十八戸	二千八百四十坪四合二勺	―

附配
明治十二年四月十八日火災

〔附記〕明治十二年四月十八日神田錦町一丁目火ヲ失シ、三十八戸、四百九十一坪二合五勺ヲ燒ク。○消防本署火災報告。

四月廿三日火災

六、四月廿三日火災　消防本署火災報告ヲ抄出ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿三日（○明治十二年四月）	發火 午前三時 鎭火 同五時	日本橋區高砂町八番地平民田中甚太郎	湯屋焚場	全燒 柿二階家 一戸 類燒 瓦平家 七戸 同二階家 八戸、半四戸 柿平家 二十四戸 同二階家 十二戸、半二戸	五十八戸	八百三十一坪四合三勺	傷者 消防夫 一人

四月廿五日火災

七、四月廿五日火災　消防本署火災報告ニ據レバ、左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿五日（○明治十二年四月）	發火 午前四時 鎭火 同六時卅分	日本橋區小傳馬町三丁目四番地平民古川勝次郎同五番地大竹茂吉	放火ト疑フ者	全燒 柿平家 一戸 同二階家 一戸 類燒 瓦平家 一戸 同二階家 三戸、半二戸 柿平家 八十戸、半五戸 同二階家 十三戸、半二戸 同物置 一戸	百〇九戸	千卅二坪七合五勺	—

七月十六日火災

八、七月十六日火災　消防本署火災報告ニ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十六日（○明治十二年七月）	發火 午後三時 鎭火 同五時	日本橋區横山町一丁目十六番地平民藤原健次郎	燈火	全燒 瓦二階家 一戸 同土藏 一戸 類燒 同二階家 三十八戸、半二戸 瓦平家 十一戸 柿平家 三十四戸 同二階家 十五戸、半二戸 金屬同 一戸 柿平物置 二戸	百七戸	千六百十六坪八合一勺	—

八月十五日火災

九、八月十五日火災　消防本署火災報告ヲ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十五日（○明治十二年八月）	發火 午後七時 鎭火 同八時四十分	本郷區湯島切通坂町廿四番地平民吉澤辨藏	ランプ	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 瓦二階家 十八戸、半三戸 柿平家 十九戸、半九戸 瓦二土藏 十戸、半一戸 柿平物置 三戸	六十四戸	五百卅二坪八合五勺	—

十一月一日火災

十、十一月二日火災　消防本署火災報告ヲ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
二日（○明治十二年十一月）	發火 午前二時四十分 鎭火 同五時	神田區須田町四番地平民稻垣アキ	ランプ	全燒 柿平家 一戸 類燒 瓦平家 一戸、半一戸 同二階家 八戸、半四戸 柿平家 八戸、半三戸 同二階屋 十三戸、半三戸	四十二戸	六百四十坪五勺	—

十一月十四日火災

十一、十一月十四日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

十一月十七日火災

十二月廿一日火災

十二、十一月十七日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

項目	内容
月日	十四日（〇明治十二年十一月）
發火鎭火時間	發火 午後十一時卅分 鎭火 翌日午前三時
發火地名	麻布區南日ケ窪町拾五番地平民平井多八同梶田勘次郎兩脇ヨリ
火起原由	放火ト疑フ者
燒失家屋區分	全燒 柿平家 一戸 瓦二階家 一戸 類燒 瓦平家 十二戸 同二階家 二十戸 柿平家 八十九戸、半五戸 同二階家 五十二戸 藁平家 三戸 同土二階家 一戸 柿平物置 三戸
合戸數	百八十七戸
合坪數	千三百六十三坪二合四勺
死傷	―

十三、十二月廿一日火災　消防本署火災報ニ、

項目	内容
月日	十七日（〇明治十二年十一月）
發火鎭火時間	發火 午前四時卅分 鎭火 同六時
發火地名	日本橋區葺屋町四番地平民熊谷米七
火起原由	ランプ
燒失家屋區分	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 同平家 十三戸 同二階家 十五、半一戸 柿平家 八十四戸、半六戸 同二階家 十五戸、半五戸 同物置 三戸
合戸數	百四十三戸
合坪數	千五百卅四坪四合五勺
死傷	傷 消防夫 一人

項目	内容
月日	廿一日（〇明治十二年十二月）
發火鎭火時間	發火 午後十時 鎭火 零時五十分
發火地名	深川區常盤町一丁目七番地平民八田磯兵衞
火起原由	ランプ
燒失家屋區分	全燒 瓦二階家 一戸 類燒 同平家 二十四戸、半一戸 同二階家 四十三戸 柿平家 四十九戸、半十戸 同二階家 二十七戸、半二戸
各戸數	百五十七戸
合坪數	千四百五十坪九合五勺
死傷	傷者 消火夫 四人

十二月廿六日大火

十四、十二月廿六日大火顚末左ノ如シ。

項目	内容
月日	廿六日（〇明治十二年十二月）
發火鎭火時間	發火 正午十二時 鎭火 午後七時十五分
發火地名	日本橋區箔屋町十六番地左官平民福地岩次郎
火起原由	消壺
燒失家屋區分	全燒 柿平家 一戸 類燒 土藏造平家 八戸 同二階家 十一戸 石造平家 一戸 同二階家 二戸 金屬平家 廿六戸 同二階家 十戸 煉化二階家 二戸 塗平家 百八十七戸、半五戸 同二階家 三百六十八戸、半一戸 瓦平家 千三百四戸、半十戸、學°二戸、官二戸 同二階家 千百七十五戸、半六戸 柿平家 四千六百四十戸、半六十六戸 同二階家 二千三百卅七戸、半卅二戸 石土藏 二戸 同二階家 三戸 紙瓦平家 二戸 同二階家 一戸 瓦土藏平家 七戸 同二階家 四十一戸 神社 三戸 金屬平物置 一戸 瓦平物置 三十九戸 同二階家 一戸 柿平物置 三百十三戸 同二階家 四戸
合戸數	一萬六百十三戸
合坪數	七萬四千二百卅四坪二合五勺
死傷	死者 二十四人 傷者 八十四人

火災之儀府上申　——消防本署火災報告

去ル二十六日（○明治十二年十二月。）正午十二時三十分頃、日本橋區箔屋町十六番地平民左官職福地岩次郎方ヨリ失火、于時前宵ヨリ吹キツヾキタル西北風猛烈ニシテ、瓦飛ヒ人倒レ、近來稀ナル大風ニ付、防禦スルノ術ナク、忽チ該家ヲ倒シ、榑正町・下槇町等ヨリ、東南ニ飛火、風威益熾ニシテ、火勢四方ニ散亂、瞬間築地海岸ニ達シ、午后第七時頃漸ク鎮火、遂ニ六十五町、六千五百五十二棟ヲ延燒シ、其他官舍四棟、學校二ヶ所、神社二ヶ所、土藏六十餘ヶ所、橋梁二ヶ所、公用船六艘、其災ニ罹ル。戶數一萬四百三十餘戶、人三萬五千九百八十餘人、燒死凡二十三人、負傷凡五十餘人、目今各地ニ炊出所ヲ設ケ救助スルモノ凡五百五十餘人、猶陸續申出候モノ有之。右罹災慘毒之景況、不取敢別表（○缺。）相添、此段上申候也。（○東京府知事ヨリ十二年十二月廿八日附ヲ以テ内務・宮内兩卿ヘノ上申。）

箔屋町類燒書類

日本橋區箔屋町十六番地平民左官職
福地岩次郎妻
火元　やま

右岩次郎義、昨廿六日午前第七時頃ニ職業ニ付他出、妻やまも女髮結致、引續他出、留守宅ニ而出火及、依テ火之原由不相分ト雖モ、怪火等ニ者無之趣申立ル。

三代町

一、類燒戶數七十九戶。（内貧民六十壹戶。）　一、半燒壹戶。　一、人員三百拾九人。（内貧民貳百廿六人。）　一、土藏燒落壹ヶ所。（但稻荷社。）　一、怪我人・死人無之。

北島町貳丁目

一、類燒戶數百九拾貳戶。（内貧民百七十七戶。）　一、人員七百五拾人。（内貧民六百八拾貳人。）　一、土藏燒落無之。　一、半燒戶數拾戶。　一、怪我人・死人無之。

龜島町貳丁目

一、類燒戶數貳百四拾九戶。（内貧民戶數貳百廿五戶。）　一、半燒戶數十四戶。　一、人員七百十貳人。（内貧民六百人。）　一、燒落土藏無之。　一、怪我人・死人無之。

榑正町

一、類燒百四十五戶。（内貧民八十九戶。）　一、人員五百五十六人。（内貧民貳百七十人。）　一、土藏燒落三ヶ所。　一、燒死一人。（十四番地戶主佐々木龜吉四十二年）　一、行衛不明壹人。

本材木町二丁目

一、類燒戶數七十四戶。（内貧民四十七戶。）　一、人員貳百九十八人。（内貧民貳百拾壹人。）　一、土藏燒失壹ヶ所。　一、同半燒貳ヶ所。　一、燒死人壹人。（十八番地福岡長三郎二男忠三郎五年）

下槇町

一、類燒戶數百九十二戶。（内貧民不殘貧窮者。）　一、人員七百六十三人。（不殘貧民。）　一、半燒土藏貳ヶ所。

通四丁目

一、類燒戶數拾三戶。（内貧民拾戶。）　一、人員四十六人。（内貧民三拾五人。）　一、半燒壹戶。死亡・怪我人無之。

箔屋町

一、類燒百卅戸。内貧民十三戸。 一、人員五百六十二人。内貧民四十人。 一。燒失土藏三ヶ所。 一、家半燒三戸。

〆。

日本橋區八ヶ町。類燒戸數千〇七拾四戸。内貧民八百十四戸。半燒惣戸數貳十九戸。燒落土藏八ヶ所。惣人四千〇〇六人。内貧民貳千八百廿七人。燒死人貳人。行衛不明壹人。 長五町。幅壹町三拾間。 正午三十分發。午後三時鎮火。

日本橋區役所

類燒戸數其他御屆

昨廿六日當區内類燒之町名戸口等、一應及御屆置、尙取調ル處、別表之通ニ付、繪圖面缺〇相添、更ニ及御屆候也。

明治十二年十二月廿七日

京橋區長 江塚庸 謹印

東京府知事松田道之殿

京橋區

明治十二年十二月廿六日正午第十二時二十分出火。午後第

町名	戸數	半燒同	人口	地所名	官舍	公立學校	神社	橋梁
南傳馬町二丁目	二百四十二戸	十七戸	八百九十二人	十七ヶ所				
本材木町三町目	二百六十一戸		八百八十四人	廿二ヶ所		寶田學校		久安橋
南鞘町	二百三戸		千三十三人	卅二ヶ所				
大鋸町	七十二戸		千二十四人	十四ヶ所				
中橋和泉町	四十九戸		五百七十一人	六ヶ所				
中橋廣小路町	二十戸		六十三人	四ヶ所				
松屋町三ヶ町	六百廿四戸		千八百七十二人	三十八ヶ所				
岡崎町二ヶ町	八百二十七戸		二千六百廿六人	八十八ヶ所				
元島町	三百五十戸		千九十九人	十三ヶ所				
本八町堀五ヶ町	六百十五戸		二千八十九人	五十六ヶ所				高橋
長澤町	百八十七戸		六百廿八人	廿九ヶ所				
八町堀中町	五百廿三戸		千九百十五人	四十ヶ所				
永島町	百六十九戸		五百五十四人	十三ヶ所				
幸町	百六十四戸		五百十一人	十四ヶ所				
水谷町	二百十七戸		六百六十八人	十八ヶ所				
日比谷町	二百十戸	一戸	四百卅五人	十三ヶ所				
高代町	九十五戸		三百四十九人	十一ヶ所				
川口町	三百廿六戸		九百五十五人	三十一ヶ所		靈岸島學校		
東湊町二ヶ町	六百八戸		二千八十人	四十七ヶ所				
越前堀二ヶ町	四百八十戸	一戸	千五百七十人	六ヶ所				
入船町五ヶ町	三百七十五戸		千一百十九人	十八ヶ所				
新榮町五ヶ町	五百戸	一戸	千六百十三人	四十五ヶ所				
新湊町五ヶ町	三百六十八戸		千六百十五人	三十七ヶ所				
新富町四丁目	六十戸	一戸	二百二十人	三ヶ所				
南八町堀三ヶ町	四百三十四戸		千三百九十人	三十四ヶ所			鐵炮洲稻荷社	
本湊町	四百四十四戸		千四百十八人	三十ヶ所				
船松町	四百八十三戸		九百廿二人	十五ヶ所				

新船松町	八十二戸		三百七十四人	十三ヶ所	東京府船改所水上警察所
松川町	八十七戸	二戸	三百四十人	十二ヶ所	
因幡町	百八十九戸	一戸	六百三十人	十八ヶ所	
常盤町	二十七戸	二戸	七十一人	七ヶ所	
鈴木町	六十五戸	四戸	四百四十人	七ヶ所	
石川島	一戸				監獄工場
靈岸島銀町壹丁目	一戸	一戸	十一人	三ヶ所	ポンプ器械場
五十七ヶ町	九千三百六十戸	三十一戸	二萬千九百八十一人	七百六十ヶ所	二校　一社　二橋
外明石町居留地		耶蘇教場			

救助人	怪我人	死人	船	土藏
五百五十九人 内男二百八十五人 女二百七十六人	五十五人 内男五十人 女五人	二十一人 内男十八人 女三人	六艘	五十九ヶ所

（〇下略）

——十五區六郡火災調上申

〔參考〕消防圖會ニ、

十二年(〇明治)十二月廿六日正午十二時、日本橋區箔屋町十六番地左官家火を失せり。原因過火。時に連日西北風甚た激烈にして、朝に至るも猶ほ止まず、沙を捲き塵を揚く。既にして火起る。瞬息四方に燎熳し、一は南方に向ひ、直に中橋和泉町、南傳馬町一二丁目の裏街を過ぎ、松川町を過ぎ、轉して東に折れ、彈正橋より斜に築地を貫き、海を隔てゝ佃島に及ぶ。一は北方に向ひ、新右衞門町を焚燒し、東に横つて材木町二丁目河岸より八丁堀に移り、三代町二丁目に及ほし、斜に北して越前堀に至り、終に佃島に達す。其焦士となる者。箔屋町・本材木町三丁目・南鞘町・大鋸町・中橋廣小路・南傳馬町・松屋町・元島町・本八丁堀二三四五丁目・岡崎町一二丁目・長澤町・八丁堀仲町・永島町・幸町・水谷町・日比谷町・川口町・東湊町・越前堀一丁目・入船町一二三四五丁目・新榮町一二三四五丁目・新湊町五丁目・新富町二丁目・南傳馬壹丁目・松川町・鈴木町・因幡町・常盤町、本材木町・榑正町・下槇町・新右衞門町とす。午後七時十五分始めて熄滅す。罹災者一萬四百九十三戸。家屋面積七萬四千二百三十四坪。焚死廿四人。負傷八十四人。明治火災中最も大なる者なり。是時警視第一方面第四分署本八丁堀四丁目。及水上警察署も亦災を被る。老幼婦女危難に臨み、號泣の聲聞くに堪へす。東京府廳官吏を派出し、竈を四所に設け、罹災者に餉與せり。是時第三方面四番組纏持花井龜吉險を踏み顧みず重傷を負ひ、明年一月八日遂に死す。

同年十二月。(〇明治十二)廿六日、未、晴、大風、夜南大風。

一、晝ヵ北大風、日本橋箔や町ヵ出火、大火。

——佐野弘毅日誌

〔參考〕救恤ノ爲メ明治天皇・皇大后・皇后三陛下ヨリノ御賜金有リ、各宮殿下太政大臣三條實美以下ノ寄贈有リ。事、救濟篇ニ具スレハ、今略ス。

明治十二年十二月廿七日

日本橋區役所　京橋區役所

其區內燒失ノモノ御救恤トシテ、別紙之通リ金圓下賜候旨、宮內省ヨリ達有之候條、類燒人共ニ可及告示、此旨相達候事。

長　官

昨廿六日府下日本橋區京橋區大火ニ付、燒失ノモノヘ御救恤トシテ　聖

上ヨリ金貳千圓、皇大后宮　皇后宮ヨリ金千圓下賜候事。

昨廿六日府下日本橋區京橋區大火ニ付、燒失之者ヘ、金五百圓贈與候事。

明治十二年十二月廿七日　有栖川二品親王　東伏見二品親王

伏見二品親王　北白川三品親王

——箔屋町類燒書類

燒失跡ニ關スル告示。

明治十二年十二月廿七日

御達案

日本橋區役所　京橋區役所

其區內昨二十六日燒失跡之義、追テ何分之義相達候迄、當分本家作取設候義、見合候樣、告示スベシ。

此旨相達候事。

長官

——箔屋町類燒書類

附記　明治十二年十二月廿八日火災

〔附記〕佐野弘毅日誌ニ、

同（○明治十二年十二月）廿八日酉晴。

一、日白坂養國寺出火。

明治十三年火災

一月五日火災　一月十八日火災　一月廿九日火災　一月卅日火災　二月三日火災　二月五日火災　四月廿八日火災　六月八日火災　八月二日火災　九月廿八日火災

十三年○明治○○紀元二五四○年。一月五日、麴町區幸町一丁目○市內。東京府廳內師範學校燒ク。○消防本署火災報告。十八日○明治十三年(紀元二五四〇年)一月。神田松枝町○市內。出火、二百四戶、二千四百卌九坪餘類燒ス。○消防本署火災報告。廿九日○明治十三年(紀元二五四〇年)一月。牛込馬場下町○市內。火有リ。○消防本署火災報告。卅日○明治十三年(紀元二五四〇年)一月。淺草新猿屋町○市內。火ヲ失シ、三百四十七戶、三千百六十一坪餘ヲ燒ク。○消防本署火災調上申。二月三日○明治十三年(紀元二五四〇年)。日本橋區橋町四丁目○市內。失火シ、十箇町ヲ延燒ス。○消防本署火災調上申。五日○明治十三年(紀元二五四〇年)二月。神田區錦町三丁目○市內。東京大學法理文學部燒ク。○火災調上申。四月廿八日○明治十三年(紀元二五四〇年)。小石川區西古川町○市內。出火、延燒四百六戶、五千五百六十六坪餘ニ及プ。○消防本署火災報告。六月八日○明治十三年(紀元二五四〇年)麴町區平河町三丁目○市內。失火、燒失戶數三百廿四戶、同坪數四千五百八十坪餘也。○消防本署火災報告。八月二日○明治十三年(紀元二五四〇年)淺草區花川戶町○市內。燒ク。燒失戶數二百廿一戶、同坪數千七百八十七坪餘。○消防本署火災報告。九月廿八日○明治十

十二月廿七日火災

三年（紀元二五四〇年）。日本橋區本石町十軒店（〇市内。）火有リ。（〇消防本署火災報告。）十二月廿七日（〇明治十三年（紀元二五四〇年））麹町區永樂町一丁目（〇市内。）司法省出火。（〇火災調上申。）是日、神田區江川町（〇市内。）亦火有リ。（〇消防本署火災報告。）

十二月卅日大火

卅日（〇明治十三年（紀元二五四〇年）十二月。）神田鍛冶町（〇市内。）失火ス、延燒二千百八十八戶、二萬五千百三坪餘ニ上リ、神田區日本橋區（〇市内。）ノ廿五箇町ヲ燒夷ス。（〇消防本署火災報告。神田鍛冶町出火書類。火災調上申。佐野弘毅日誌。）

明治十三年火災事蹟

明治十三年火災　明治十三年中ノ火災總數ハ二百七十五箇所、六千四十二戶、六萬四千四百卅三坪七合六勺ニシテ、内十三回ヲ重ナル火災トス。

一月五日火災

一、一月五日火災　消防本署火災報告ニ據レバ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
五日（〇明治十三年一月）	發火午后六時卅分 鎭火同七時二十分	麹町區幸町一丁目一番地東京府廳内師範學校	ランプ	瓦葺平家 全戶三、半一戶	四戶	二百廿二坪五合	—

──消防本署火災報告

火災調書

麹町區内幸町壹丁目四番地府立東京府師範學校生徒寄宿舍
火元　第壹號第三室長屋

右者一月五日午後第六時三十分ランプヨリ發火シ、七時貳十分鎭火ス。

全戶燒失
住居家、瓦葺平長屋三棟　此坪數百九拾五坪。
半燒
住居家、瓦葺平長屋壹棟　此坪數貳拾七坪五合。

──十五區六郡火災調上申

一月十八日火災

二、一月十八日火災　消防本署火災報告ニ據レバ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
十八日（〇明治十三年一月）	發火午後十二時 鎭火同翌日前二時	神田松枝町十八番地平民近藤甚兵衞	放火ト疑フ者	全燒 瓦平家一戶 類燒 瓦二階十戶 同平家一戶 塗平家一戶 柿二階家四十六、半一戶 同平家百卌十六、半八戶	二百〇四戶	二千四百三十九坪四合八勺	—

火災調上申ヲ按スルニ、是災燒失シタルハ、松枝町五十四戶・東福田町五十八戶・材木町十六戶・元岩井町七十七戶、計二百五戶ニシテ、棟數百六十八棟、坪數二千四百四十四坪六合二勺也。今孰カ是ナルヲ知ラズ。

一月廿九日火災

三、一月廿九日火災　火災調上申ニ據レハ、是時災ニ罹リタルハ、牛込馬場下町

及喜久井町の內也。消防本署火災報告ニ八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿九日（○明治十三年一月）	發火午前三時 鎭火同四時三十分	牛込區馬場下町五番地平民吉田吉五郎	藁灰	柿平家全燒一戸 柿平家類燒卅二、半五戸 藁平家三戸 柿平物置一戸	四十二戸	五百八十七坪七合五勺	—

一月卅日火災

四、一月卅日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
卅日（○明治十三年一月）	發火午后九時四十分 鎭火同十一時三十分	淺草區新猿屋町十一番地平民相田彌助	ランプ	瓦二階家全燒一戸 同平納家一戸 瓦二階家類燒八十戸 同平家百卅八、半十戸 瓦平物置十二戸 同二十藏九戸	三百四十七戸	三千百六十二坪一合一勺	—

——消防本署火災報告

火災調上申ニハ、是時ノ燒失箇所ヲ新猿屋町五十五戸、諏訪町百三十六戸、黑船町六十三戸、三好町廿四戸、合計二百七十八戸トス。

二月三日火災

五、二月三日火災　左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日（○明治十三年二月）	發火午後十一時卅分 鎭火同翌日午前五時	日本橋區橋町四丁目五番地平民增田忠兵衞	消炭	柿平物置全燒一戸 瓦平家類棟二百六十三、半四戸 同二階家六十、半十三戸 柿平家千百廿七、半廿四戸 同二階家二百廿一、半六戸 瓦平物置六戸 柿平物置四十七戸 瓦二土藏三戸	千七百七十六戸	一萬五千三百六十五坪八合三勺	—

消防本署火災報告

火災調書

火元　日本橋區橋町四丁目五番地　同區通鹽町五番地平民增田忠兵衞所有　物置

右者明治十三年二月四日午後十一時三十分頃出火。

全戸燒失

橋町四町目一番地ヨリ九番地迄

住居家五十六戸。瓦葺二階家十貳棟、七十貳坪二合八才。柿葺二階家廿六棟、百十貳坪六合六勺。瓦葺平家六棟、六十坪九合八勺三才。柿茸平家四十六棟、三百廿坪五合貳勺三才、物置三戸。柿葺平家三棟、五坪貳合五勺。

橋町壹町目一番地ヨリ十貳番地迄

住居家六十四戸。瓦葺二階家三十二棟、貳百廿坪九合八勺四才。柿葺二階家廿六棟、百五十五坪三合六勺七才。瓦葺平家五棟、七十四坪九合九勺六

才。柿葺平家五十七棟、四百九十貳坪八合九勺四才。土藏一棟、一坪九合四勺四才。物置六戸。柿葺平家五棟、廿一坪九合一勺四才。瓦葺平家一棟、九坪。

半燒三戸。瓦葺二階家三棟、十一坪五合。瓦葺平家三棟、十四坪七合五勺。

橋町貳町目一番地ヨリ十番地迄

住居家八十六戸。瓦葺二階家四十二棟、三百四十坪五合七勺三才。柿葺二階家十棟、百三十九坪貳合五勺。瓦葺平家四棟、貳百廿七坪五合八勺七才。柿葺平家四十棟、三百十二坪五合九勺九才。物置八戸。柿葺平家八棟、廿七坪三才。

橋町三町目壹番地ヨリ四番地迄十三番地ヨリ十九番地迄

住居家八十五戸。瓦葺二階家十八棟、百廿三坪八合五勺。柿葺二階家廿一棟。百四十四坪五合。瓦葺平家十五棟、六十七坪五勺。柿葺平家六十五棟、四百四坪九合五勺。物置壹戸。柿葺平家一棟、壹坪。半燒九戸。瓦葺二階家三棟、七坪五合。瓦葺平家四棟、十坪五合。柿葺二階家四棟、十三坪。

若松町十四番地ヨリ廿貳番地迄

住居家三十八戸。瓦葺二階家十五棟、百十九坪七合五勺柿葺二階家貳棟、七十五坪七勺。瓦葺平家三棟、七十五坪貳合五勺。柿葺平家十二棟、貳百十五坪四合九勺五才。物置壹戸。柿葺平家一棟、壹坪五合。

村松町一番地ヨリ四十八番地迄

住居家貳百九戸。瓦葺二階家四十棟、三百九十坪七合九勺。柿葺二階家四十八棟、貳百六十八坪三勺貳才。瓦葺平家四十八棟五百四十五坪六合七勺貳才。柿葺平家百六十貳棟、千四百五十三坪八勺三才。ブリキ葺二階家一棟十八坪。ブリキ葺平家二棟、六十五坪四合五勺。物置壹戸。柿葺平家一棟十坪。

久松町一番地ヨリ四十九番地迄

住居家貳百九十八戸。瓦葺二階家百七棟、千百廿五坪貳合三勺三才。柿葺二階家五十一棟、四百六坪五合九勺七才。瓦葺平家八十六棟、千四百五十七坪四合七勺五才。柿葺平家貳百九棟、千四百八十貳坪三合。トタン葺平家一棟、四十坪。紙瓦葺平家一棟、四十坪。杉皮葺平家一棟三坪。カラス葺二階家一棟、四坪。塗屋平家一棟、貳坪七合。土藏貳棟、十一坪。物置十七戸。瓦葺平家六棟、十三坪九合四勺。柿葺平家十一坪、廿貳坪四合八才。半燒六戸。柿葺二階家貳棟、四坪貳合五勺。柿葺平家八棟、十八坪。久松町官舍建物。西洋造家屋、三階壹棟、百〇八坪。瓦葺家屋平家七棟、七拾坪〇五合。瓦葺物置平家壹棟、貳百四坪。人民共有建物。瓦葺家屋平家五棟、百七拾貳坪七合五勺。

濱町壹町目七番地ヨリ十番地迄・十四番地ヨリ廿四番地迄

住居家百三十一戸。瓦葺二階家廿八棟、貳百九坪五合。柿葺二階家廿一棟、百六十貳坪七合六勺。瓦葺平家十六棟、三百七十坪九合四勺。柿葺平家四十九棟、四百六十八坪一合四勺。物置五戸。柿葺平家五棟、十四坪三合。半燒三戸。柿葺平家五棟、九坪五合。

濱町貳町目一番地ヨリ十貳番地迄

住居家六百四十八戸。瓦葺二階家百十一棟、千六百四十五坪八合九勺。柿葺二階家三十棟、貳百六十七坪三合壹勺。瓦葺平家七十五棟、千貳百九坪貳合五勺。柿葺平家四百六十三棟、三千百四十三坪七合、八勺四才。杉皮葺平家一棟、四坪貳合五勺。ブリキ葺二階家一棟、三坪。土藏一棟、廿貳坪五合。物置拾貳戸。柿葺平家十貳棟、廿八坪五合壹勺六才。半燒十三戸。瓦葺二階家七棟、廿五坪。柿葺平家九棟、十三坪五合。

濱町三町目一番地ヨリ三番地迄

住居家十五戸。瓦葺二階家三棟、十四坪五合。柿葺二階家一棟、七坪五合。瓦葺平家五棟、十六坪五合。柿葺平家十五棟、九十九坪貳合五勺。杉皮葺平家

一棟、十四坪。半燒壹戸。柿葺平家一棟、三坪七合五勺。

——十五區六郡火災調上申

二月五日火災

六、二月五日火災、十五區六郡火災調上申ニ、

火災調書

火元　神田區錦町三丁目二番地
東京大學法理文學部

錦町三丁目二番地
大工園丁小屋木造瓦平家　二棟　全燒失　五十四坪　二棟

右者、二月五日午後第六時、園丁小屋ヨリ發火、同第七時二十分鎭火。

四月廿八日火災

七、四月廿八日火災　左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿八日（〇明治十三年四月）	發火 午前三時二十分 鎭火 同六時廿分	小石川區西古川町二十番地平民柴崎作十郎	放火ト疑フ者	全燒 瓦二階家一戸 同土藏一戸 同平納屋一戸 柿同物置二戸 類燒 瓦二階家九十、半一戸 同平家五十、學一、半四戸 柿二階家四十、半二戸 同平家百五十、寺八、半三戸 芽平家二十四戸 神社二戸 瓦二土藏六戸 同物置五戸 同平物置四戸 柿二物置一戸 同平物置十戸	四百〇六戸	五千五百六十六坪六合六勺	—

明治十三年四月廿八日小石川區小日向火災調書

——消防本署火災報告

町名	戸數	人口
小石川西古川	四一	一四三
同東古川	五七	二〇二
同水道	一九一	七五七
同水道端二丁目	五八	二三〇
同臺	七	二八
同第六天	六	一一
同武島	二	七
西江戸川	三	一六
小日向茗荷谷	一	一〇
小石川竹早	三	一四
通計	三六九	一、四一八

一、燒死　六人。　一、負傷　二人。　一、避難所救助　二十九人。

左之通ニ候也。

明治十三年五月四日　小石川區役所印

東京府廳火災保險掛御中

——十五區六郡火災調上申

六月八日火災

八、六月八日火災　左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
八日（○明治十三年六月）	發火 午後五時三十分 鎭火 同十時	麹町區平河町三丁目七番地平民八倉巻五助	風呂竈	全燒 瓦二階家 一戸 同平物置 一戸 類燒 瓦二階家 五十、半二戸 同平家 卅二、半一戸 柿二階家 八十九戸 同平家 百五、半四戸 同物置 卅六、半二戸 同二同 半一戸	三百廿四戸	四千五百八十坪三合五勺	―

八月二日火災

九、八月二日火災ハ、消防本署火災報告ニ左ノ如ク見ユ。

――消防本署火災報告（○火災調上申同。）

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
二日（○明治十三年八月）	發火 午后八時卅分 鎭火 同十一時	淺草區花川戸町二番地平民今井庄吉持同町四十七番地先川岸納家ヨリ	竈	全燒 瓦平家 一戸 類燒 瓦二階家 三十五戸 同平家 五十戸 柿二階家 二十、半一戸 同平家 八十八、半十八戸 瓦平物置 四戸 同二物置 一戸 塗平物置 一戸 柿平物置 二戸	二百二十一戸	千七百十七坪六合四勺	―

火災調上申ニハ、燒失戸數百九十三戸、半燒十九戸、人口六百九十四人ト有リ。

九月廿八日火災

十、九月廿八日火災ハ、消防本署火災報告ヲ抄ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿八日（○明治十三年九月）	發火 午前一時卅分 鎭火 同四時	日本橋區本石町十軒店三番地平民吉澤兼吉	ランプ	全燒 柿二階家 一戸 類燒 瓦平家 二戸 同二階家 一戸 柿平家 三十二、半一戸 同二階家 十八戸	五十五戸	五百坪二合二勺	―

附記　明治十三年十一月後火災

〔附記〕明治十三年十一月廿八日日本橋區本石町十軒店出火シ、同所ニ於テ全燒十戸、本町二丁目ニ於テ全燒五戸、半燒一戸、金吹町ニ於テ全燒一戸、本石町二丁目ニ於テ全燒卅六戸物置一戸、半燒一戸有リ。（○火災調上申。）十二月廿五日ニハ、神田區橋本町火有リ、同町二丁目ニ亘リ、五十二戸百卅三坪五合ヲ燒ク。（○消防本署火災報告。火災調上申。）

十二月廿七日火災

十一、十二月廿七日火災　是日司法省出火ス。（○十五區六郡。）火災調上申ニ、

火災調書

麹町區永樂町壹丁目三番地　司法省

火元

右者客年（○明治十三年。）十二月廿七日正午十二時十分、元臨時裁判所白洲跡ヨリ（當時〆切、起火原由不分明。）發火シ、午後三時四十分鎭火ス。

半燒　瓦葺二階壹棟。　右坪數八百八拾六坪五合。

夜ニ入リ、神田江川町火有リ。消防本署火災報告傳ヘテ云フ、

月日	發火鎭火時間	火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿七日（○明治十三年十二月）	發火 午后十時 鎭火 同十二時	神田區江川町二番地士族岩成重良	火鉢	全燒 柿二階家 一戸 燒 瓦二階家類 三十一、半十五戸 柿平家 廿五、半三戸 同二階家 三十、半二戸 瓦二土藏 二戸	百九戸	八百卅四坪一合六勺	—

十五區六郡。火災調上申ニ據レバ、此災江川町卅四棟、六十六戸、五百九十五坪六合六勺ヲ全燒シ、七棟、廿戸廿八坪ヲ半燒シ、橋本町二丁目卅五棟、九十一戸六百廿五坪六合六勺ヲ全燒シ、十三棟、廿八戸、九十八坪五合ヲ半燒ス。

十二月卅日大火

十二、十二月卅日大火　左ノ如ク傳フ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
卅日（○明治十三年十二月）	發火 午前五時卅分 鎭火 午後一時三十分	神田區鍛冶町卅五番地平民岡村長次郎	焚火	全燒 瓦二階家 一戸 燒 瓦平家類 百六十四、半三戸 同二階家 二百廿九、半三戸 同三階家 一戸 塗二階家 一戸 石造三階家 一戸 金屬平家 二戸 柿平家 千百八十一、半十九戸 同二階家 五百廿二、半七戸 瓦平土藏 三戸 同二同 九戸 柿平物置 四十一、半一戸	二千百八十八戸	二萬五千百三坪八合四勺	—

——消防本署火災報告

明治十三年十二月三十日、天氣牢晴ニシテ、北風猛烈ナリ。午前第九時三十分、市中歲尾ニ屬シ、連戸鋪頭ニ貨物ヲ排列セントスルニ際シ、神田鍛冶町三十五番地ヨリ出火、正南方（神田大通リ。）同町ハ、火源即チ三十五番地ヨリ、逆ニ廿一番地ニ至リ、飛テ一番地ヨリ五番地ニ燒及シ、夫ヨリ塗師町一番地ヨリ七番地ニ至テ、火勢益々熾ンニ、煙焰天ニ漲リ、今川橋通リ日本橋區、即チ本銀町ニ延燒ス。又火勢西南ニ斜向シ、上白壁町一番地ヨリ十番地（町全）ニ至リ、竪大工町一番地ヨリ五番地ノ裏家通リヲ燒失シ、延テ新石町一番地ヨリ五番地ニ及ヒ、六番地ニ入テ二戸半ヲ燒燬シ、續テ西今川町二番地ヨリ八番地マデ、千代田町四番地ヨリ十六番地ニ抵リ、十七番地、十八番地ヲ避ケテ、十九番地ヨリ二十番地ノ戸數過半ヲ灰燼トナシ、火道直チニ日本橋區本銀町ニ入リ去ル。又願ミレハ神田大通リ（正南）ノ一方ハ、其發火ノ地タル鍛冶町ノ西面ヨリ東側西福田町ヘ轉火シ、其壹番地ノ内十五戸ヲ燒失シ、五戸燒クルコト皆半ハニシテ、災勢復タ南乘物町一番地ニ盛ンニ、延テ五番地ニ至、日本橋區本銀町駛セ去レリ。時ニ午後第一時過キナリキ。此ニ敘述スル火災ノ景況ハ、祝融威ヲ逞

ウシテ延燒スル所ノ次序（別表ニ神田塗師町ノ次ニ、西福田町南乘物町ヲ列記セルハ、地形ノ位置ニ因ルモノナレハ、本文ニ參觀シテ始メテ火災ノ實況ヲ傳ル。）ナレモ、斯ノ如キ大火ニ遭遇シテ、死者ハ勿論、負傷者一人モ無レ之ハ、災白晝ニ係ルニ因ルト雖、亦實ニ區民カ不幸中ノ幸ト謂ヘシ。今高覽ニ便センカ爲メ、別表及ヒ細圖（略。）ヲ製シテ、以テ進呈スル爾リ。

明治十三月十二月三十一日　　　神田區長　澤　簡　德　印

東京府知事　松　田　道　之　殿

明治十三年十二月三十日罹災町名（附戸口。）

神田鍛冶町　戸數凡百三十九。人口凡四百八十七。（男二百三十九人。女二百四十八人。）

神田塗師町　戸數凡百十。人口凡三百八十五。（男百八十四人。女二百壹人。）

南乘物町　戸數凡廿壹。人口凡七十四。（男三十九人。女三十五人。）

上白壁町　戸數凡百七。人口凡三百七十五。（男百八十人。女百九十五人。）

竪大工町　戸數凡十六。人口凡五十六。（男三十人。女廿六人。）

新石町　戸數凡百六十。人口凡五百六十。（男二百七十人。女二百九十人。）

西今川町　戸數凡五十二。人口凡百八十二。（男八十九人。女九十三人。）

千代田町　戸數凡百五十九。人口凡五百五十七。（男二百六十七人。女二百九十人。）

町數通計九。戸數通計七百七十九。人口通計二千七百廿九。（男千三百廿五人。女千四百〇四人。）土藏燒失九戸。小橋燒失二個。避難所入窮民三十壹人。（男拾七人。女拾四人。）

夜來ノ景況　假小屋ヲ築造スル者凡三十七戸。土藏ニ差掛スル者凡四十家。土藏ニ住居ヲ假定スル者凡百二家。

附　錄

一、風威急ニ火勢烈ナリシカ故ニ、火線ニ當ルノ罹災者ハ、財貨ヲ運出スルヲ得スシテ烏有ニ付セシ者最モ多シトス。

一、火災白晝ナルヲ以テ、罹災者各所ニ荷物ヲ堆積シ置クモ、盜兒ノ難ニ遇フ者多ク聞カス。

一、火災後夜ニ及ンテ有力ノ商賈ハ、盜難ヲ警戒シテ、終宵時々擊拆巡行シテ注意到ラザルナシ。

一、神田上白塗町四番地平民五十嵐駒次町男女五兒アリ、此ノ日駒次郎要用アリ早朝他行ス。妻きん夫駒次郎不在ニ際シ、出火ノ近傍ナルニ驚愕シ、茫然爲ス所ヲ知ラス、火氣漸ク近クニ方リ、二兒提携、一兒ハ懷、一兒ハ背、而メ二男太郎（齡八才。）ヲシテ先キニ歩サシメ難ヲ避ケントス。道路雜沓終ニ太郎ノ蹤跡ヲ失シ、イマタ其所在ヲ知ラスト云フ。

落橋ケ所書

一、白壁橋（神田區白壁町ヨリ鍛冶町へ渡ル）

一、中之橋（同區本銀町ニ架スル）

同區同町拾八番地先ニ架ス
一、土橋〆三橋。

右ハ、昨三十日出火之際燒失ニ付、即日午後六時貳拾五分假橋架設、往來相通申候。此段御屆申上候也。

十二月三十一日（〇明治十三年。）

田中源次郎（〇外四人略。）

昨三十日午前第九時三十分頃、神田區内ヨリ發火、當區内ヘ延燒、別紙之通燒失致候ニ付、取調、此段上申候也。

明治十三年十二月三十一日　東京府日本橋區長　舘興敬

東京府知事　松田道之殿

別紙

本銀町壹丁目	貳百戸	五百三拾五人
同貳丁目	貳百八拾七戸	六百三拾貳人
本石町壹丁目	四百六拾五戸	千壹人
同貳丁目	百拾七戸	三百九拾六人
本銀町二丁目	拾貳戸	四拾貳人
本革屋町	六拾貳戸	百九拾九人
金吹町	三拾八戸	百拾七人
本兩替町	百貳拾三戸	三百拾四人
北鞘町	百貳拾戸	三百四拾八人
品川町	百拾戸	三百貳拾六人
品川町裏河岸	六拾九戸	貳百四拾人
駿河町	八拾七戸	貳百貳拾壹人
本町壹丁目	百八拾七戸	四百三拾人
同貳丁目	貳百五拾五人	八百拾五人
室町壹丁目	五戸	拾五人
本石町拾軒店	五戸	拾六人
合拾六ケ町	貳千百三拾貳戸	五千九百八拾六人

——神田鍛冶町出火書類（〇火災調上申略。）

明治十四年火災
一月三日火災
一月八日火災
一月廿五日火災
一月廿六日大火

同（〇明治十三年十二月。）三十日、巳、晴、北風。

一、晝頃ゟ神田鍛冶町ゟ出火、大火。

——佐野弘毅日誌

十四年（〇明治〇紀元二五四一年。）一月三日、本鄕區元富士町（〇市内。）東京大學醫學部生徒寄宿舍燒ク。（〇消防本署報告。火災調上申。）八日（〇明治十四年（紀元二五四一年）一月。）芝區神明町（〇市内。）火有リ。（〇消防本署火災報告。）廿五日（〇明治十四年（紀元二五四一年）一月。）淺草區南元町（〇市内。）火有リ。（〇消防本署火災報告。）廿六日（〇明治十四年（紀元二五四一年）一月。）神田區松枝町（〇市内。）出火シ、延燒日本橋・本所・深川三區（〇市内。）ニ及ビ、五十二箇町、一萬六百卅七戸ヲ

灰燼ニス。○消防本署火災報告。神田松枝町出火書類。佐野弘毅日誌。

二月十一日大火

二月十一日○明治十四年(紀元二五四一年)神田區柳町○市内。火ヲ失シ、廿一箇町、七千七百五十一戸ヲ焼ク。○消防本署火災報告。神田柳町出火書類。佐野弘毅日誌。

二月十二日火災

十二日○明治十四年(紀元二五四一年)二月。小石川區大塚仲町○市内。火有リ。○消防本署火災報告。

二月十七日火災

十七日○明治十四年(紀元二五四一年)二月。四谷區忍町○市内。火ヲ失シ、百六十三戸、千六百九十四坪餘ヲ焼ク。○消防本署火災報告。

二月廿一日大火

廿一日○明治十四年(紀元二五四一年)二月。四谷箪笥町○市内。失火、十箇町二万三百六十坪餘ヲ焦土トス。○消防本署火災報告。四谷箪笥町出火書類。佐野弘毅日誌。

三月卅一日火災

三月卅一日○明治十四年(紀元二五四一年)神田區旅籠町二丁目○市内。火有リ、百八十五戸、二千三百四十四坪餘ヲ焼キ、尋デ神田區小川町○市内。出火シ、九十二戸、千二百五十九坪餘ヲ焼ク。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

四月一日火災

四月一日○明治十四年(紀元二五四一年)神田區仲町一丁目○市内。出火ス。焼失戸數百十戸、坪數千八百六十九坪餘。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

四月四日火災

四日○明治十四年(紀元二五四一年)四月。淺草區瓦町○市内。火有リ。百九十八戸、千九百廿八坪焼亡ス。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

四月十八日火災

十八日○明治十四年(紀元二五四一年)四月。芝區櫻田本郷町○市内。焼ク。百三十四戸、千四百十五坪餘ノ被害有リ。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

四月廿二日火災

廿二日○明治十四年(紀元二五四一年)四月。下谷區上野元黑門町○市内。火ヲ失ス。焼失屋舍二百四十一戸、二千五百廿九坪餘也。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

八月廿七日

八月廿七日○明治十四年(紀元二五四一年)本郷區西竹町○市内。火有リ。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

十月五日火災

十月五日○明治十四年(紀元二五四一年)湯島天神町二丁目○市内本郷區。火有リ。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

十一月十九日火災

十一月十九日○明治十四年(紀元二五四一年)神田區多町○市内。火有リ。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

十二月十五日火災

十二月十五日○明治十四年(紀元二五四一年)下谷區坂本町三丁目○市内。火有リ。○消防本署火災報告。火災調上申。佐野弘毅日誌。

明治十四年火災事蹟

明治十四年火災　明治十四年ニ於ケル東京火災ノ總數ハ、三百十三箇所、焼失屋舍二萬千九百四十八戸、坪數廿五萬九千八百卅四坪四合三勺ニシテ、重ナル者十八回、内三回ハ大火災也。

一月三日火災

一、一月三日火災

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
三日(○明治十四年一月)	發火午后十二時 鎭火翌日午前一時十分	本郷區元富士町一番地東京大學醫學部生徒寄宿舍	ランプ	瓦二階家 全戸 一戸 同平家 一戸	二戸	四百廿三坪	

火災調書

──消防本署火災報告

火元　本郷區本郷元富士町一番地大學醫學部　生徒寄宿舍

右者、本月（〇明治十四年一月。）三日夜十二時、寄宿舍樓上ヨリ發火シ、同一時十分鎭火ス。

本郷元富士町一番地

一、二戸。　二棟。瓦葺二階家二百十七坪五合。同平家二百五坪五合。全戸燒失。

──十五區六郡火災調上申

一月八日火災

二、一月八日火災　消防本署火災報告ニ據ル。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
八日（〇明治十四年一月）	發火午后七時卅分　鎭火同八時廿分	芝區神明町二番地空家ヨリ	放火ノ疑アル者	全燒　瓦平家一戸 類燒　平瓦家廿三戸 同二階家七戸 板平家三十、半二戸 同二階家二戸 板平物置二戸	六十七戸	六百七十七坪八合	─

附記　明治十四年一月十五日火災

〔附記〕　十五區六郡火災調上申ニ、

昨一月十五日（〇明治十四年）午前壹時、木挽町八丁目壹番地電信技術生徒學校壹棟（瓦葺平家建坪五百九坪八合、此校名修技校ト稱ス。）燒失候。此段及ニ御報知ニ候也。

東京府火災保險調査係御中　京橋區役所

一月廿五日火災

三、一月廿五日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿五日（〇明治十四年一月）	發火午后六時十分　鎭火同七時三十分	淺草區南元町五番地平民榎本嘉右衞門	蠟燭	全燒　瓦二階家一戸 板物置一戸 類燒　瓦平家九、半四戸 同二階家八、半二戸 同二階家十戸 瓦平物置一戸 板平物置一戸 瓦三土藏一戸	五十戸	五百坪五合六勺	─

──消防本署火災報告

客月（〇明治十四年一月。）廿五日、區内淺草南元町出火之節、類燒之戸數其他取調、御通知及候處、右取調方、再應御照會之趣了承、則チ左之通リ取調、更ニ進達ニおよび候也。

十四年（〇明治。）二月十五日　淺草區役所

府廳火災保險掛御中

全燒戸數

一、木造廿六棟、卅九戸。内瓦葺三百廿七坪四合壹勺。柿葺九十三坪壹合壹勺。　一、土藏一棟。瓦葺十坪。　一、物置木造三棟。瓦葺十七坪。

半燒戸數

附記　明治十四年一月廿五日火災　一月廿六日大火

一、木造三棟、六戸。瓦葺五十二坪〇五勺。

――十五區五郡火災調上申

〔附記〕消防本署火災報告ニ據レハ、明治十四年一月廿五日ハ、荏原郡北品川宿亦火有リ、六十戸、千四百八十一坪七合六勺ヲ燒ク。

四、一月廿六日大火燒失戸數・坪數ノ大ナル、實ニ明治年間ニ於ケル東京第一ノ大火ト爲ス。其顚末左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿六日（〇明治十四年一月）	發火 午前一時卅分 鎭火 翌日午后六時十分	神田區松枝町廿七番地平民鹽崎國次郎	放火ト疑フ者	全燒 板二階家 一戸 類燒 瓦平家 二千三百五十二戸、半三十七戸、官二戸 同二階家 二戸 板平家 三千七百六十戸、半卅七戸 同二階家 千八百五十八戸、半十五戸 同三階家 一戸 煉瓦二階家 官一戸 金屬平家 一戸 藁平家 三戸 神社 二戸 佛閣 十四戸 瓦平土藏 二十二戸 同二土藏 十五戸 板平物置 二百十戸 同二物置 十四戸 瓦平物置 九十六戸 同二物置 十戸 塗平物置 一戸	一萬〇六百三十七戸	拾二萬七千六百九十七坪八合九勺	

――消防本署火災報告

罹災戸口明細表幷燒跡繪圖進達ノ儀ニ付上申

明治十四年一月廿六日午前第一時三十分頃、神田松枝町廿二番地平民鹽崎組次郎方ヨリ出火シ、該時風勢西北ニ猛烈、直チニ東南方元岩井町廿番地ヨリ壹番地ニ燒進シ、又斜メニ東福田町七番地ヨリ廿番地ニ至リ、延テ材木町廿四番地ヨリ三十二番地ヲ燒亡シ、寒宵刻々更深ルニ及ンデ、風勢參差一ナラズ、或ハ北方猛鋭ナレハ西方鈍弱ニ、或ハ西風劇烈ナレハ北風ハ緩慢ニテ、西北互ニ一進一退シ、午前四時過キニ至リ、北風烈ク、材木町三十二番地ヨリ正南方日本橋區龜井町ヘ燒到ス。其間火源ノ地タル松枝町ヨリ火勢後ヘニ却進シテ、東紺屋町五十一番五十二番地ニ燒及スレ圧、防禦功ヲ呈シテ消滅ス。時ニ又北風西ニ轉變シテ、東方大和町一番地ヨリ七番地マテ、同町十九番地ヨリ三十三番地ニ至リ、夫ヨリ材木町一番地ヨリ廿番地マデ蕩燼ス。是ニ至リ風力復タ西北一齊ニ吹起シ、東南方ヘ豐島町四十二番地ヨリ四十八番地マデ、江川町一番地ヨリ十二番地ニ及ビ、火勢益熾ンニ、光焔天ニ映シテ白晝ノ如ク、富松町一番地ヨリ八番地ニ進ミ、延テ神田久右衛門町橋本町一丁

目二丁目三丁目ノ四ヶ町倏忽ニシテ火源トナリ、既ニ午前五時ナラントスルニ方リ、遂ニ日本橋區馬喰町三丁目・四丁目へ焼到ス。是當區延焼ノ次第ニ付、其焼跡繪圖略。○幷ニ町數・戸口明細表、別紙ノ通調製候條、謹テ及二進達一候也。

明治十四年一月二十七日　神田區長澤　簡德 印

東京府知事松田道之殿

總町數　拾三ヶ町。

總戸數　二千四百拾四戸。

内譯

全焼　本籍二千二百七十四戸。寄留百四十戸。

半焼　本藉三十一戸。寄留〇。

總人口　八千九百拾二人。

内譯

全焼　男四千四百九十三人。女四千二百九十二人。

半焼　男六十二人。女六十五人。

橋本町壹丁目　全焼　本藉四百廿五戸。寄留廿戸。全焼人員　男九百拾九人。女六百八拾五人。合千六百四人。

橋本町二丁目　全焼　本藉二百七戸。寄留拾壹戸。半焼本藉三戸。全焼人員　男三百八拾九人。女三百九拾五人。半焼人員　男六人。女七人。合七百九拾七人。

橋本町三丁目　全焼　本藉百五拾七戸。寄留拾壹戸。全焼人員　男二百九拾四人。女三百拾八人。合六百拾二人。

神田久右衞門町　全焼　本籍百貳拾七戸。寄留六戸。全焼人員　男二百四十三人。女二百四十一人。合四百八拾四人。

神田松枝町　全焼　本藉百五拾七戸。寄留九戸。半焼本籍五戸。全焼人員　男二百九十九人。女三百〇六人。半焼人員　男八人。女拾壹人。合六百廿四人。

神田大和町　全焼　本藉二百四十四戸。寄留拾四戸。半焼本籍八戸。全焼人員　男四百六十三人。女四百六十六人。半焼人員　男拾六人。女拾五人。合九百六拾人。

神田材木町　全焼　本藉八拾四戸。寄留七戸。半焼一戸。全焼人員　男百六拾四人。女百六拾七人。半焼人員　男二人。女三人。合三百三拾六人。

神田富松町　全焼　本藉九拾五戸。寄留七戸。半焼本籍四戸。全焼人員　男百九十七人。女二百六人。半焼人員　男八人。女六人。合四百拾七人。

元岩井町　全焼本藉百二十五戸。寄留十一戸。半焼本藉五戸。全焼人員男二百五十五人。女二百五十二人。半焼人員男十一人。女八人。合五百二十六人。

東紺屋町　全焼本藉六戸。半焼本藉二戸。全焼人員男十二人。女十三人。半焼人員男五人。女七人。合三十七人。

豐島町　全焼本藉四百三十八戸。寄留二十四戸。半焼本藉二戸。全焼人員男八百四十五人。女八百三十一人。半焼人員男四人。女五人。合千六百八十五人。

東福田町　全焼本藉三十九戸。寄留五戸。半焼本藉一戸。全焼人員男七十九人。女七十七人。半焼人員男二人。女三人。合百六拾壹人。

江川町　全焼本藉百七十戸。寄留拾五戸。全焼人員男三百三十八人。女三百三十一人。合六百六十九人。土藏焼失三戸。

附錄

一、假小屋ヲ築造スル者　二百四十戸。
一、土藏ニ差掛スル者　百五十一戸。
一、土藏ニ住居ヲ假定スル者　百三十七戸。

失火御届

本日午前第一時三拾分頃、神田區内ヨリ失火、當區内ヘ延焼、別紙之町々、圖面○略之通焼失致候ニ付、不取敢此段及御届候也。

明治十四年一月廿六日　東京府日本橋區長　舘興敬 印

東京府知事松田道之殿

龜井町　馬喰町壹丁目。　同貳丁目　同三丁目
同四丁目　通鹽町　横山町壹丁目　同貳丁目
同三丁目　吉川町　元柳町　新柳町
米澤町壹丁目　同貳丁目　同三丁目　藥研堀町
合拾六箇町　戸數凡貳千貳拾九戸。

區内類焼ニ罹ル各町人員入用ノ趣、御通達了承、則取調、別紙及御廻送候也。

十四年○明治。一月廿九日　日本橋區役所

本府庶務課御中

人員五百四拾三人。男貳百九十人。女二百五十三人。　馬喰町壹丁目
人員六百八拾八人。男三百十八人。女三百七十人。　同　町二丁目
人員千五百五拾壹人。男七百廿七人。女八百廿四人。　同　町三丁目
人員八百廿一人。男三百七十五人。女四百四十六人。　馬喰町四丁目

人員千百六拾貳人。男五百〇九人。女六百五十三人。　元柳町
人員三拾九人。男十七人。女二十二人。　新柳町
人員四百八拾七人。男二百三十六人。女二百五十一人。　米澤町壹丁目
人員四百三拾三人。男百九十四人。女二百三十九人。　同町二丁目
人員二百七拾人。男百三十一人。女百三十九人。　同町三丁目
人員二百八拾四人。男百廿二人。女百六十二人。　吉川町
人員百八拾壹人。男八拾壹人。女百人。　横山町壹丁目
人員二百五拾七人。男百拾八人。女百三十九人。　同町二丁目
人員三百八拾壹人。男百八十四人。女百九十七人。　同町三丁目
人員百廿壹人。男六十壹人。女六十人。　龜井町
人員百〇五人。男四十七人。女五十八人。　通鹽町
人員二百五拾二人。男百十九人。女百三十三人。　藥研堀町

合計七千五百七拾五人。男三千五百廿九人。女四千〇四十六人。

本日午前一時三拾分頃、神田區松枝町ヨリ出火候處、日本橋區吉川町ニ延燒之末、同午前九時拾五分前、當區本所元町壹番地平民中村平吉樓上ヘ飛火致シ、區內類燒セシ者、左之通〇左記略。有レ之ニ付、條、戶數取調、略圖〇略。相添、此段及二上申一候也。

明治十四年一月廿六日　　本所區長　設樂謙堂 印

東京府知事　松田道之殿

追テ、怪我人死亡人等之義モ、取調出來次第、速ニ上申可レ仕候也。

昨廿六日神田區松枝町ヨリ失火之末、當區本所元町ヘ飛火致シ、類燒セシ町名及戶數、不レ取敢上申候處、人口別紙之通取調、及二上申一候也。

明治十四年一月廿八日　　本所區長　設樂謙堂 印

東京府知事　松田道之殿

追テ、怪我人死亡等之義ハ、未壹名モ屆出無レ之、詳細取調中ニ有レ之候條、取調出來次第速ニ上申可レ仕候也。

類燒戶數人員調

一、本所千歲町從二壹番地一五十八番地迄。此戶數二百十八戶。人員八百〇六人。男三百八十六人。女四百二十人。
一、同松井町壹丁目從二壹番地一三十二番地迄。此戶數二百四十六戶。人員九百七十四人。男四百九十人。女四百八十四人。
一、同元町從二壹番地一二十五番地迄。此戶數三百四十三戶。內二百六十八戶類燒。七十五戶殘リ。人員千〇二人。

男五百三十九人。女四百六十三人。

一、同相生町壹丁目從壹番地十四地地迄。此戸數九十五戸。人員三百九十八人。男百九十四人。女二百〇四人。

一、同町貳丁目從壹番地六番地迄。此戸數八十六戸。內六十七戸類燒。十九戸殘リ。人員三百十七人。男百四十七人。女百七十人。

一、同松坂町壹丁目從壹番地八番地迄。此戸數百廿七戸。內七十七戸類燒。五十戸殘リ。人員三百三十六人。男百五十七人。女百七十九人。

一、本所松坂町二丁目從壹番地廿二番地迄。此戸數三百八十三戸。內百二十七戸類燒。二百五十六戸殘リ。人員五百三十五人。男二百七十六人。女二百五十九人。

戸數總計千貳百八十戸。內百八十二戸燒殘リ。此人員男九百十三人。女九百三十一人。

類燒戸數合計千〇九十八戸。此人員男二千百八十九人。女二千百七十九人。

火難御届

今廿六日午前第一時、神田松枝町ヨリ失火致、夫ヨリ延燒、本所區本所元町ヘ飛火致シ、同日午前九時ヨリ當區內深川御船藏前町外十五ヶ町ヘ延燒致シ夫々消防ノ末、午後第四時鎭火致シ候ニ付、取調候處、總戸數四千百七十三戸、此人員壹萬五千六百六拾貳人、倉庫廿三棟、半燒戸數拾五戸、人員四拾七人ニ至リ、最モ差向傷死人等相見不申、依之別紙幷圖面〇略。相添、不取敢此段及御届候也。

明治十四年一月廿六日

深川區長　大木良房　印

東京府知事　松田道之殿

一、燒失總戸數四千百七十三戸。但此人員壹萬五千六百六拾貳人。

一、半燒總戸數拾五戸。但此人員四拾七人。

內譯

深川御船藏前町　燒失四百三拾七戸。人員千五百八拾八人。

深川安宅町　燒失百六十五戸。人員五百四十壹人。

同東六間堀町　燒失三百八拾四戸。人員千四百八拾貳人。

同常盤町貳丁目　燒失六拾六戸。人員貳百三拾七人。

同東森下町　燒失七百六拾貳戸。人員貳千七百七拾壹人。半燒三戸。人員八人、

深川西元町　燒失貳百四拾九戸。人員九百貳拾人。半燒貳戸。人員六人。

同元加賀町　燒失壹戸、人員六人。

同八名川町　燒失三百七拾戸。人員千三百六十二人。半燒三戸。人員九人。

同西六間堀町　燒失五百六十壹戸。人員貳千貳拾貳人。

同常盤町壹丁目　燒失九拾壹戸。人員七百六拾人。半燒壹戸。人員三人。

同西森下町　燒失五百八戸。人員千九百廿五人。

同靈岸町　燒失八拾七戸。人員三百八拾貳人。

同東元町　燒失三百七拾貳戸。人員千三百八拾九人。半燒貳戸。人員七人。

同東大工町　燒失百四戸。人員百九十二人。半燒三戸。人員八人。

焼失五戸。人員貳拾七人。

同　西永町　焼失拾壹戸。人員五拾八人。半焼壹戸。人員六人。　同　吉永町

外

一、焼失倉庫貳拾三棟。一、同寺院八ヶ寺。一、焼損橋壹ヶ所。

右之通ニ候也。

明治十四年一月廿六日

——神田松枝町出火書類

一月廿六日〔明治十四年〕晴。

午前一時三十分、神田區神田松枝町二十二番地平民鹽崎組五郎物置ヨリ出火、干時西北ノ風烈敷、忽チ大火ト成、火勢四方ニ散亂、風益熾ニシテ防禦ノ術ナク、遂ニ深川區深川吉永町迄延焼、午後四時鎮火。

右ニ付、松田知事、銀林少書記官出張。

右同件ニ付、罹災救助ノ為メ、避難所ヲ〔櫻池學校、本所學校、十思學校、明治學校。〕ノ四ヶ所へ設ケ、官吏出張ス。

——東京府日誌

同〔明治十四年一月。〕廿六日申、晴、西風。

一、昨夜十二時過ゟ神田松枝丁ゟ出火、本所深川邊に類焼之由、望月に勝次郎見舞行。

——佐野弘毅日誌

焼死者ニ關シテ、〔十五區六郡。〕火災調上申記ス所、左ノ如シ。

當區下谷竹町壹番地當府士族宮川丈之助儀、去ル廿六日大火之節、立出候儘行衛不相知旨、一時廿九日及上申置ル處、右丈之助死骸見出シ候旨、同人妻宮川マチヨリ別紙寫〔略。〕之通届出候ニ付、尚又此段及上申候也。

明治十四年一月三十一日　下谷區長　宮木徑吉

東京府知事　松田道之殿

焼死人引渡候御届

本日深川靈岸町靈岸寺本堂焼跡ニ焼死人有之ナ、森下町警察署詰書記木村高政撿視トシテ出張、當區書記櫻井英三立會、死骸相改候處、右者浅草區浅草永住町四拾四番地誓教寺住職古田智法従弟市村勇然、同區同所南元町五拾番地西福寺住職成田立學従弟内田歡笈ノ兩人ニシテ、昨廿六日大火ニ付、靈岸寺へ手傳ニ罷越焼死致候ニ付、相違無之旨、右兩寺住職ヨリ始末書差出候ニ付、死骸ハ住職共へ引渡相成候間、此段及御届候也。

明治十四年一月廿七日　深川區長　大木良房

東京府知事　松田道之殿

焼死人引渡候御届

昨十五日深川西森下町四拾九番地家屋焼跡ニ、焼死人有之ナ、森下町警察署書記吉本則道撿視トシテ出張、當區書記櫻井英三立會、死骸相改候處、右ハ深川東六間堀町廿九番地平民山城佐平次雇人千葉縣上總國市原郡平野村平民桐木喜之助ト申者ニテ、去ル一月廿六日神田松枝町出火類焼後、生死不相分ニ付、處々相尋候内、昨十五日家屋續土藏焼跡土瓦堀片付候砌、右死骸見出シ候義ニテ、全ク焼死ニ相違無之旨、雇主山城佐平次ヨリ始末書差出、死骸ハ同人エ引渡相成候間、此段及御届候也。

明治十四年二月十六日　深川區長　大木良房

東京府知事　松田道之殿

救濟施爲ニ關スル事項ハ、救濟篇ヲ見ル可シ。

〔參考〕神田松枝町出火書類ニ

羅災者景況之儀上申

明治十四年一月廿六日火災ニ罹リタル當神田區燒込街衢ニ住居シタリシ人民カ、現時ノ景況ハ、橋本町一二丁目ヲ除キ、先ツ松枝町外十一ケ町ニ居ヲ占メタリシ借地ノ商工ハ、逐次前基ニ仍リ新居ヲ建設シテ舊觀ニ復セントシ、而シテ借家人卽チ窮民ノ內、表店ノ部分モ、亦燒跡ニ立歸リ營業セントスルノ情勢ニシテ、漸ヲ以テ戸々軒ヲ連ネントスルノ冀望アルカ如シ。又裏店ノ借家ニ至リテハ、十中ノ二三ハ、各自ニ支配サレタル地主或ハ差配人等ニ時々來往シテ、互相ノ都合ヲ相談中ノ狀況アレドモ、其他ニ於テハイマタ如何ノ目的タルヲ探問シ得ス。而シテ又橋本町一二丁目ハ、從來遊惰甘貧ノ慣習ヨリ成立セシ一種異樣ノ窮民ニシテ、普通一般ノ貧困者ト大ニ其情態ヲ別ニシ、紛襍賃居、固ヨリ常產アルコトナク、活業時季ニ從テ轉移シ、其營生ノ計タルヤ千態萬狀實ニ縷記スヘカラズ、而シテ皆身外一物ノ財產ト稱スルニ足ルモノアルナシ、故ニ今般ノ如キ火災ニ遇フト雖、他ノ羅災窮民カ悲觀ノ切ナル如キ感覺ナク、其思想敢テ生平ニ異ナルヿナケレハ、此徒等ノ生計ニ就テハ。現時ノ景況將來ノ目的等叙シ難ケレドモ、今皆各所其同類ノ居住セル時ニ寄宿シ、餬口ノ道營ミ居ルコトニ有レ之候。乃チ現今燒込地跡ニ住居、或ハ各區ニ立退居候モノ等、別紙ノ通取調ヘ、併テ目下羅災者ノ景況及二上申一候也。

明治十四年二月八日

神田區長　澤　簡德　印

東京府知事　松田道之殿

燒込地跡住居、又ハ各所立退居候モノ取調書

地主并借地ニテ土藏持ノ者、元地ニ居住ノ分、凡貳百三拾六戸。

類燒後元地ヘ立戻假小屋掛營業致居候者、凡四百戸餘。

區內各町ヘ立退セシ者、凡四百九十戸餘。

日本橋區ヘ立退セル者、凡百貳拾戸餘。

淺草區ヘ立退セル者、凡貳百九拾戸餘。

下谷區ヘ立退セシ者、凡四百七拾戸。

本郷區ヘ立退セシ者、凡二十戸餘。

本所區ヘ立退セシ者、凡百三十戸餘。

右之外凡百戸餘、立退所在通知無レ之分。

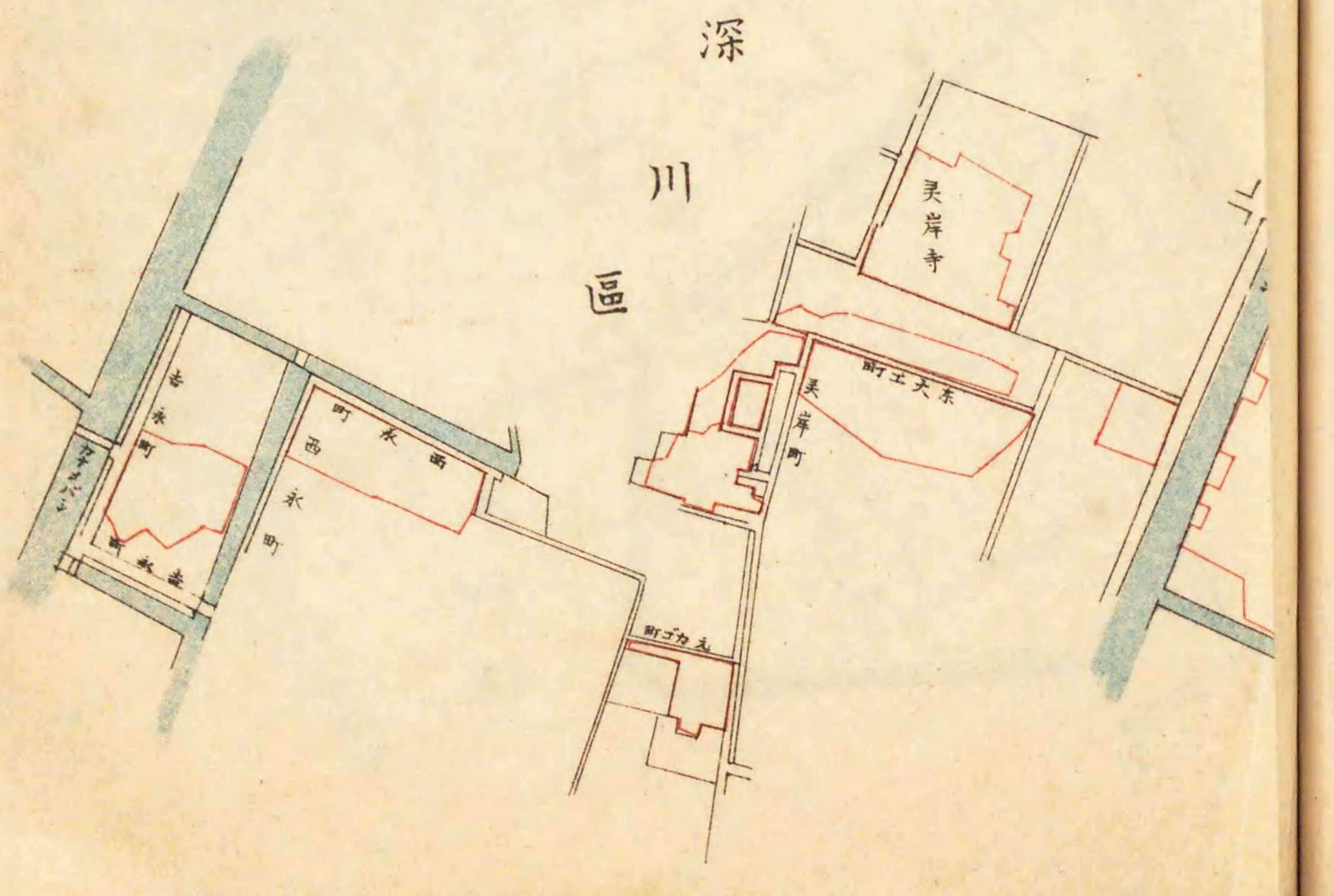
二月十一日大火

五、二月十一日大火　左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十一日（○明治十四年二月）	發火 午后六時 鎭火 零時十分	神田區柳町一番地 石井クラ	火鉢	全燒 板二階家 一戸 類燒 瓦平家 千三百十六戸 同二階家 千百七十戸 板平家 三千百廿三戸 同二階家 千九百六十五戸 塗平家 五戸 同二階家 二戸 瓦平土藏 三十五戸 同二土藏 三十六戸 瓦平物置 六戸 同二物置 一戸 板平物置 八十九戸 同二物置 三戸	七千七百五十一戸	八萬八千三百廿八坪九合八勺	

――消防本署火災報告

圖面



罹災燒跡繪圖及ヒ戸口取調書進達ノ儀ニ付上申

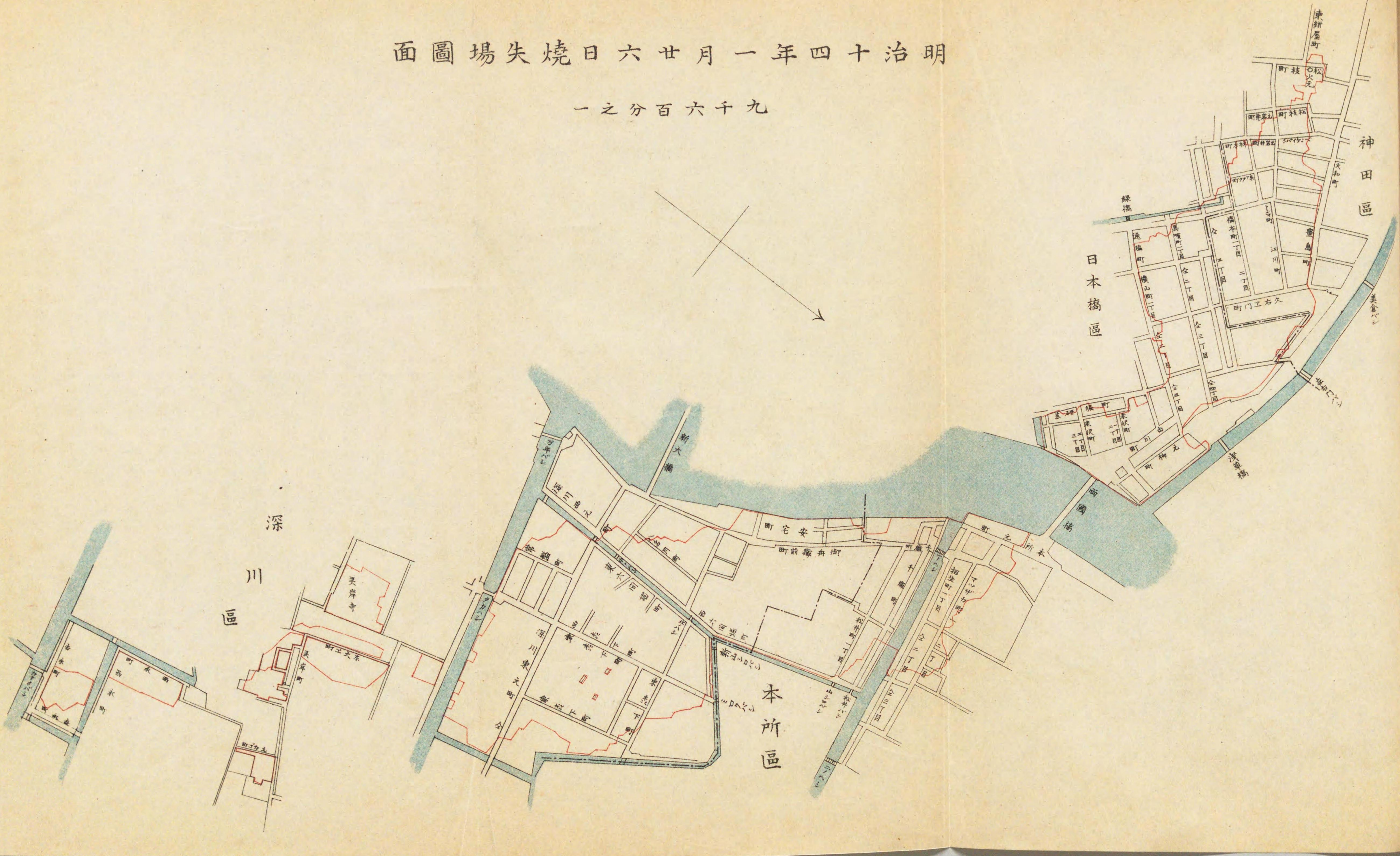
明治十四年二月十一日、西北風威猛烈ナルニ、午後六時頃、神田區柳町一番地平民女髮結渡世石井くら方ヨリ出火シ、直チニ平永町三番地ニ燃エ移リ、其仝町ヲ燒キ拂ヒ、東松下町・東紺屋町ニ延燒スル頃ホヒ風聲益々怒號シ、火ハ風勢ヲ趁テ右左ニ蔓延シ、馬手即チ西方ハ、小柳町十番地ヲ燒初メトシテ、其仝町ヲ烏有トナシ、次デ黑門町十九番地ヨリ同町過半ヲ燒キ、松田町一番地ヨリ八番地ニ及ヒ、夫ヨリ富山町・神田紺屋町・北乘物町西福田町・美倉町（日本橋區界以下三町皆同シ）東今川町・東福田町・材木町等一圓ニ蕩燼シ、風伯火焔ヲ驅テ、日本橋區ニ煽入ス。又弓手即チ北方ハ、柳町ヨリ元柳原町・岩本町ヲ仝燬シ、延テ東龍閑町十九番地ニ至リ、漸ニ東向シテ去月（一月廿六日）一ト回祝融カ一拂シタル大和町・松枝町共ニ仝街、及ヒ復タ元岩井町過半ヲ燒込シテ、以テ西方ヨリセル火道ニ合シ、煙焔混漲シテ、東南ニ進奔ス。此時已ニ午後九時三十分ナリキ。右ハ罹災燒跡繪圖及ヒ戸口取調書進達致シ候儀ニ付、此段上申ニ及ヒ候也。

明治十四年二月十三日　神田區長　澤　簡　德 印

東京府知事　松田道之殿

明治十四年一月廿六日燒失場面圖

九千六百分之一



ハ罹災焼跡繪圖及ヒ戸口取調書進達致シ候儀ニ付、此段上申ニ及ヒ候也。

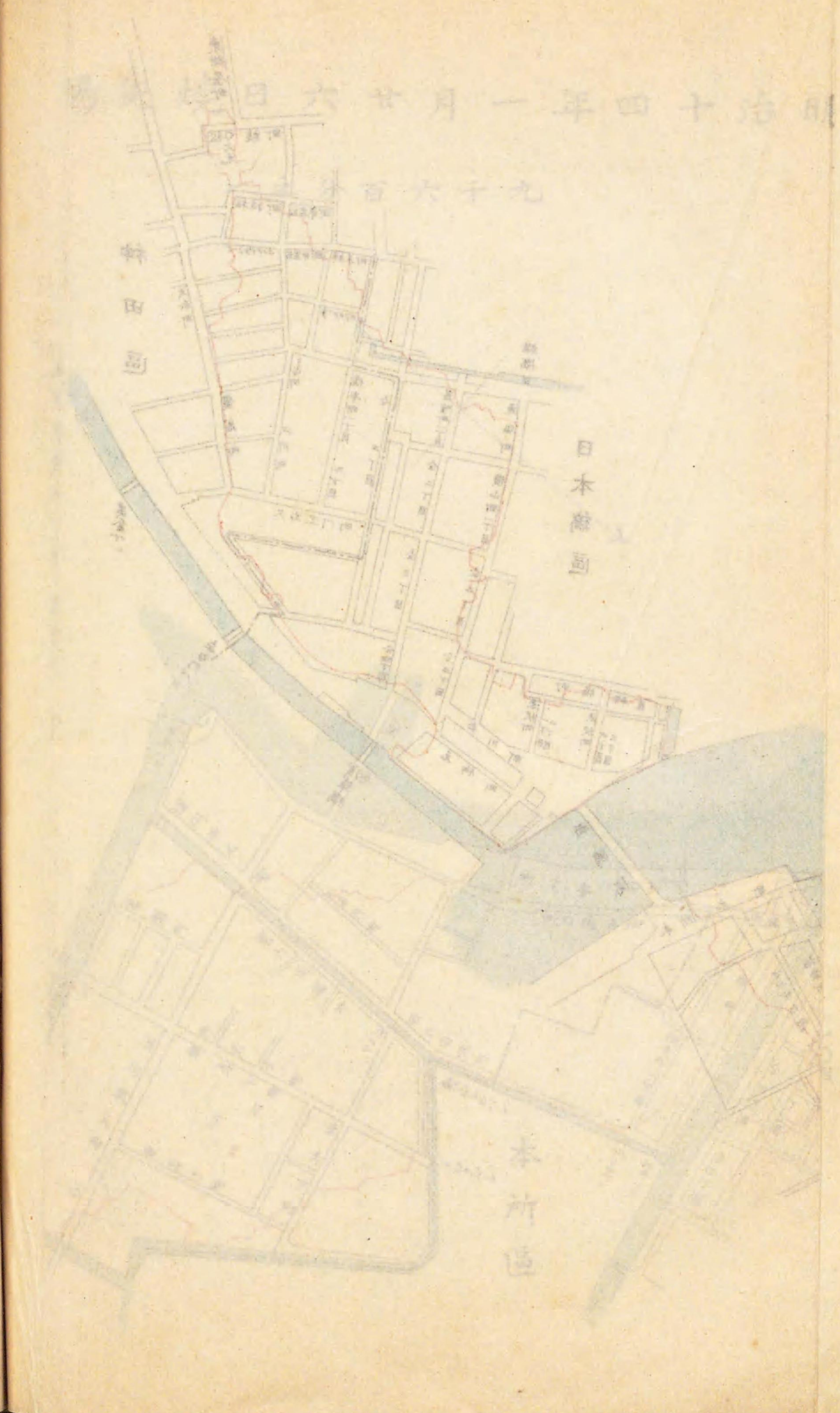
明治十四年二月十三日

神田區長　澤　簡　德　印

東京府知事　松　田道之　殿

町數貳拾壹ヶ町。
全燒戶數四千九百八拾七戶。半燒貳拾四戶。土藏燒失六十九戶。
人員凡壹萬七千貳百〇九人。內男八千六百六人。女八千六百二人。

神田柳町　全燒戶數凡百六拾八戶。人員男三百二人。女貳百九拾八人。土藏燒失壹ヶ所。
神田平永町　全燒戶數貳百四拾九戶。人員男四百四拾八人。女四百四拾五人。
神田小柳町　全燒戶數三百四拾貳戶。人員男三百拾壹人。女三百拾七人。土藏燒失貳ヶ所。
半燒貳戶。
神田元柳原町　全燒戶數三百八拾七戶。人員男六百八拾九人。女六百八拾壹人。土藏半燒貳ヶ所。
美倉町　全燒戶數三拾八戶。人員男六拾八人。女五拾壹人。
神田富山町　全燒戶數三百拾三戶。人員男五百六十壹人。女五百五拾七人。土藏燒失九ヶ所。
松田町　全燒戶數七拾八戶。人員男百三拾八人。女百四拾人。土藏燒失五ヶ所。
岩本町　全燒戶數五百八拾貳戶。人員男千四拾七人。女千〇〇五拾壹人。土藏燒失十ヶ所。半燒六戶。
東松下町　全燒戶數四百九拾壹戶。人員男八百七拾九人。女八百八拾三人。土藏燒失貳ヶ所。



公立小學校壹ヶ所。

東紺屋町　全燒戸數四百拾九戸。人員男七百五拾四人。女七百五拾貳人。土藏燒失七ヶ所。半燒貳戸。

北乘物町　全燒戸數百〇三戸。人員男百七拾壹人。女百七拾三人。半燒三戸。

西福田町　全燒戸數百拾三戸。人員男貳百拾壹人。女貳百〇九人。半燒三戸。

元岩井町　全燒戸數百五拾九戸。人員男貳百九拾六人。女貳百九拾七人。

神田材木町　全燒戸數百拾八戸。人員男百九拾貳人。女百九拾人。

神田松枝町　全燒戸數百六拾壹戸。人員男貳百七拾四人。女貳百七拾八人。半燒壹戸。

神田紺屋町　全燒戸數四百貳拾四戸。人員男七百六拾三人。女七百五拾九人。土藏燒失壹ヶ所。半燒七戸。

神田黑門町　全燒戸數百三拾五戸。人員男貳百四拾四人。女貳百四拾壹人。

東今川町　全燒戸數五拾貳戸、人員男八拾五人。女八拾九人。

東福田町　全燒戸數八拾三戸。人員男百四拾壹人。女百五十人。

神田大和町　全燒百九拾四戸。人員男三百四拾九人。女三百五拾壹人。

東龍閑町　全燒三百七拾八戸。人員男六百八拾壹人。女六百七拾八人。

失火御屆

昨十一日午後第六時頃、神田區内ヨリ失火、本區内ヘ延燒、別紙町々圖面略。○之通燒失致候條、不取敢此段及御屆候也。

明治十四年二月十二日　東京府日本橋區長　舘　興　敬　印

東京府知事　松　田道之　殿

本銀町四丁目・本石町四丁目・鐵砲町・大傳馬鹽町・小傳馬町一丁目・小傳馬町二丁目・小傳馬町三丁目・小傳馬上町・龜井町・大傳馬町一丁目・大傳馬町二丁目・通旅籠町・通油町・堀留町二丁目・田所町・新大坂町・元濱町・長谷川町・富澤町・彌生町・馬喰町一丁目・通鹽町・橘町一丁目・同二丁目・同四丁目・村松町・久松町。

合計貳拾七ヶ町。戸數凡貳千貳百六十八戸。——神田柳町出火書類

同○明治十四年二月。十一日子、晴、大風。

一、大風故在宿。

一、夜入神田柳町ヨリ出火、大火ニ成。　——佐野弘毅日誌

〔參考〕村瀨春雄藏讀賣ニ、

去ル十一日(○明治十四年二月)午后六時三十分、神田區柳町一丁目一番地石井クラ

方ヨリ出火、西北風烈シクシテ、柳町全燒百六十九戸、平永町同二百四十九戸、小柳町同三百四戸、半燒二戸、元柳原町同三百八十九戸、美倉町同三十八戸、富山町三百二十二戸、松田町七十八戸、岩本町五百九十四戸、半燒六戸、東松下町同四百九十二戸、東紺屋町同四百二十六戸、半燒二戸、東乘物町同百三戸、半燒三戸、西福田町同百三十戸、元岩井町同百五十八戸、材木町同百二十八戸、松枝町同百六十一戸、半燒一戸、紺屋町同四百二十四戸、黑門町同百三十五戸、今川町同五十一戸、東福田町同八十一戸、大和町同百九十四戸、龍閑町同三百七十八戸、〆て全燒四千九百八十七戸、內土藏三十三ヶ所、半燒十四戸。日本橋區ニてハ、本銀町四丁目二十戸、本石町四丁目三十戸、鐵砲町百三十戸、大傳馬鹽町百七十戸、同三丁目三百三十四戸、小傳馬上町百六十戸、龜井町二百戸、通油町九十三戸、元濱町二十四戸、新大坂町三十戸、田所町百八十戸、彌生町四十戸、大傳馬町一丁目八十五戸、同二丁目百十戸、富澤町同二十戸、長谷川町同五十戸、堀留町二丁目同四十戸、通鹽町十戸、村松町同十戸、久松町同四十戸、橋町一丁目同四十六戸、同二丁目四十戸、同四丁目同三十戸、通旅籠町同百六戸、馬喰町一丁目十戸、〆て二千二百六十四戸。右神田區日本橋區惣戸數合七千二百五十一戸全燒。內土藏三十三ヶ所半燒十四戸アリ。橋半燒二ヶ所也。

二月十二日火災

六、二月十二日火災　消防本署火災報告左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十二日（○明治十四年二月）	發火午前四時五十分 鎭火同六時四十分	小石川區大塚仲町拾三番地平民池田源吉	火鉢	全燒 板平家一戸 瓦二階家一戸 類燒 瓦平家十一戸 同二階家十一戸 板平家十三戸 同二階家半十一戸 藁平家八、二十一戸 同二階家四戸 瓦平物置二戸 板平物置一戸 藁平物置一戸	七十四戸	六百九十三坪二合二勺	―

二月十七日火災

七、二月十七日火災

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十七日（○明治十四年二月）	發火午前三時卅分 鎭火同五時	四ッ谷區忍町五番地平民小倉常吉	湯屋焚場	全燒 瓦二階家一戸 類燒 瓦平家八戸 板平家百一、半七戸 同二階家廿五、半二戸 同平物置十八戸 同二物置一戸	百六十三戸	千六百九十四坪六合八勺	―

――消防本署火災報告

八、

十五區六郡。火災調上申ニ據レバ、此災燒亡シタルハ、四谷忍町壹番地ヨリ九番地マデニ於テ、全燒家屋四十七戸、四十二棟、物置七棟、半燒家屋二戸二棟、四谷傳馬町三丁目一番地ヨリ八番地マデニ於テ、全燒家屋廿八戸、廿棟、物置三棟、半燒家屋六戸二棟、四谷左門町一番地ヨリ十三番地マデニ於テ、全燒家屋十四戸、十二棟、物置一棟、四谷須賀町二番地ヨリ十六番地マデニ於テ、全燒家屋四十六戸、卅一棟、物置八棟、半燒家屋一戸一棟ナルカ如シ。

二月廿一日大火

八、二月廿一日大火　傳ヘ云フ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿一日（〇明治十四年二月）	發火 午后八時 鎭火 同十一時四十分	四ッ谷區簞笥町二十二番地平民伊東吉五郎	火鉢	瓦二階家全燒 一戸 瓦二土藏類燒 一戸 塗二階家 一戸 瓦平家三百七十一、半三戸 同二階家七十二、半三戸 板平家百七九十三、半廿三戸 同二階家百廿四、半四戸 瓦平土藏 一戸 同二土藏十八、半二戸 瓦平物置 九戸 板平物置 六十三戸 同二物置 二十戸 厩 一戸	千四百九十九戸	二万〇三百六十九坪九合五勺	

――消防本署火災報告

昨廿一日午後第八時、區內四谷簞笥町廿二番地平民伊藤吉五郎ヨリ出火、四谷傳馬町壹丁目・同貳丁目・同新壹丁目・南伊賀町・同尾張町・同鹽町（マヽ）壹丁目・麴町十一丁目・同十二丁目・同十三丁目等、都合十一ヶ町延燒。同十一時三十分鎭火。此戸數千四百餘戸。當役所モ類燒、乍㆑併地所及建家・公證書類・金銀出納書類・戸籍書類・其他緊要ノ書類持出し候。且焚死人モ無㆑之、避難所入之人民差向キ四十人餘有㆑之、失火之原由ハ于㆑今分明不㆑致候。詳細ハ逐次可㆑及㆓上申㆒候得共、不㆓取敢㆒此段及㆓御届㆒候也。

明治十四年二月廿三日　　四谷區長　渡邊清　印

東京府知事　松田道之殿

昨廿一日午後第八時、區內四谷簞笥町廿二番地平民材木渡世伊藤吉五郎納屋ヨリ出火、簞笥町外拾ヶ町ヘ延燒、同第十一時三十分鎭火候。不㆓取敢㆒及㆓御届㆒候未、猶詳細取調候處、別紙明細書ノ通ニ有㆑之候。右之外區內尾張町九番地士族濱野善修ナル者一名、四谷見附桝形內ニ斃死致シ居、其他負傷者等無㆑之、且昨廿二日十一ヶ町燒失ノ旨及㆓御届㆒置候處、右之內七軒町ヘハ延燒セス、都合拾ヶ町ニ有㆑之候條、略圖〇略。相添、此段更ニ及㆓御届㆒候也。

十四年〇明治。二月廿三日　　四谷區長　渡邊清　印

東京府知事　松田道之殿

傳馬町壹丁目（家屋百六十戸。土藏五ヶ所。半燒壹ヶ所。）　尾張町（家屋九十八戸。）　麴町十一丁目（家屋百三十八戸。同半燒壹戸。土藏壹ヶ所。）　麴町十二丁目（家屋百九十二戸。土藏八ヶ所。）　麴町十三丁目（家屋百五十九戸。土藏五ヶ所。半燒壹ヶ所。）　鹽町壹丁目（家屋三十三戸。同半燒九戸。）　簞笥町（家屋二百九戸。同半燒五戸。土藏壹ヶ所。）　南伊賀町（家屋二百五戸。同半燒九戸。土藏壹ヶ所。）　傳馬町新一丁目（家屋百三十一戸。區役所壹ヶ所。警視局附屬建物壹ヶ所。土藏壹ヶ所。）　傳馬町二丁目（家屋三十八戸。同半燒三戸。）

計家屋千三百六十三戸。同半燒二十七戸。區役所壹ヶ所。警視局附屬建物壹ヶ所。土藏二十二ヶ所。同半燒壹ヶ所。人口五千二百八十二人。内男二千九百五人。女二千三〇七十七人。棟數九百二十棟。同物置八十二棟。

――四谷簞笥町出火書類

二月廿二日〇明治十四年。曇。

午後八時四谷區簞笥町廿二番地平民伊藤吉五郎納屋ヨリ失火、御所御近火ニ付、號砲有レ之右ニ付松田知事、田沼・銀林兩少書記官參朝、判任官以下本廳へ出張、午後十一時三十分鎭火。燒失戸數。等區長届書ニ詳ナリ。

前同件ニ付。罹災救助ノ爲メ避難所ヲ四谷學校へ設ケ、官吏出張ス。

――東京府日誌

同〇明治十四年二月。廿一日、戊、曇、風。

一、夜入、四ッ谷傳馬町出火、大火。

――佐野弘毅日誌

〔參考〕四谷簞笥町出火書類〇東京府日誌ニモ見ユ。ニ、

東京府

去十八日昨廿一日四谷區燒失之者へ、御救恤トシテ金千五百圓下賜候事。

明治十四年二月廿二日

宮内省

三月廿一日火災

九、三月廿一日火災　是日神田區兩度ノ火災有リ。曰ク旅籠町火事。曰ク小川町火事。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿一日（〇明治十四年三月）	發火午後二時廿分 鎭火同三時廿分	神田區旅籠町二丁目十七番地平民渡邊藤助	放火ト疑フ者	瓦二階家全燒一戸 瓦二階家類燒八戸 板平家百十戸 同二階家六十六戸	百八十五戸	二千三百四十四坪三合	—

――消防本署火災報告

十五區十六郡。火災調上申ニ據レハ、此災延燒區域、旅籠町一丁目三番地ヨリ七番地迄。廿二番地ヨリ三十七番地迄。同二丁目十四番地ヨリ十九番地迄。金澤町一番地ヨリ十六番地迄。ニ亘ル者ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
廿一日（〇明治十四年三月）	發火午后八時 鎭火同十時	神田區小川町一番地福岡縣士族稲葉正經	ランプ	板平家全燒一戸 瓦平家類燒三十九戸 同二階家十七戸 板平家三十四戸 同二階家一戸	九十二戸	千二百五十九坪七合	—

――消防本署火災報告

十五區十六郡。火災調上申ニ據レハ、此災ノ燒失區域、小川町一番地。四十五戸。駿河臺南甲賀町

八番地。四十七戸。ノ内也。

十五區六郡。火災調上申ニ、明治十四年三月卅一日芝新錢座町近藤眞琴塾舍燒クルコト見ユ。

附記
明治十四年三月卅一日火災

〔附記〕

新錢座町拾番地近藤眞琴住居并塾舍共

一、木造家屋六棟。

此建坪四百九坪二合五勺。但二階之分百貳拾六坪。内瓦葺貳百七拾二坪五合、柿葺十坪七合五勺。

四月一日火災

十、四月一日火災　佐野弘毅日誌ニ、是日南大風ナリシコト見ユ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
一日（○明治十四年四月）	發火午前十一時十分 鎭火同三十分	神田區仲町一丁目十六番地平民別府左兵衞	放火ト疑フ者	瓦平家全燒一戸 瓦平類燒四戸 同二階家廿九戸 板平家四十七戸 同二階家廿九戸	百十戸	千八百六十九坪一合八勺	—

――消防本署火災報告

十五區六郡。火災調上申ヲ見ルニ、此災ノ燒失區域ハ、仲町壹丁目一番地ヨリ十六番地迄。仲町二丁目二番地ヨリ六番地迄。ノ兩町也。

四月四日火災

十一、四月四日火災　消防本署火災報告ヲ抄出ス。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
四日（○明治十四年四月）	發火午前三時 鎭火同四時廿分	淺草區瓦町十三番地平民佐藤半藏	放火ト疑者	瓦二階家全燒一戸 瓦平類燒七戸 同二階家百十八、半三戸 板平家五十四、半一戸 同二階家九、半二戸 瓦二土藏一戸 板平物置一、半一戸	百九十八戸	千九百二十八坪六合	—

十五區六郡。火災調上申ニハ、瓦町全燒家屋百廿七戸・五十一棟、倉庫一棟、物置一棟、半燒家屋四戸・四棟、物置一棟、人口五百三十八人。猿屋町二丁目全燒家屋十五戸・九棟、半燒家屋二戸、人口六十六人。須賀町全燒家屋四十六戸・十六棟、人口百五十六人。總計百九十四戸。八十四棟、人口七百六十人ニシテ、死傷及救助人無シト有リ。

四月十八日火災

十二、四月十八日火災　消防本署火災報告ニ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戸數	合坪數	死傷
十八日（○明治十四年四月）	發火午后八時 鎭火同九時廿分	芝區櫻田本鄉町十一番地平民木下元吉	放火ト疑フ者	瓦二階家全燒一戸 瓦平類燒十六戸 同二階家八戸 柿平家六十戸 同二階家四十八戸	百卅四戸	千四百十五坪六合	—

四月廿二日火災

十三、四月廿二日火災　八、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
廿二日（〇明治十四年四月）	發火 午前二時 鎭火 同四時卅分	下谷區上野元黑門町廿番地平民小糸源四郎	藁灰	全燒 瓦平家 一戶 柿平物置 一戶 類燒 瓦平家 二十三、半一戶 同二階家 廿九、半四戶 柿平家 九十五、半三戶 同二階家 六十七戶 瓦二土藏 一戶 柿平物置 六戶	二百四十一戶	二千五百廿九坪六合六勺	—

——消防本署火災報告

同〇明治十四年四月。廿一日、酉、曇、風、少雨。

一、夜ニ入二時過、下谷元黑門町出火。北大風。

——佐野弘毅日誌

去月廿二日區內上野元黑門町二十番地小原源四郎方ヨリ出火致シ候ニ付、取調候處、別紙之通ニ付、則及御廻致候也。

明治十四年五月十一日

下谷區役所印

東京府火災保險取調掛御中

火災調書

火元

上野元黑門町二十番地居住平民

小糸源四郎

右者四月廿二日午前二時、物置ニ差置候灰ヨリ發火シ、同四時三十分鎭火ス。

全戸燒失　住居家瓦葺二階家廿壹戶、此坪數三百拾八坪。住居家瓦葺平家拾壹戶、此坪數貳百七拾九坪。倉庫壹戶、此坪數五坪。住居家柿葺二階家廿四戶、此坪數百七拾坪三合五勺。住居家柿葺平家廿九戶、此坪數四百二十七坪貳合五勺。物置柿葺平家四戶、此坪數二十六坪。半燒　住居家瓦葺二階家壹戶、此坪數八坪五合。

上野北大門町

全戸燒失　住居家瓦葺二階家拾壹戶、此坪數百拾八坪貳合五勺。住居家瓦葺平家拾貳戶、此坪數百二十七坪壹合六勺。住居家柿葺二階家三拾五戶、此坪數貳百八拾壹坪四合。住居家柿葺平家四拾貳戶、此坪數三百〇八坪。物置平家壹戶、此坪數四坪。半燒　住居家平家壹戶、此坪數七坪。

池之端仲町

全戸燒失　住居家柿葺二階家壹戶、此坪數拾五坪。半燒　住居家瓦葺二階家壹戶、此坪數拾貳坪。

下谷數寄屋町

全戸燒失　住居家瓦葺二階家六戶、此坪數五拾八坪。住居家瓦葺平家壹戶、此坪數拾貳坪五合。住居家柿葺二階家八戶、此坪數三拾六坪五合。住居家柿葺平家廿四戶、此坪數貳百五拾六坪四合六勺。物置柿葺平家二戶、此坪數拾坪。半燒　住居家瓦葺二階家二戶、此坪數拾七坪二合五勺。住居家柿葺平家三戶、此坪數三拾貳坪。

——十五區六郡火災調上申

附記　明治十四年六月火災

〔附記〕明治十四年六月十六日神田區今川小路三丁目火有リ、卅七戶四百九坪四合ヲ燒ク、事、消防本署火災報告ニ記ス。

八月廿八日火災

十四、八月廿八日火災　消防本署火災報ニ、左ノ如ク見ユ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
廿七日（〇明治十四年八月）	發火 午前一時 鎭火 同二時卅分	本郷區西竹町七番地平民高山ヤヱ	蠟燭	全燒 瓦平家 一戶 類燒 瓦平家 九、半一戶 同二階家 一戶 柿平家 六十八、半五戶 同二階家 五、半三戶 瓦二土藏 六戶 柿平物置 二戶	百戶	八百十六坪五合三勺	—

十五區六郡。火災調上申ニ據レバ、此時本鄕西竹町二番地ヨリ十一番地マテニ於テ、家屋五十二戶・三十三棟、土藏一戶・一棟、全燒シ、家屋六戶・三棟、半燒シ、本鄕東竹町四番地ヨリ十番地マテニ於テ、家屋廿三戶・十九棟、土藏二戶・六棟、納屋二戶・二棟、全燒シ、本鄕元町一丁目四十二番地ヨリ四十五番地マデニ於テ、家屋八戶・八棟、全燒シ、二戶・一棟、半燒ス。

十月五日火災

十五、十月五日火災　本鄕區湯島天神町二丁目家屋四十一戶・卅六棟、倉庫二戶、全燒シ、家屋六戶・四棟、半燒シ、湯島切通町家屋十七戶・十七棟、全燒シ、二戶・二棟半燒ス。事、記シテ十五區六郡。火災調上申ニ在リ。消防本署火災報告ニハ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
五日（○明治十四年拾月）	發火午前二時五十分 鎭火同四時卅分	本鄕區湯島天神町二丁目六番地平民石川彌七	藁灰	全燒 瓦二階家一戶 類燒 瓦平家十戶 同二階家十三、半六戶 柿平家廿五、半二戶 柿二階家八戶 瓦二土藏二戶	六十七戶	九百四十六坪五合九勺	—

十一月十九日火災

十六、十一月十九日火災　消防本署火災報告左ノ如シ。

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
十九日（○明治十四年十一月）	發火午前十一時廿分 鎭火午后一時	神田區多町二丁目五番地平民山本茂七	放火	全燒 柿二階家一戶 類燒 瓦平家一戶 同二階家廿、半十戶 柿平家四十七、半六戶 同二階家八、半六戶	九十九戶	六百六坪三合	—

十五區六郡。火災調上申ニ據レバ、此災多町二丁目十番地ヨリ十二番地迄、及廿四五番地。及通新石町八十番地ヨリ廿六番地迄。ノ內也。

十二月十五日火災

十七、十二月十五日火災　消防本署火災報告ニ據レバ、

月日	發火鎭火時間	發火地名	火起原由	燒失家屋區分	合戶數	合坪數	死傷
十五日（○明治十四年十二月）	發火午前四 鎭火	下谷區坂本町三丁目十四番地平民日形松藏	不詳	全燒 柿二階家一戶 類燒 瓦平家卅二、半三、學一戶 同二階家二十八戶 柿平家五十五、半十六戶 同二階家二戶	百三十八戶	九百九十二坪九合一勺	—

十五區六郡。火災調上申ハ、此災ヲ午前三時三十分出火、同五時鎭火トシ、下谷坂本町三丁目、全燒百十六戶、半燒十五戶、○內下谷小學校ヲ含ム。四丁目、半燒三戶、下谷簞笥町、全燒二戶、半燒一戶ト報ス。

〔參考〕　理科會粹所載東京大學教授山川健次郞原撰東京府下火災錄中ニ云

フ、

東京府ハ、往時江戸ト稱シ、徳川氏基ヲ開クノ前ハ、漁村蛋戸ノ散存セル外ハ、都テ卑濕ノ原野、卽チ武藏野ノ一部分タルニ過キズ。天正十八年徳川氏ノ都ヲ定メテヨリ後チ、諸侯競フテ邸宅ヲ起シ、商估亦四方ヨリ輻輳シ、數年ヲ出テサルニ、早ク既ニ一大都府トナレリ。天正十八年ヨリ十壹年ヲ經、慶長六年ニ至リ、江戸ニ於テ大火災ノアリシ事、古記ニ見エタレモ、其詳細ハ今知リ難シ。其ヨリ十七年ヲ經、元和四年ニ尾州ノ藩邸ヨリ失火シ、愛宕下ニ至ルトイフ事、亦古記ニ見ユ。按スルニ當時尾侯ノ邸ハ今ノ代官町ノ邊ナレバ、北風ニテ愛宕下マテ燒亡セシト見ルトキハ、頗ル大火ナリシヲ知ルヘシ。然レモ其詳況亦知ルニ由ナシ。爾後二十六年ヲ經テ、寛永十八年正月、桶町ヨリ失火シ、新橋マテ燒亡シ、町數九十七、人家八千軒餘灰燼トナルト傳ヘリ。

以上ノ三大火災ハ、斯ク倶ニ明瞭ヲ闕クヲ以テ、次表中ニハ之ヲ省ケリ。第一表ニハ明曆三年ヨリ明治十四年ニ至ル二百二十四年ノ間、長サ十五町以上ニ達スル東京ノ大火災九十三ヲ收ム。凡テ火災ノ大小ヲ計ルニハ、其燒亡セシ家屋ノ坪數ヲ以テスルヲ當然トスト雖モ、昔時火災ノ坪數今得テ計ル可カラス。是ヲ以テ其實廣サヲ以テスレハ、甚大ナル火災モ長サ十五町ニ上ラザレハ表中載セズ。之ニ反シ其實坪數ヲ以テ算スレハ甚ダ小ナル火災モ、道筋延ヒテ長サ十五町ヨリ上レハ表中ニ收ル所トナス。是故ニ小火災トシテ表ニ省クモノモ、或ハ大火災ナルアリ、又大トシテ表ニ收ルモノモ、或ハ小ナル事アル可シ。然レモ此算方ハ已ムヲ得サル所ニシテ、假ヒ實況ヲ得ザルモ亦以テ其梗概ヲ知ルニ足ル可シ。蓋シ茲ニ火災ノ長サト云フハ、東京圖ニ於テ火元ヨリ一直線ヲ引キテ、燒亡區域中最遠ナル燒留リノ點ニ至ルナリ。又プロトラクトル（圖中ノ角度ヲ計ル器ナリ。）ヲ以テ、其線ノ東西或ハ南北ニ偏ク何度ナルヲ計リ、八點位ノ中其最モ近キモノヲ其方向トス。（例ヘハ東北ニ二十五度北ニ二十度偏クトキハ、其方向ヲ北トナスカ如シ。）第一表第一縱行ハ火災番號、第二ハ紀元年ノ新曆卽チ大陽曆月日（蓋シ今火災ト氣象トノ關係ヲ比較セントスルニ、既ニ氣象ノ觀測ハ新曆ニ據リタレハ、火災ノ月日モ新曆ナラサレハ比較シ難キヲ以テ改算スルナリ。）第三縱行ハ舊曆年號月日、第四縱行ハ方向、第五縱行ハ其長サ何町ナルヲ記ス。卷末ニ附スル東京略圖中ニ見メ

ス數多ノ直線ハ第一表ニ據リ、各火災ノ火元ヨリ其止ル處ニ引ケルモノナレハ、其方向ト長サト一目シテ瞭然タル可シ。今圖ニ就テハ、北及西北ヨリ來ル所ノ火災最モ多ク、實ニ全數ノ三分ノ二ニ居リ、而シテ其府ノ東南隅卽チ佃島靈巖島邊ニ至リテ止ルモノ多キヲ見ル可シ。蓋シ北及西北風ノ多キト、府下ノ人家ノ東南ニ於テ最モ稠密ナルヲ以テナリ。又圖中直線ノ最モ多ク相交接スル點ハ、火災ノ最モ多キ區域ナリ。圖ヲ按スルニ、日本橋ノ北ナル一地方ニ於テ交接線ノ最モ多キヲ見ル。則チ大火災ノ最モ多キ區域ナリ。但シ東南隅ニ於テハ、假令火災アルモ、既ニ述ルカ如ク北又西北ノ風多キカ故ニ、直チニ海濱ニ至テ自ラ熄ミ、他ニ蔓延スルコナケレバ、其實靈巖島近傍ハ却テ本府中火災ノ最ニ居ルモ計リ難ケレ𪜈、今小火トシ算セサルヲ以テ、其火災ノ數ハ日本橋北ナル地方ヨリモ少キヲ致ス。圖中最長ノ火線ハ、第五十六號ナリ。第一表ヲ按スルニ、紀元二千四百三十二年四月一日卽チ安永元年二月二十九日正午目黑行人坂大圓寺ヨリ失火シ、直チニ北ニ向テ瀰蔓シ、城東ノ大名小路邊ヲ一圓燒キ拂ヒ、下谷區ヨリ遂ニ千住驛マテ燒亡セリ。然ルニ翌日ニ至リ、此火ノ未タ全ク消エサルニ、